

## 導入ガイド

---

ESPRIMO Edge Computing Edition Z0110/W

# 目次

本書をお読みにする前に	5
このマニュアルの目的	5
安全にお使いいただくために	5
本書の表記	5
Windows の操作	6
商標および著作権	6
<b>第 1 章 各部名称</b>	
1 エッジコンピューティングデバイス前面	8
2 エッジコンピューティングデバイス背面	9
アクセスポイント部分	9
コンピューター部分	11
3 VESA マウント	12
<b>第 2 章 概要</b>	
1 本製品でできること	14
アプリについて	14
ハードウェアについて	14
2 本製品の機能について	15
基本機能 - 管理画面	15
基本機能 - データキャッシュ機能	16
基本機能 - 状態監視	17
基本機能 - 運用管理ツール	17
基本機能 - 通知	17
3 ストレージ内のアプリについて	18
4 アプリのアップデート	19
インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュール	19
アプリアップデートパック V1.0.2	19
アプリアップデートパック V1.0.3	19
アプリアップデートパック V1.0.4	19
各アップデートのダウンロード	19
5 インストール補助ツール	19
<b>第 3 章 セットアップフロー</b>	
1 セットアップフロー	21
<b>第 4 章 セットアップ</b>	
1 基本機能 - 初期設定 (製品本体)	23
インストール補助ツールとアプリアップデートパックのダウンロード	23
製品を設置する	23
ケーブルを接続する	26
Windows のセットアップ	28
LAN ケーブルを接続する	29
電源の入れ方/切り方	30
Windows サインイン	30
BIOS パスワードの設定	30
ME 機能の有効化	30
ME セットアップ初期パスワードの変更	31
ネットワークの設定	33
インストール補助ツールを使用する (初期設定)	56
基本アプリのインストールと設定	56
メンテナンス機能のフォルダーの配置	62
セキュリティ除外設定	62
ファイアウォールの設定	63

メンテナンス機能の設定ファイル変更	80
メンテナンス機能各種サービスの追加	81
管理画面の初期パスワード変更	82
<b>2 基本機能 - 初期設定 (業務端末/マスター端末)</b>	<b>83</b>
エクスプローラーの設定	83
プロキシの設定	83
WindowsUpdate の通信がプロキシサーバーを使用する設定 (マスター端末の場合)	92
WindowsUpdate の通信がプロキシサーバーを使用する設定 (業務用端末の場合)	92
イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する設定	93
インターネット上の Windows Update に接続しない設定	95
配信の最適化を OFF にする設定	97
<b>3 基本機能 - データキャッシュ機能 (製品本体)</b>	<b>99</b>
インストール補助ツールを使用する (インターネットキャッシュ機能)	99
インターネットキャッシュ機能のインストールと設定	99
インストール補助ツールを使用する (アップデート情報取得モジュール)	125
アップデート情報取得モジュールのインストールと設定	125
<b>4 基本機能 - データキャッシュ機能 (業務端末/マスター端末)</b>	<b>129</b>
インターネットキャッシュ機能設定	129
<b>5 基本機能 - 状態監視 (製品本体)</b>	<b>130</b>
インストール補助ツールを使用する (動作状態監視ツール)	130
動作状態監視ツールのインストール	130
動作状態監視ツールの設定	131
お手入れナビのインストール	133
お手入れナビの設定	133
<b>6 基本機能 - WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール</b>	<b>134</b>
運用管理ツールのインストールと設定	134
<b>7 アプリアップデートパック V1.0.4 (製品本体)</b>	<b>135</b>
アプリアップデートパック V1.0.4 のコピーと解凍	135
アプリアップデートパック V1.0.4 のインストール	135

## 第 5 章 セットアップの確認とバックアップ

<b>1 基本機能 - データキャッシュ機能</b>	<b>137</b>
インターネットキャッシュ機能	137
アップデート情報取得モジュールの確認	137
<b>2 基本機能 - 状態監視</b>	<b>137</b>
動作状態監視ツール	137
お手入れナビ	137
<b>3 基本機能 - 運用管理ツール</b>	<b>138</b>
運用管理ツール サーバ	138
運用管理ツール 管理コンソール	138
運用管理ツール クライアント	138
<b>4 アプリアップデートパック</b>	<b>138</b>
<b>5 バックアップ</b>	<b>138</b>

## 第 6 章 BIOS

<b>1 BIOS セットアップ</b>	<b>140</b>
<b>2 BIOS セットアップの操作のしかた</b>	<b>141</b>
BIOS セットアップを起動する	141
BIOS セットアップ画面	141
各キーの役割	141
BIOS セットアップを終了する	142
起動メニューを使用する	142
<b>3 設定事例集</b>	<b>143</b>
BIOS のパスワード機能を使う	143
起動デバイスを変更する	146
セキュリティチップの設定を変更する	146

Wake On LAN を有効にする	147
イベントログを確認する	148
イベントログを消去する	148
ご購入時の設定に戻す	148
<b>4 BIOS セットアップメニュー詳細</b>	<b>149</b>
メインメニュー	149
詳細メニュー	150
セキュリティメニュー	153
電源管理メニュー	154
イベントログメニュー	156
起動メニュー	156
終了メニュー	157
<b>5 ME BIOS Extension セットアップメニュー詳細</b>	<b>158</b>

## 第7章 トラブルシューティング

<b>1 トラブル発生時の基本操作</b>	<b>161</b>
状況を確認する	161
以前の状態に戻す	161
トラブルシューティングで調べる	161
診断プログラムを使用する	162
<b>2 トラブルシューティング</b>	<b>163</b>
起動・終了時のトラブル	163
Windows・ソフトウェア関連のトラブル	163
Windows Update 連携のトラブル	164
管理画面のトラブル	165
インターネットキャッシュ機能のトラブル	166
ハードウェアのトラブル	167
エラーメッセージ一覧	169
<b>3 それでも解決できないときは</b>	<b>171</b>
ファームウェアと BIOS のアップデート	171
問い合わせ先	171

## 第8章 付録

<b>1 仕様</b>	<b>173</b>
ESPRIMO Edge Computing Edition Z0110/W	173
CPU	175
アプリの動作環境	176
<b>2 アプリのアンインストール</b>	<b>178</b>
アンインストールの前の設定	178
お手入れナビのアンインストール	178
WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール	178
<b>3 VESA マウントの取り付け／取り外し</b>	<b>179</b>
VESA マウントの取り外し	179
底面カバーの取り付け	180
VESA マウントの取り付け	181
<b>4 製品本体の廃棄時の注意</b>	<b>183</b>
製品廃棄時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意	183
専用ソフトウェアによるデータ消去	183
<b>5 廃棄／リサイクル</b>	<b>185</b>



## 本書をお読みにする前に

### このマニュアルの目的

本製品の機能紹介、システム運用開始までの流れ、本製品の設置方法、アプリのインストールや設定方法など本製品をお使いいただくまでに必要なセットアップ情報を説明しています。また、BIOS 設定などの技術情報のほか、導入時のトラブルが発生したときの対処を説明しています。このマニュアルは、本製品のシステム設計担当者とシステム導入担当者を対象としており、コンピューター、OS、およびネットワークについて基本的な知識を有している方がご覧になることを前提としています。

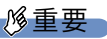

### 安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みにになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

### 本書の表記

#### 本書の記号

本書に記載されている記号には、次のような意味があります。

 <b>重要</b>	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

#### キーの表記と操作方法

本書中のキーの表記は、キーボードに書かれているマークを記述するのではなく、説明に必要な文字を使い、次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

#### 連続する操作の表記方法

本書中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

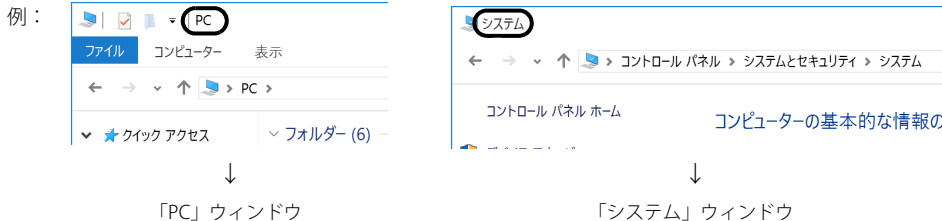
例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイスマネージャー」をクリックする操作



「システムとセキュリティ」→「システム」→「デバイスマネージャー」の順にクリックします。

#### ■ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。



#### 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。本文中のアプリの画面例は、Windows 10 の場合の設定例です。Windows 8.1 の場合と異なることがあります。また、お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

#### 製品の呼び方

本書で使用する用語を次に説明します。

用語	意味
管理者端末	運用管理ツールを操作するための端末
マスター端末	Windows Update を最初に適用する端末

#### 製品の呼び方

本書では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本書の表記		
ESPRIMO Edge Computing Edition Z0110/W	エッジコンピューティングデバイス		本製品
Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSB	Windows 10 IoT Enterprise	Windows 10	Windows
Open Java Development Kit	OpenJDK		




## Windows の操作

---

### アクションセンター (Windows 10) / クイック設定 (Windows 11)

---

アプリからの通知を表示するほか、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 画面右下の通知領域にある   または  をクリックします。  
画面右側に「クイック設定」または「アクションセンター」が表示されます。

### 「コントロールパネル」ウィンドウ

---

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

#### ■ Windows 10 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

#### ■ Windows 11 の場合

- 1 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。

### 「コマンドプロンプト」ウィンドウ

---

次の手順で「コマンドプロンプト」ウィンドウを表示させてください。

#### ■ Windows 10 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」の順にクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」を右クリックし、「その他」→「管理者として実行」をクリックします。

#### ■ Windows 11 の場合

- 1 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順にクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」を右クリックし、「その他」→「管理者として実行」をクリックします。



### ユーザーアカウント制御

---

本書で説明している Windows の操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前に Windows が表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

### 通知領域のアイコン

---

デスクトップ画面右下の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  または  をクリックします。

### 商標および著作権

---

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel SpeedStep、Intel Unite、Intel vPro は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Wi-Fi, the Wi-Fi CERTIFIED logo, WPA, WPA2 and Wi-Fi Protected Setup are trademarks or registered trademarks of Wi-Fi Alliance.

Java および OpenJDK は、Oracle および/またはその関連会社の商標または登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。

メンテナンス機能 / 動作状態監視ツール / インターネットキャッシュ機能 / アップデート情報取得モジュールは、富士通クライアントコンピューティング株式会社の製品です。著作権は富士通クライアントコンピューティング株式会社にあります。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2020

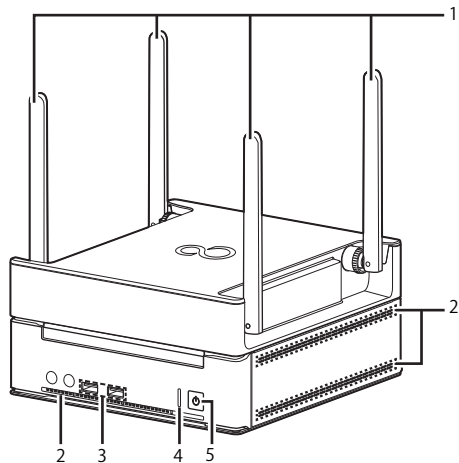
# 1

## 第 1 章 各部名称

各部の名称と働きについて説明します。

1. エッジコンピューティングデバイス前面.....	8
2. エッジコンピューティングデバイス背面.....	9
3. VESA マウント.....	12

## 1. エッジコンピューティングデバイス前面



- 1 外部アンテナ**  
無線電波を受信／送信します。
- 2 吸気孔**  
冷却用の空気を取り込むための穴です。
- 3 USB3.0 コネクタ (USB)**  
USB 対応周辺機器を接続します。本製品の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
- 4 ステータスランプ**  
本製品の状態を表示します。

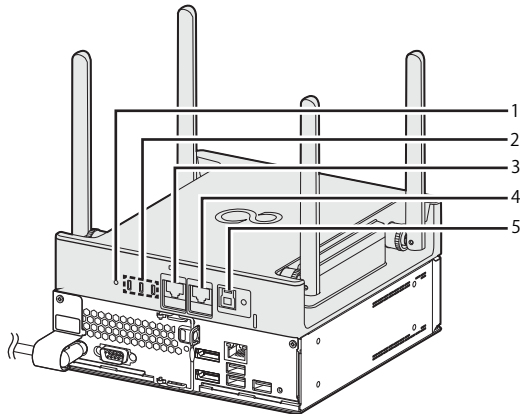
モード	本製品の状態	ステータスランプ
ステータス表示	状態監視機能が異常を検出したとき	点灯
	正常動作時	消灯

- 5 電源ボタン／電源ランプ (Power)**  
製品本体の電源を入れます。また、本製品の状態を表示します。

LED ランプ	本製品の状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

## 2. エッジコンピューティングデバイス背面

### アクセスポイント部分



(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

#### 1 RESET ボタン

アクセスポイントを再起動したり、アクセスポイントの設定をご購入時の状態に戻したりします。

- ・ 5秒未満ボタンを押す  
アクセスポイントが再起動します。
- ・ 5秒以上ボタンを押す  
アクセスポイント状態ランプが全部消え、アクセスポイントの設定をご購入時の状態に戻ります。

#### 2 アクセスポイント状態表示ランプ

アクセスポイントの状態を表示します。

アクセスポイントの状態		LED ランプ		
		Ready	2.4G	5G
起動中		点滅 <sup>注1</sup>	消灯	消灯
正常稼働	2.4GHz帯のみ有効	点灯	点灯 <sup>注2</sup>	消灯
	5GHz帯のみ有効		消灯	点灯 <sup>注2</sup>
	2.4GHz帯/5GHz帯有効		点灯 <sup>注2</sup>	点灯 <sup>注2</sup>
緊急モード 有効	2.4GHz帯のみ有効	点滅 <sup>注3</sup>	点灯 <sup>注2</sup>	消灯
	5GHz帯のみ有効		消灯	点灯 <sup>注2</sup>
	2.4GHz帯/5GHz帯有効		点灯 <sup>注2</sup>	点灯 <sup>注2</sup>
エラー発生	2.4GHz帯のみ有効	点滅 <sup>注4</sup>	点灯 <sup>注2</sup>	消灯
	5GHz帯のみ有効		消灯	点灯 <sup>注2</sup>
	2.4GHz帯/5GHz帯有効		点灯 <sup>注2</sup>	点灯 <sup>注2</sup>
電源オフ	2.4GHz帯のみ有効	消灯	消灯	消灯
	5GHz帯のみ有効		消灯	消灯
	2.4GHz帯/5GHz帯有効		消灯	消灯

注1：1秒間隔で点滅します。

注2：データを送受信中の場合は点滅します。

注3：3秒間隔で点滅します。

注4：0.5秒間隔で点滅します。

#### 3 WAN コネクタ

LANケーブルで接続します。  
LEDの状態は次のとおりです。



左LED 右LED

	左 LED (Link/Act)	右 LED (Speed)
1000Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	オレンジ色点灯
100Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	緑色点灯
10Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	消灯

注：データ転送中は緑色点滅

#### 4 LAN コネクタ

コンピューター部分と LAN ケーブルで接続します。なお、ご購入時に LAN ケーブルは接続されています。ご使用時に必要ですのでケーブルは取り外さないでください。  
LED の状態は次のとおりです。



左LED 右LED

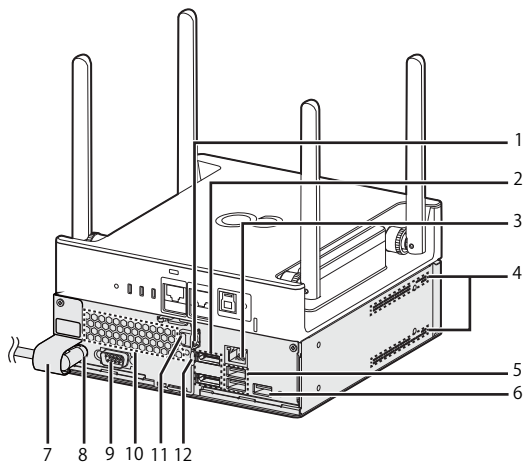
	左 LED (Link/Act)	右 LED (Speed)
1000Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	オレンジ色点灯
100Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	緑色点灯
10Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	消灯

注：データ転送中は緑色点滅

#### 5 電源供給用 USB コネクタ

コンピューター部分の電源供給用 USB コネクタに専用ケーブルで接続します。なお、ご購入時に専用ケーブルは接続されています。ご使用時に必要ですのでケーブルは取り外さないでください。

## コンピューター部分



(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

### 1 セキュリティ施錠金具

市販の鍵を取り付けます。セキュリティ施錠金具の穴径は φ6mm です。

### 2 DisplayPort コネクタ

ディスプレイの DisplayPort 信号ケーブルを接続します。  
HDMI 形式のディスプレイを接続する場合は、添付の DP-HDMI 変換アダプタが必要です。

### 3 LAN コネクタ

コンピューター部分とアクセスポイント部分を LAN ケーブルで接続します。なお、ご購入時に専用ケーブルは接続されています。ご使用時に必要ですのでケーブルは取り外さないでください。  
LED の状態は次のとおりです。

左LED 右LED



状態		左 LED (Link/Act)	右 LED (Speed)
起動時	1000Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注1</sup>	オレンジ色点灯
	100Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注1</sup>	緑色点灯
	10Mbps で Link を確立	緑色点灯 <sup>注1</sup>	消灯
スリープ 休止状態 電源 OFF	Wake on LAN 有効	緑色点灯 <sup>注1</sup>	消灯 <sup>注2</sup>
		緑色点灯 <sup>注1</sup>	緑色点灯 <sup>注3</sup>
		緑色点灯 <sup>注1</sup>	オレンジ色点灯 <sup>注4</sup>
	Wake on LAN 無効	消灯	消灯

注1：データ転送中は緑色点滅

注2：10Mbps 優先

注3：100Mbps 優先

注4：速度最低ではない

### 4 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

### 5 USB3.0 コネクタ

USB 対応周辺機器を接続します。本製品の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

### 6 電源供給用 USB コネクタ

アクセスポイント部分の電源供給用 USB コネクタに専用ケーブルで接続します。なお、ご購入時に専用ケーブルはネジ止めされています。他の USB 機器を接続すると、故障の原因となります。ご使用時に必要ですので、ケーブルは取り外さないでください。

### 7 電源ケーブルカバー

電源ケーブルの抜き差しを防止するカバーです。なお、電源ケーブルカバーや電源ケーブルを取り外さないでください。

### 8 インレット

電源ケーブルを接続します。なお、ご購入時に電源ケーブルは接続されています。電源ケーブルカバーや電源ケーブルを取り外さないでください。

### 9 シリアルコネクタ

### 10 排気孔

製品内部の熱を外部に逃がします。

### 11 盗難防止用ロック取り付け穴

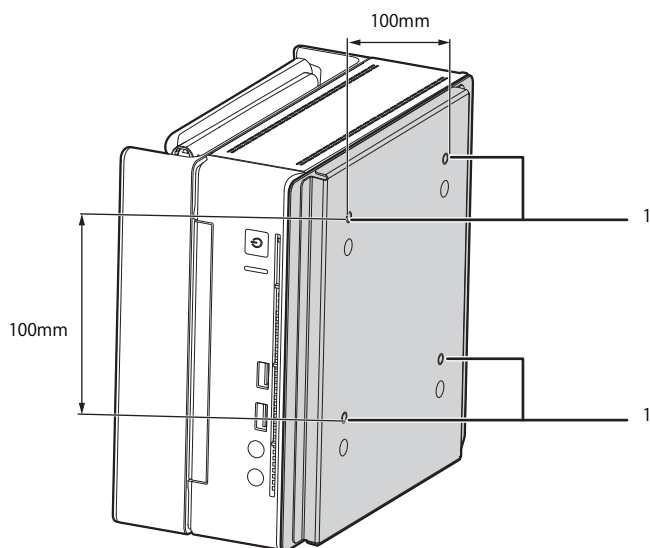
盗難防止用ケーブルを取り付けます。

### 12 ロック金具

コンピューター部分本体と底面のカバーを留めます。

### 3. VESA マウント

カスタムメイドオプションで VESA マウントを選択した場合、本製品の底面に VESA 対応のアタッチメントが取り付けられています。



#### 1 壁掛け金具固定用ネジ穴（4ヶ所）

VESA FDMI 規格対応の壁掛け金具を取り付けるための穴です。

#### 重要

▶必ずお守りください

- ・取り付け方法および壁掛けキットの設置に際しては、壁掛けキットの取扱説明書に従ってください。
- ・壁掛け設置には特別な技術が必要です。必ず専門の取付工事業者へご依頼ください。
- ・本製品の修理依頼時は、保守員に修理作業を依頼する前に、あらかじめお客様で専門の取付業者にご依頼のうえ、壁から本製品を取り外した状態にておいてください。

#### POINT

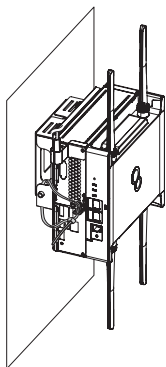
- ▶VESAマウントを取り外して使用する場合は、添付の底面カバーを取り付けてください。詳しくは、「VESAマウントの取り付け/取り外し」(→P.179)をご覧ください。

#### 壁掛けキットの取り付け方法

本製品の VESA マウントは、VESA FDMI 規格対応の壁掛け金具に取り付けることができます。

#### 重要

- ▶本製品に取り付ける壁掛け金具は、VESA FDMI規格に適合したものをお選びください。
- ▶本製品に取り付けられる壁掛け金具は、次の条件を満たしている必要があります。
  - ・取り付け部分のネジ穴の間隔が 100mm×100mm である
  - ・M4×10mm のネジで、取り付けができる
  - ・8kg の重さに耐えられる
- ▶ネジは、M4×10mm を必ず使用してください。
- ▶ネジは最後までしっかりと締めてください。取り付け方が不十分な場合、外れて落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因となります。
- ▶壁掛け金具を取り付けおよび設置するときは、壁掛け金具のマニュアルをご覧ください。
- ▶壁掛け金具と本体を固定する固定バンドを2本添付しています。壁掛け金具を取り付けおよび設置するときは、固定バンドを取り付けてください。固定バンドの取り付けについては、「壁掛け金具への取り付け」(→P.182)をご覧ください。
- ▶壁掛け金具および壁への取り付け、取り外しは、アンテナを折りたたんだ状態で行ってください。
- ▶エッジコンピューティングデバイスの向きが下図のようになるように（本製品の銘版ラベルが下から見えるように）取り付けてください。



- ▶壁に取り付けた後は、上図のようにアンテナを広げてください。折りたたんだままですとアンテナの性能に影響が出る可能性があります。
- ▶電源ケーブルが突っ張るなど、本製品に負荷がかかる設置状態での使用はお控えください。
- ▶天井からのつり下げには対応していません。



# 2

## 第 2 章 概要

本製品の概要について説明します。

1. 本製品でできること .....	14
2. 本製品の機能について .....	15
3. ストレージ内のアプリについて .....	18
4. アプリのアップデート .....	19
5. インストール補助ツール .....	19

## 1. 本製品でできること

### アプリについて

本製品に搭載されているアプリは、大きく分けて2種類があります。

- Windowsの更新プログラムをキャッシュするアプリ
- エッジコンピューティングデバイス・マスター端末を管理/メンテナンスする管理者を支援するアプリ

種別	アプリ名称	機能概要	機能詳細
アプリの管理 / 操作	管理画面	本製品に付属するアプリの操作をするためのUI機能	→ P.15
	動作状態監視ツール	トラブル発生時の自動修復機能と通知機能	→ P.17
メンテナンス (本製品自身)	お手入れナビ	通風孔のお手入れの時期と装置内部が高温状態であることを通知する機能	→ P.17
	インターネットキャッシュ機能	WSUSサーバーのWindows Update ファイルをキャッシュする機能	→ P.16
データキャッシュ	アップデート情報取得モジュール	管理画面のキャッシュ一覧上で WindowsUpdate の更新プログラムのタイトル欄に表示する KB (Microsoft Knowledge Base) 番号を取得する機能	→ P.16
	管理ツール	運用管理ツール	本製品の運用管理 (稼働の監視、保守作業) する機能 Windows Update のキャッシュを自動で作成する機能
通知	動作状態監視ツール (メール通知設定)	動作状態監視ツールの診断結果を送信指定したメールアドレスに自動送信する機能	→ P.17
	運用管理ツール (メール通知設定)	運用管理ツールが、システム異常時にアラートを検知した場合にアラートメールを送信したり、スケジュール機能でスケジュールが完了した場合に結果メールを送信したりする機能	→ P.17

### ハードウェアについて

#### アクセスポイント

本製品は、エッジコンピューティングデバイス本体にアクセスポイント機能を基本機能として搭載しています。本製品のアクセスポイント機能を使用することで、安定した通信と安心のセキュリティを提供します。

- 無線規格 IEEE802.11a/b/g/n/ac 4x4 MIMO の搭載
- 44 台無線 LAN 端末の安定稼働保証
- インターネットキャッシュ機能の同時接続は、無線 LAN / 有線 LAN 合わせて最大 100 台まで可能
- 当社独自のセキュリティ機能搭載
- 960 台の MAC アドレスフィルタ対応 (15 マルチ SSID × 1 SSID につき 64 台の設定)
- WDS 機能により有線 LAN バックボーンが少ない環境でも無線ネットワークの拡張が可能

アクセスポイント機能について詳しくは、『アクセスポイント操作ガイド』をご覧ください。

## 2. 本製品の機能について

### 基本機能 - 管理画面

本製品に付属するアプリの設定を管理画面に集約して管理/操作できます。管理画面では、本製品を運用するうえで必要な各種設定をブラウザで行います。本製品にアクセス可能な端末で設定してください。



管理画面の項目		説明	
インターネット キャッシュ管理	キャッシュデータ	キャッシュデータ一覧	本製品のキャッシュに保存されているファイルの一覧を閲覧とキャッシュ済みデータを削除できます。
		キャッシュデータ事前登録	Windowsの更新プログラムをあらかじめキャッシュすることができます。
	キャッシュエンジン	キャッシュエンジン制御	キャッシュエンジンの起動、停止、再起動、初期化を行うことができます。
		使用状況	キャッシュの使用状況（ヒット率や使用率など）を確認できます。
		ログ取得	インターネットキャッシュ管理機能のログファイルをダウンロードできます。
キャッシュ設定	キャッシュに関するネットワーク設定とキャッシュデータ制御に関する項目を設定します。		
管理画面設定	ユーザー管理	パスワード更新	現在ログインしているユーザーIDのパスワードを変更できます。
		ユーザー一覧	登録されているユーザーの情報を確認できます。
	コンピュータ設定	エクスポート/インポート	管理画面の設定と端末から本製品に収集したデータをバックアップと再設定することができます。
	本アプリケーションについて	バージョン情報	管理画面のバージョンを確認できます。

## 基本機能 - データキャッシュ機能

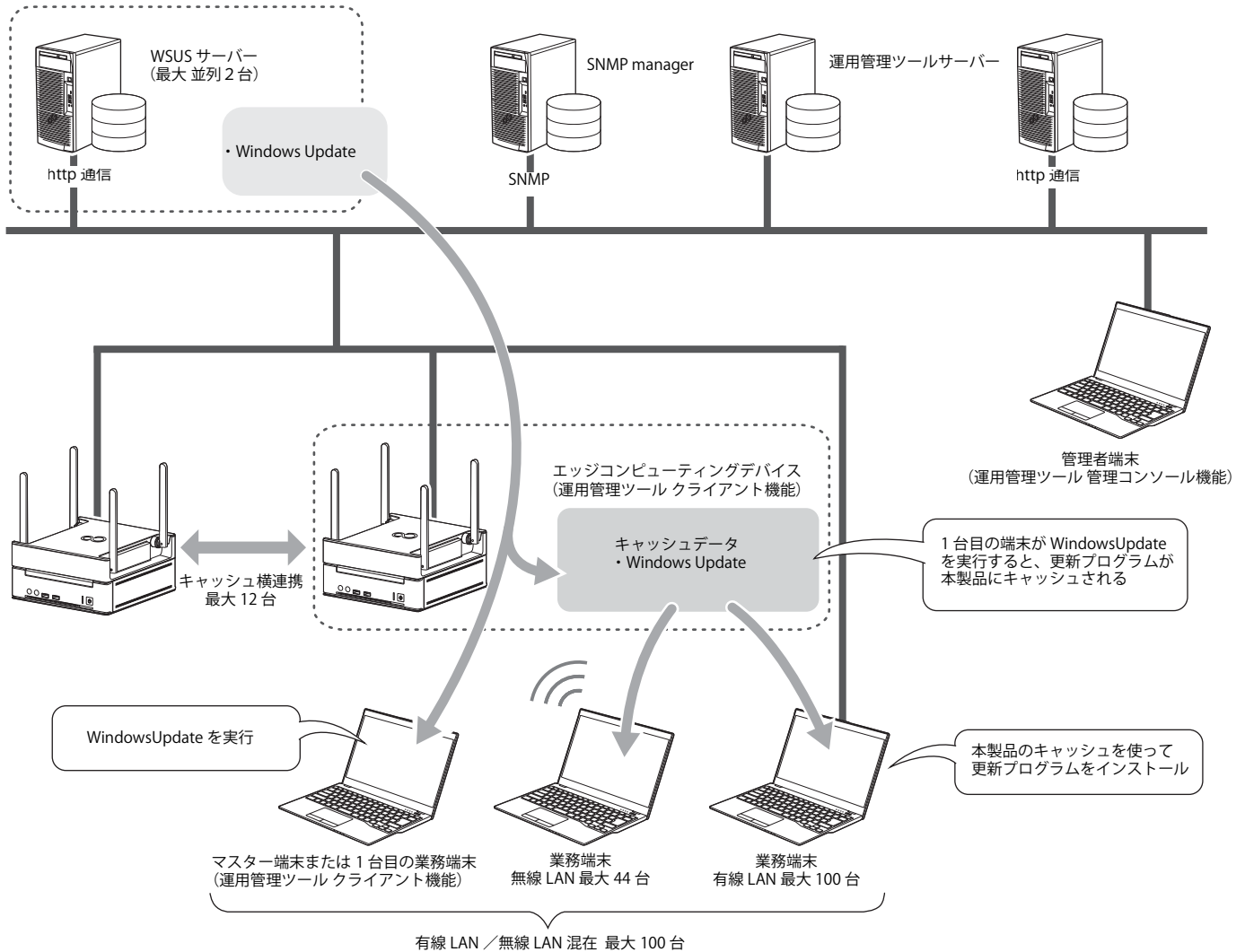
### インターネットキャッシュ機能

#### ■ WSUS サーバーから Windows Update 情報を取得する機能

WindowsUpdate の更新プログラムを効率的に適用する機能です。

1 台目の端末が WSUS サーバーからダウンロードした更新プログラムを本製品にキャッシュすることで、2 台目以降は本製品のキャッシュからの配布が可能となります。キャッシュ作成後は、ネットワーク回線の速度に影響を受けることなく、端末の更新プログラムをインストールできます。なお、本製品にキャッシュされた更新プログラムの状況は、管理者端末で管理画面を表示して確認できます。

詳しくは、「管理ガイド」-「Windows Update 実行の運用イメージ」をご覧ください。



#### ■ アップデート情報取得モジュール

機能更新プログラム (Feature Updates) や品質更新プログラム (Quality Updates) など、WindowsUpdate のキャッシュの状況を KB (Microsoft Knowledge Base) 番号で表示できるようになります。

## 基本機能 - 状態監視

---

### 動作状態監視ツール

---

インターネットキャッシュ機能、メンテナンス機能の動作を監視します。これらの機能が停止した場合、トラブル解決のための機能が発動します。

- インターネットキャッシュ機能のプロセスがなんらかのトラブルにより機能停止した場合、それらのプロセスを自動復旧します。  
自動復旧しても問題が解決しない場合は、MailSetting.ini 設定ファイル（C:\Program Files\FCC\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\MailSetting.ini）で指定したメールアドレスに異常が発生したことを通知します。詳しくは、「MailSetting.ini 設定ファイルの変更」（→ P.131）をご覧ください。
- ステータスランプを点灯させ、トラブルが起きていることを通知して復旧をうながします。

### お手入れナビ

---

本製品の通風孔（空冷用通風路）のお手入れ時期や、ほこりが詰まっていることなどを自動的にお知らせするアプリです。製品本体内部の温度や、本製品の総利用時間をチェックし、本製品のお手入れのを定期的にながします。

## 基本機能 - 運用管理ツール

---

本製品を運用管理（稼働の監視、保守作業）することや、Windows Update のキャッシュを作成することができます。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド』をご覧ください。

- 運用管理ツール サーバ機能  
端末を管理するアプリです。管理者が運用管理ツール 管理コンソール機能で登録したスケジュールに沿って、各端末に処理を開始するよう指示を出します。
- 運用管理ツール 管理コンソール機能  
運用管理ツールを操作するためのアプリです。管理者が端末（マスター端末、エッジコンピューティングデバイス）の機器管理、グループ管理、ユーザー管理等のシステム管理操作を行います。
- 運用管理ツール クライアント機能  
端末用のエージェントアプリです。運用管理サーバーから指示を受けると処理を開始し、処理結果をサーバーに通知します。

## 基本機能 - 通知

---

### 動作状態監視ツール（メール通知設定）

---

動作状態管理ツールによりプロセスを自動復旧しても問題が解決しない場合に、MailSetting.ini 設定ファイル（C:\Program Files\FCC\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\MailSetting.ini）で指定したメールアドレスに異常が発生したことを通知します。詳しくは、「MailSetting.ini 設定ファイルの変更」（→ P.131）

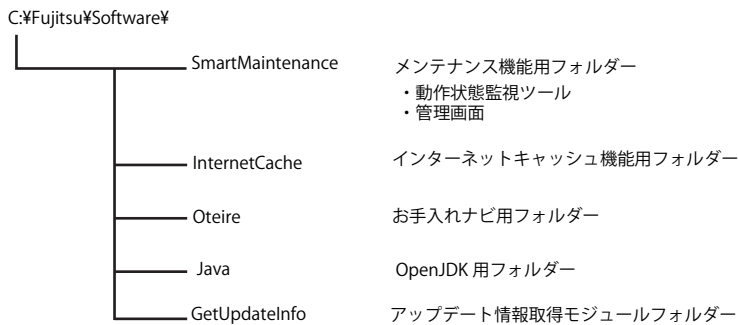
### 運用管理ツール（メール通知設定）

---

運用管理ツールがシステム異常等のアラートを検知した場合に、システム管理者に対してアラートメールを送信したり、スケジュール機能で作成したスケジュールが完了した場合に結果メールを送信したりできます。詳しくは、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド』をご覧ください。

### 3. ストレージ内のアプリについて

本製品には、必要となる各種アプリがストレージ内に格納されています。  
フォルダー構成は次のとおりです。



このほか、「Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ソフトウェアディスク」が添付されます。  
セットアップについては、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツールセットアップガイド』をご覧ください。

#### 重要

- ▶ 「C:\Fujitsu\Software\SmartMaintenance」フォルダー全体をDVDなどの媒体に書き込んだり、USBメモリにコピーしたりしようとすると失敗する場合があります。その場合は、「SmartMaintenance」フォルダー内の必要なフォルダーをコピーするようにしてください。

## 4. アプリのアップデート

本製品添付のアプリ以外にアプリアップデートパックをダウンロードしてインストールする必要があります。

### インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュール

「インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュール」には、インターネットキャッシュ機能やメンテナンス機能、サーバキャッシュ機能の更新プログラムが含まれます。

「インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュール」は、「アプリアップデートパック V1.0.4」に含まれるため、インストールする必要はありません。

### アプリアップデートパック V1.0.2

「アプリアップデートパック V1.0.2」には、インターネットキャッシュ機能とアップデート情報取得モジュールの更新プログラムが含まれます。

「アプリアップデートパック V1.0.2」は、「アプリアップデートパック V1.0.4」に含まれるため、インストールする必要はありません。

### アプリアップデートパック V1.0.3

「アプリアップデートパック V1.0.3」には、インターネットキャッシュ機能、アップデート情報取得モジュール、メンテナンス機能を修正する更新プログラムが含まれます。

「アプリアップデートパック V1.0.3」は、「アプリアップデートパック V1.0.4」に含まれるため、インストールする必要はありません。

### アプリアップデートパック V1.0.4

「アプリアップデートパック V1.0.4」には、インターネットキャッシュ機能を修正する更新プログラムが含まれます。

### 各アップデートのダウンロード

アプリアップデートパックは、下記サイトからダウンロードしてください。

「ドライバダウンロード」([https://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html))

各バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。その他の操作方法などについては、ダウンロードしたアップデートに添付されている Readme.txt をご覧ください。

## 5. インストール補助ツール

一部のアプリのインストールと設定は、インストール補助ツールを使ってインストールすることができます。本製品のセットアップは、インストール補助ツールを使用することを推奨いたします。

インストール補助ツールは、下記サイトからダウンロードしてください。

「ドライバダウンロード」([https://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html))

各バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。その他の操作方法などについては、インストール補助ツールに添付の Readme.txt をご覧ください。

アプリ名称	対応バッチ名	バッチファイルがインストール/設定する項目	参照先
基本機能			
基本アプリ	01_BasicFunction_BaseAPP_Install.cmd 02_BasicFunction_BaseAPP_Install.cmd	「エクスプローラーの設定」(→ P.56) ～「メンテナンス機能各種サービスの追加」(→ P.81)	「インストール補助ツールを使用する(初期設定)」(→ P.56)
インターネットキャッシュ	BasicFunction_InternetCache_Install.cmd	「インターネットキャッシュ機能のインストールと設定」(→ P.99) ～「シャットダウンの設定」(→ P.113)	「インストール補助ツールを使用する(インターネットキャッシュ機能)」(→ P.99)
アップデート情報取得モジュール	BasicFunction_UpdateCache_Install.cmd	「client.config 設定ファイルの変更」(→ P.125) ～「WSUS の設定」(→ P.128)	「インストール補助ツールを使用する(アップデート情報取得モジュール)」(→ P.125)
動作状態監視ツール	BasicFunction_WatchProcessApp_Install.cmd	「動作状態監視ツールのインストール」(→ P.130) ～「SmtptSetting.txt 設定ファイルの変更」(→ P.132)	「インストール補助ツールを使用する(動作状態監視ツール)」(→ P.130)

# 3

## 第3章 セットアップフロー

本製品をご利用いただくために必要なセットアップのフローを説明しています。



## 1. セットアップフロー

### 1. システム設計

『管理ガイド』の「第2章 Windows Update 実行の運用イメージ」をご覧ください、使用する機能の選択や運用パターンなどを設計します。

- ・本製品のアクセスポイント部分の動作モードは、AccessPoint（ブリッジ）に設定した運用を想定しています。必要に応じて DHCP サーバーや固定 IP アドレスの準備をお願いします。
- ・すでに WSUS サーバーを導入されている環境に対して本製品をセットアップすることを想定しています。

### 2. 基本機能の設定

基本機能の設定を実施します。

本製品とマスター端末、業務端末の基本設定を実施します。

- ・本製品の設定（設置、電源投入、Windows のセットアップ、基本のアプリのインストールと設定など）  
「基本機能 - 初期設定（製品本体）」（→ P.23）
- ・マスター端末、業務端末の設定（基本のアプリのインストールと設定）  
「基本機能 - 初期設定（業務端末/マスター端末）」（→ P.83）

運用管理ツールの設定を実施します。

- ・インストール  
『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』
- ・設定、操作  
『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド』

### 3. アプリのインストール確認

「セットアップの確認とバックアップ」（→ P.136）をご覧ください、必要なアプリのセットアップが完了していることを確認します。

### 4. 設定の確認

別マニュアルの『設定項目確認一覧表』をご覧ください、運用に当たって必要な設定が完了していることを確認します。

### 5. バックアップ

すべてのセットアップが完了したら、本製品のシステムイメージ、アクセスポイントの設定、管理画面の設定、の設定のバックアップを作成します（→ P.138）。

### 6. 運用開始

運用に当たっては、次のマニュアルを参照ください。

- 管理ガイド
  - ・インターネットキャッシュ機能での、キャッシュの確認・管理などの操作方法
- Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド
  - ・ WindowsUpdate 連携（機能更新プログラム / 品質更新プログラム）のスケジューラ機能の操作
  - ・ WindowsUpdate 連携の実行結果確認
  - ・ 本製品、マスター端末の稼働状況確認
- Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール リモート操作ガイド
  - ・ 本製品、マスター端末の遠隔操作（更新プログラムの適用確認の際に利用）

※ ここでの設定項目は、Windows Update 実行の運用に必要な主項目を上げています。

# 4

## 第4章 セットアップ

本製品のセットアップについて説明します。

### 重要

▶本製品のセットアップには、ディスプレイ、USBキーボード、USBマウス、USBメモリーなどの機器が必要です。これらの機器は、本製品には添付されておりません。セットアップの前にあらかじめご用意ください。

1. 基本機能 - 初期設定（製品本体） .....	23
2. 基本機能 - 初期設定（業務端末／マスター端末） .....	83
3. 基本機能 - データキャッシュ機能（製品本体） .....	99
4. 基本機能 - データキャッシュ機能（業務端末／マスター端末） .....	129
5. 基本機能 - 状態監視（製品本体） .....	130
6. 基本機能 - WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール .....	134
7. アプリアップデートバック V1.0.4（製品本体） .....	135

## 1. 基本機能 - 初期設定 (製品本体)

### インストール補助ツールとアプリアップデートパックのダウンロード

一部のアプリのインストールと設定は、「インストール補助ツール」を使ってインストールすることができます。本製品のセットアップは、「インストール補助ツール」を使用することを推奨します。

「インストール補助ツール」と「アプリアップデートパック V1.0.4」は、下記サイトからダウンロードしてください。

「ドライバダウンロード」([https://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html))

各パッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。その他の操作方法などについては、「インストール補助ツール」や「アプリアップデートパック V1.0.4」の README.txt をご覧ください。

### 製品を設置する

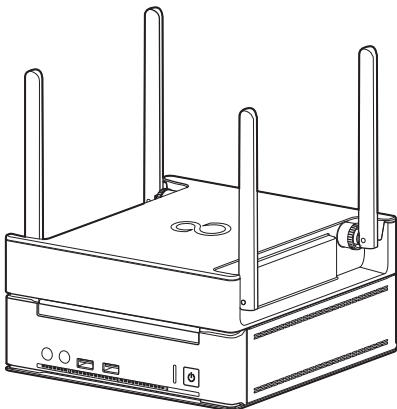
#### 設置に適さない場所

- 極端に高温または低温になる場所
- 直射日光のあたる場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所
- 車、飛行機、船など、輸送機器への設置
- 湿気やほこり、油煙の多い場所  
CPU ファンなどの機能を低下させる可能性があります。
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が出る場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 台所などの油を使用する場所の近く
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 電源ケーブルなどのケーブルが足に引っかかる場所
- 次の温湿度条件の範囲を超える場所
  - ・ 動作時：温度 10～35℃ / 湿度 20～80%RH
  - ・ 非動作時：温度 -10～60℃ / 湿度 20～80%RHただし、動作時、非動作時とも結露していないこと。
- 結露する場所  
結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。本製品を温度の低い場所から温度の高い場所、または温度の高い場所から温度の低い場所へ移動すると、本製品の装置内部に結露が発生する場合があります。結露が発生したまま本製品を使用すると故障の原因となります。本製品を移動したときは、室温と同じくらいになるのを待ってから電源を入れてください。

#### 設置する

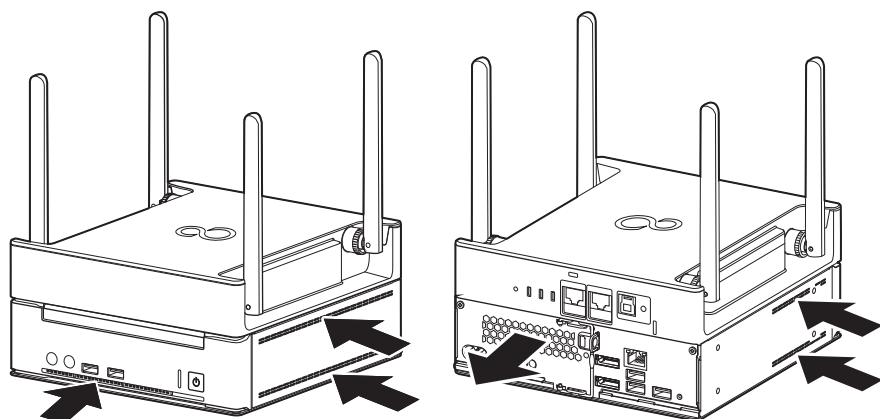
本製品は、アクセスポイント部分が上になるように設置してください。また、本製品の上には、物を置かないでください。

##### ■ 設置例



## 空気の流れ

本製品の空気の流れは次の図のとおりです。排気孔や吸気孔をふさがないように注意してください。

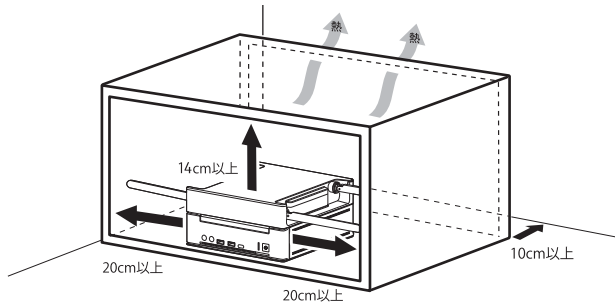


(イラストは、すべてのケーブルを省略した状態です。)

## 設置時の注意

本製品から排気した熱が周辺にこもらないように次の点に注意してください。

- 本製品と壁の間に図で示すようなすき間を空けてください。
- 本製品の排気孔や吸気孔をふさがないでください。
- ラックに収納する場合は、次の点にご注意ください。
  - ・金属のように電波が通りにくくなる素材でできたラックは避けてください。
  - ・ラック収納時は、本製品前面および背面をふさがないでください。

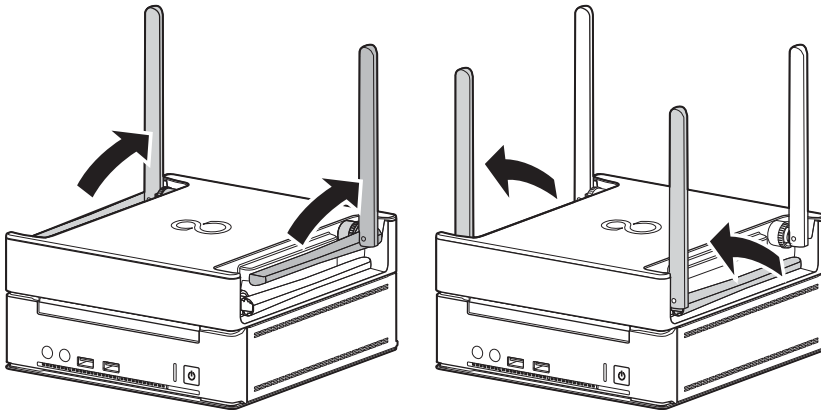


## 外部アンテナを立てる

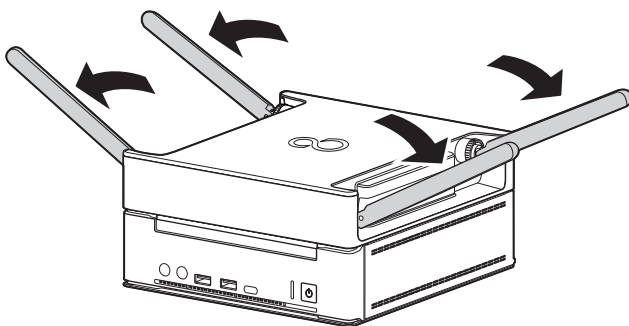
### 重要

▶ 外部アンテナに過度な力を加えないでください。

- 1 本製品の背面側の外部アンテナ（2本）を垂直に立てた後、前面側の外部アンテナ（2本）を立てます。



- 2 本製品上部にスペースがない場合や電波状況が悪い場合など、状況に応じて外部アンテナを横に倒します。



## ケーブルを接続する

### 重要

- ▶ 本製品には、ディスプレイ、USBキーボード、USBマウスが必要です。これらの機器は、本製品には添付されておりません。セットアップの前にあらかじめご用意ください。
- ▶ DisplayPort接続以外のディスプレイを使用する場合は、変換アダプタが必要になります。HDMI接続のディスプレイを使用する場合は、添付のDP-HDMI変換アダプタをご使用ください。その他のディスプレイを接続する場合は、ご使用のディスプレイにあった変換アダプタをご用意ください。

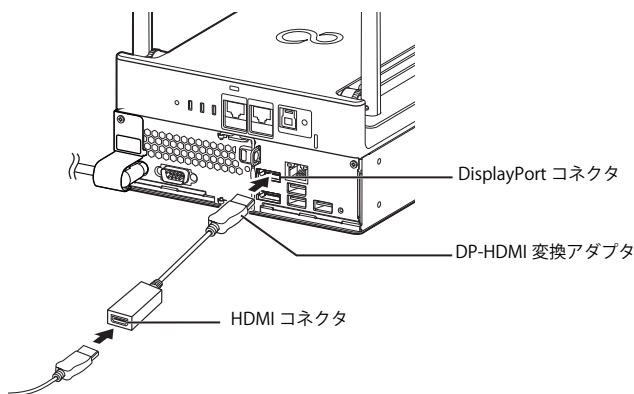
## ディスプレイを接続する

### 重要

- ▶ セットアップが完了するまで、接続するディスプレイは1台のみにしてください。
- ▶ ディスプレイは1台につき、1本のケーブルで接続してご利用ください。

### ■ HDMI 接続のディスプレイをお使いの場合

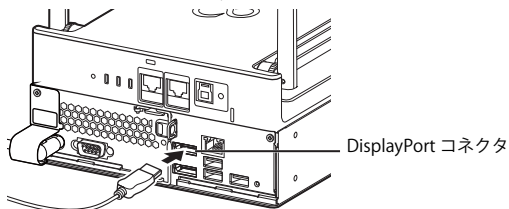
- 1 ディスプレイの HDMI ケーブルを DP-HDMI 変換アダプタの HDMI コネクタに接続します。
- 2 本製品背面の DisplayPort コネクタに DP-HDMI 変換アダプタを接続します。



(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

### ■ DisplayPort 接続のディスプレイをお使いの場合

- 1 ディスプレイの DisplayPort 信号ケーブルを本製品背面の DisplayPort コネクタに接続します。



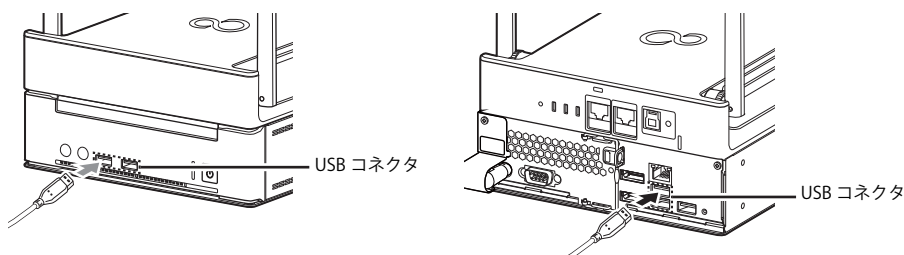
(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

## USB キーボード、USB マウスを接続する

### 重要

- ▶ USBキーボード、USBマウスは、本製品には添付されておりません。あらかじめご用意ください。

- 1 USBマウスとUSBキーボードを本製品の前面、または背面のUSBコネクタに接続します。



(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

## 電源ケーブルを接続する

### 重要

▶本製品を移動する場合や長時間使用しない場合などで、電源ケーブルを取り付けや取り外しを行うときは電源プラグ側を抜き差ししてください。

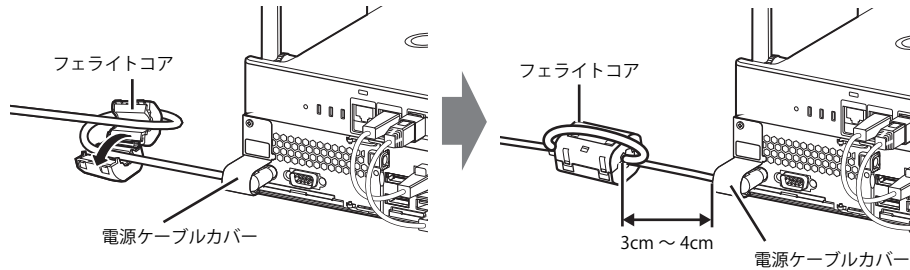
#### 1 フェライトコアを開きます。

ストッパー (2ヶ所) を外して開いてください。



#### 2 電源ケーブルをフェライトコアに1回巻きつけて閉じます。

電源ケーブルカバーから約3cm～4cmの位置に取り付けてください。



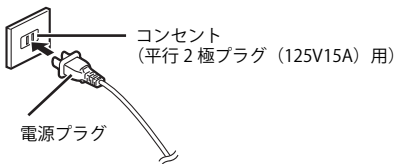
#### 3 電源プラグをコンセントに接続します。

### 重要

▶電源プラグを持ってまっすぐに差し込んでください。ケーブルを差し込んだ状態で上下左右に無理な力を加えないでください。

▶コンセント近くに本製品を設置し、電源プラグに手が容易に届くようにしてください。

▶本製品と電源ケーブルの接続部を押し込んだり引き出したりしないでください。



## Windows のセットアップ

### 注意事項

- Windows のセットアップが完全に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。Windows のセットアップが完了するまでは、次のものを接続または変更しないでください。
  - ・周辺機器・拡張カード・2 台目のディスプレイ・BIOS の設定
  - ・LAN ケーブル (セットアップ時にインターネット接続する場合を除く)
- Windows のセットアップ中は、トラブルを解決する場合を除き、電源を切らないでください。
- Windows のセットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちに、キーを押したりすると、Windows のセットアップが完全に行われない場合があります。ウィンドウが完全に表示されてから操作してください。

### ■ セットアップで困ったときは

- Windows のセットアップが進められなくなった

電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。30 秒以上待ってから再度電源ケーブルを接続し、電源を入れてセットアップをやり直してください。

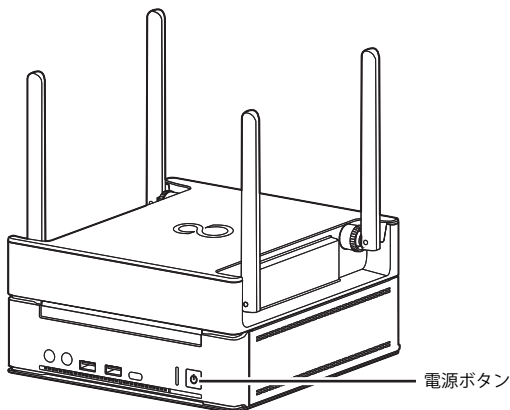
### セットアップを実行する

ここで説明するセットアップ手順は一例 (インターネットに接続しない方法) です。画面の説明を読み、ご使用になる環境にあわせてセットアップをしてください。

ネットワーク管理者がいる場合は、その指示に従ってください。

### ■ 電源を入れる

- 1 ディスプレイに電源を入れます。  
ディスプレイの電源の入れ方は、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 2 電源ボタンを押します。



(イラストは、すべてのケーブルを省略した状態です。)

画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断 (POST) が始まります。

画面が表示されるまで、一時的に画面が真っ暗になることや変化がないことがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断 (POST) が終わると「Windows のセットアップ」画面が表示されます。

この後は、Windows のセットアップを行ってください。

### ■ Windows のセットアップ

次の手順で Windows のセットアップを実行してください。

- 1 「こんにちは」画面が表示されたら、画面の各項目について設定し「次へ」をクリックします。
- 2 「法的文書をお読みください」を読み、「承諾する」をクリックします。
- 3 「簡単設定を使う」をクリックします。
- 4 「この PC のアカウントの作成」の画面で、次の項目を入力し、「次へ」をクリックします。

#### 重要

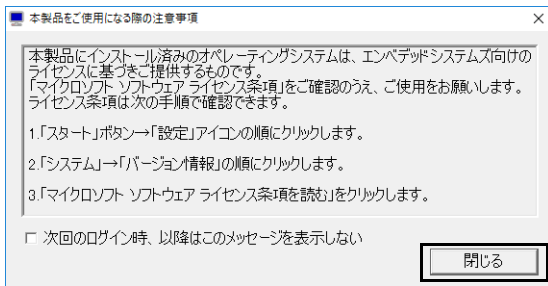
▶パスワードは必ず設定してください。パスワードが設定されていない場合、一部のアプリでセットアップが失敗します。

- ・ユーザー名：12 文字以内の半角英数字 (a～z、A～Z、0～9) で入力してください。
- ・パスワードを入力してください：12 文字以内の半角英数字 (a～z、A～Z、0～9) で入力してください。
- ・もう一度パスワードを入力してください：パスワードを再入力してください。
- ・パスワードのヒント：半角英数字のほか、かな、漢字も使用できます。

Windows のセットアップが完了すると、Windows 10 のデスクトップが表示された後、「本製品をご使用になる際の注意事項」が表示されるので、必ず内容をご確認ください。



## 5 「閉じる」をクリックします。

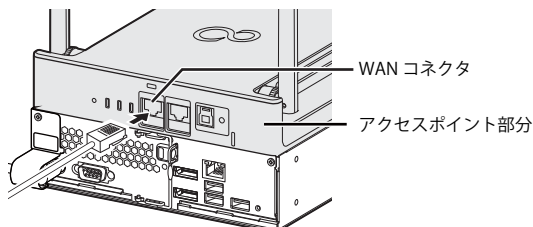


### POINT

- ▶ 以降、アプリのインストール／設定、ネットワークなどの初期設定を行います。初期設定でトラブルが発生した場合に備え、Windowsセットアップが完了した状態のシステムイメージのバックアップを取得することをお勧めします。システムバックアップについては、『管理ガイド』の「バックアップと復元」をご覧ください。
- ▶ BIOSパスワードを設定することで、第三者によるWindowsの起動やBIOS設定を防ぐことができます。必要に応じて、設定してください。BIOSパスワードについては、「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.143)をご覧ください。

## LAN ケーブルを接続する

アクセスポイント部分のWAN コネクタにLAN ケーブルを接続します。



(イラストは、電源ケーブル以外のすべてのケーブルを省略した状態です。)

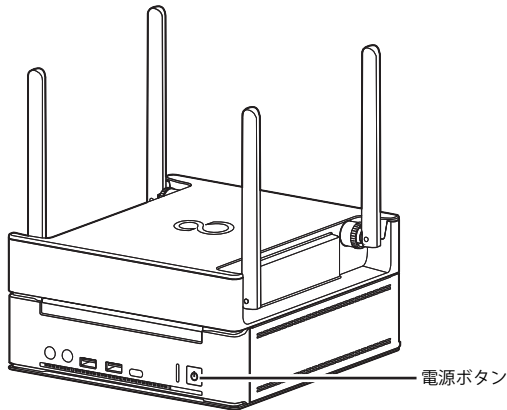
## 電源の入れ方／切り方

### 電源を入れる

#### POINT

▶電源を入れた後、2分程度で無線の電波状態が安定します。

#### 1 電源ボタンを押します。



### 電源を切る

#### ■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず 30 秒以上たってから電源を入れるようにしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、本製品の電源を切り電源プラグをコンセントから抜いてください。

#### ■ Windows を終了する

#### 1 電源ボタンを押します。

#### 重要

▶電源ボタンを長押ししないでください。長押しして強制終了するとストレージ内のデータが消失する場合があります。

Windows が終了すると、電源が切れます。

### Windows サインイン

次の手順で Windows にサインインします。

- 1 本製品にディスプレイを接続します。  
「ケーブルを接続する」(→ P.26)
- 2 BIOS パスワードや Windows パスワードを設定している場合は、本製品に USB キーボード、USB マウスを接続します。  
「USB キーボード、USB マウスを接続する」(→ P.26)
- 3 本製品の電源ボタンを押します。  
「電源を入れる」(→ P.30)
- 4 BIOS のパスワード入力画面が表示された場合は、パスワードを入力します。
- 5 Windows のパスワード入力画面が表示された場合は、パスワードを入力し、Windows にサインインします。

### BIOS パスワードの設定

BIOS パスワードを設定することで、第三者による Windows の起動や BIOS 設定を防ぐことができます。必要に応じて、設定してください。詳しくは、「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.143) をご覧ください。

### ME 機能の有効化

ME 機能を BIOS メニューから有効化します。

- 1 BIOS メニュー「詳細」－「AMT 設定」－「Intel AMT BIOS Extension」を「使用しない」から「使用する」に変更します。  
BIOS メニューの使い方、設定の保存方法は「BIOS セットアップの操作のしかた」(→ P.141) をご覧ください。

## ME セットアップ初期パスワードの変更

ここでは、ME BIOS Extension の設定を行う ME セットアップ初期パスワードの変更方法について説明します。

**パスワードは、必ず変更してください。**

本製品ご購入時のパスワードのままですと、第三者に AMT 機能などを使用されるおそれがあります。

本製品を含むすべての AMT 機能搭載製品の初期パスワードは同じパスワードです。  
そのため、AMT 機能に第三者がログインすることを防ぐために、必ずパスワードを変更してください。  
AMT 機能を使用するとリモート接続で本製品の制御 (電源 ON/OFF、設定変更など) が可能となります。

- ・パスワードは第三者に推測されないように工夫してください。
  - ・パスワードの変更は、本書に記載している設定手順のほか、USB プロビジョニング、リモートプロビジョニングでも行えます。
- 詳しくは、Intel® Setup and Configuration Software (Intel® SCS) の User Guide でご確認ください。  
URL : <https://www.intel.com/content/www/us/en/software/setup-configuration-software.html>

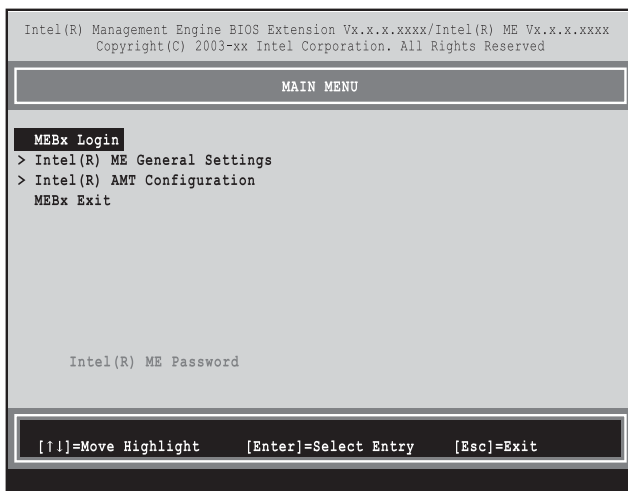
### 重要

- ▶ 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含む ME セットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、ME セットアップを設定し直してください。

## 初期パスワードを変更する

ME セットアップの初期パスワードを変更します。ご利用にあたり、パスワードは必ず変更してください。なお、変更したパスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。

- 1 本製品の電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】 + 【P】 キーを押します。  
ME セットアップログイン画面が表示されます。
- 3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。



パスワード入力画面が表示されます。

- 4 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。  
出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。



### POINT

- ▶ 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順3からやり直してください。
- ▶ パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本パソコンが再起動します。手順2からやり直してください。

**5 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

- ・ 8文字以上 32文字以下
- ・ 1文字以上の数字を含む
- ・ 「!」、「\_」を除く 1文字以上の特殊文字 (例：@、\$、&) を含む。  
ただし、「\_」はアルファベットとみなされるため対象外。
- ・ 1文字以上の小文字のアルファベットを含む
- ・ 1文字以上の大文字のアルファベットを含む

**6 「Verify password」と表示されたら、手順5で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。**

**POINT**

- ▶「Error applying new password」と表示された場合、新しいパスワードが手順5の条件を満たしていません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、文字数と使用している文字を確認して、手順3からやり直してください。
- ▶「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順5と手順6で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、Caps Lockがオフになっていることを確認して、手順3からやり直してください。

**7 カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。**

**8 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。**

MEセットアップが終了し、Windows が起動します。

## ネットワークの設定

ここでは、ネットワークの利用環境を構築するためのコンピューター部分とアクセスポイント部分の最低限の設定方法を説明しています。その他のアクセスポイントの設定方法については、別マニュアルの『アクセスポイント操作ガイド』をご覧ください。

### IP アドレスについて

本製品は、固定 IP アドレスによる運用を想定しております。お使いの環境が DHCP により動的に IP アドレスを割り振られた場合でも、使用することは可能ですが、DHCP に対応していないアプリは、IP アドレスが変更になるたびに設定ファイルに記載した IP アドレスの変更が必要なため実用的ではありません。DHCP 対応アプリは下記表をご確認ください。

○：使用可能 ×：利用非推奨

アプリ名称	固定 IP アドレス	DHCP サーバー IP アドレス割り当て
管理画面	○	×
インターネットキャッシュ機能	○	×

### IP アドレスの取得・設定について

コンピューター部分の IP アドレスとアクセスポイント部分の IP アドレスのクラスが異なると、アクセスポイントの Web 設定画面にアクセスできなくなります。どちらかの IP アドレスを変更する場合は、同一セグメント内で IP アドレスを取得して設定する必要があります。

IP アドレスの設定の順番は、設定の順番は次のとおりです。

- 1 アクセスポイント部分の IP アドレスの設定 (→ P.35)
- 2 コンピューター部分の IP アドレスの設定 (→ P.37)

コンピューター部分の IP アドレスから設定すると、アクセスポイントの Web 設定画面にアクセスできなくなりますのでご注意ください。

#### POINT

- ▶ アクセスポイント部分の RESET ボタンを押してご購入時の設定に戻した後、アクセスポイント部分の IP アドレスを設定する場合は、コンピューター部分の IP アドレスの次の設定を行ってください。
  1. 「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」で、コンピューター部分の IP アドレスの設定を、いったん「IP アドレスを自動的に取得する」に設定します。  
設定後、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定は消えてしまいます。設定変更前にテキストファイルなどに記録してください。  
なお、プロパティの表示方法については、「コンピューター部分の固定 IP アドレスの設定」(→ P.37) の手順 1～手順 5 をご覧ください。
  2. アクセスポイント部分の IP アドレスを設定します (→ P.35)。
  3. コンピューター部分の IP アドレスの設定を元に戻します (→ P.37)。

### ping コマンドについて

本製品のコンピューター部分から ping コマンドを実行する場合、本製品および ping コマンド送付先の端末で次の設定を行う必要があります。設定しない場合は、ping コマンド送信先からの応答はありません。

#### POINT

- ▶ 市販のセキュリティ対策ソフトをインストールしている場合は、セキュリティ対策ソフトのマニュアルをご覧ください、ファイアウォールの設定を行ってください。
  - ▶ セキュリティの関係上、アクセスポイント部分は ping コマンドに回答しません。
- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
  - 2 「システムとファイアウォール」→「Windows Defender ファイアウォール」の順にクリックします。  
「Windows Defender ファイアウォールによる PC の保護」が表示されます。
  - 3 画面左側の「詳細設定」をクリックします。  
「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」が表示されます。
  - 4 画面左側の「受信の規則」をクリックします。  
「受信の規則」が表示されます。
  - 5 「ファイルとプリンターの共有 (エコー要求 - ICMPv4 受信)」をダブルクリックします。  
「ファイルとプリンターの共有 (エコー要求 - ICMPv4 受信)」プロパティが表示されます。
  - 6 「有効」にチェックを入れて、「OK」をクリックします。
  - 7 すべての「ファイルとプリンターの共有 (エコー要求 - ICMPv4 受信)」について、手順 5～6 を繰り返し実行します。

## Web 設定画面へのログイン

アクセスポイント部分の設定を行う場合、本製品から Web 設定画面にログインします。

- 1 ブラウザーを起動します。
- 2 アドレスバーに URL (http:// IP アドレス) を入力し、Web 設定画面にアクセスします。

### POINT

- ▶IPアドレスには、本製品のアクセスポイント部分のIPアドレスをお使いください。  
アクセスポイント部分のIPアドレスが「192.168.1.1」の場合は、次のようになります。  
http://192.168.1.1
- ▶ご購入時のIPアドレスは、「192.168.1.1」です。

ログイン画面が表示されます。

- 3 ユーザ名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。  
ユーザ名の初期値は「root」、パスワードの初期値は「root」です。

## パスワードの変更

アクセスポイント部分の初期パスワードを変更します。ご利用にあたり、パスワードは必ず変更してください。なお、変更したパスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。

- 1 「Root」→「システム」の順にクリックします。

- 2 ユーザ名「root」と「admin」の「新しいパスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「適用」をクリックします。

### 重要

- ▶安全性を高めるため、8文字以上15文字以下で、半角英数字 (a~z、A~Z、0~9) および半角記号を組み合わせで作成してください。

パスワード変更後はログイン画面に戻ります。新しいパスワードを入力して、再度、ログインしてください。

## 動作モードと固定 IP アドレスの設定

本製品のアクセスポイント部分の固定 IP アドレスや SSID を設定します。

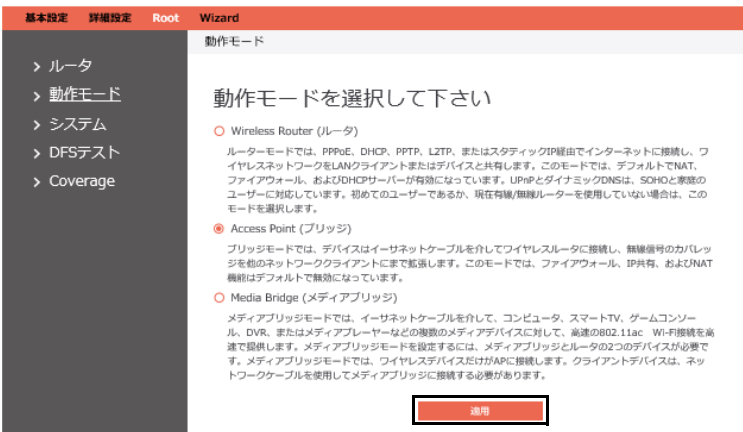
### POINT

- ▶ アクセスポイント部分の固定 IP アドレスが変更されるとブラウザからはアクセスできなくなり、エラーの表示になります。コンピューター部分の固定 IP アドレスの設定をすると正常にアクセスできるようになります。

#### 1 「Root」 → 「動作モード」の順にクリックします。



#### 2 「Access Point (ブリッジ)」を選択し、「適用」をクリックします。



#### 3 「LAN IP アドレスの自動取得」で「いいえ」を選択した後、LAN IP 設定の各項目に、取得した固定 IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。



#### 4 LAN IP 設定の「DNS サーバ 1」と「DNS サーバ 2」に DNS サーバーの IP アドレスを入力し、「次へ」をクリックします。

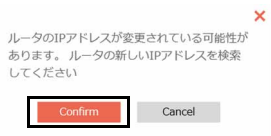


#### 5 「2.4GHz」および「5GHz」無線接続の SSID と事前共有キー (PSK) を設定し、「次へ」をクリックします。



「ルータの IP アドレスが変更されている可能性があります。」というメッセージが表示されます。

6 「Confirm」をクリックします。



7 画面を下にスクロールしてから「適用」をクリックします。

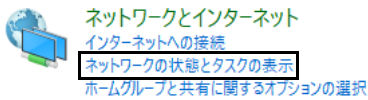




## コンピュータ部分の固定 IP アドレスの設定

次の手順で、コンピュータ部分の固定 IP アドレスを設定します。なお、固定 IP アドレスの設定は、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。



「基本ネットワーク情報の表示と接続のセットアップ」が表示されます。

- 3 「イーサネット」をクリックします。  
「イーサネット 2」と表示される場合は、「イーサネット 2」をクリックしてください。

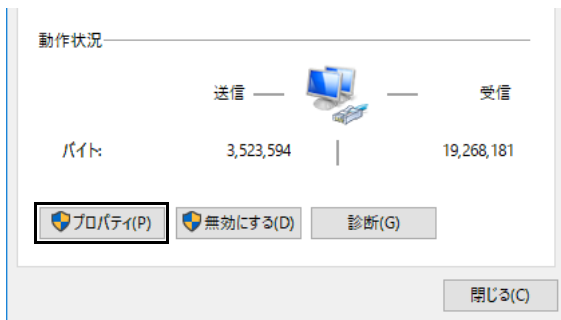
### 基本ネットワーク情報の表示と接続のセットアップ

アクティブなネットワークの表示

ネットワーク パブリック ネットワーク	アクセスの種類: インターネット アクセスなし 接続: <b>イーサネット</b>
------------------------	--

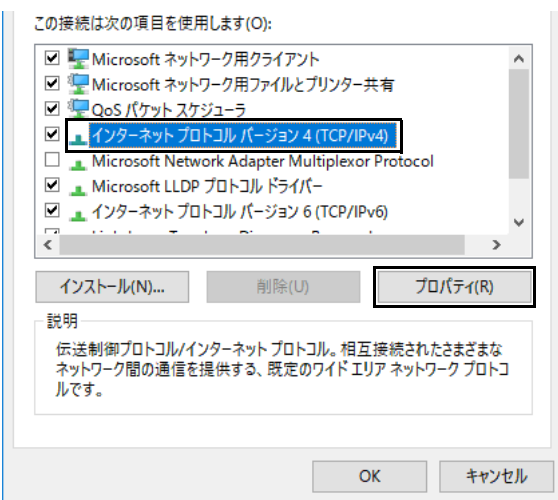
「イーサネットの状態」が表示されます。

- 4 「プロパティ」をクリックします。



「イーサネットのプロパティ」が表示されます。

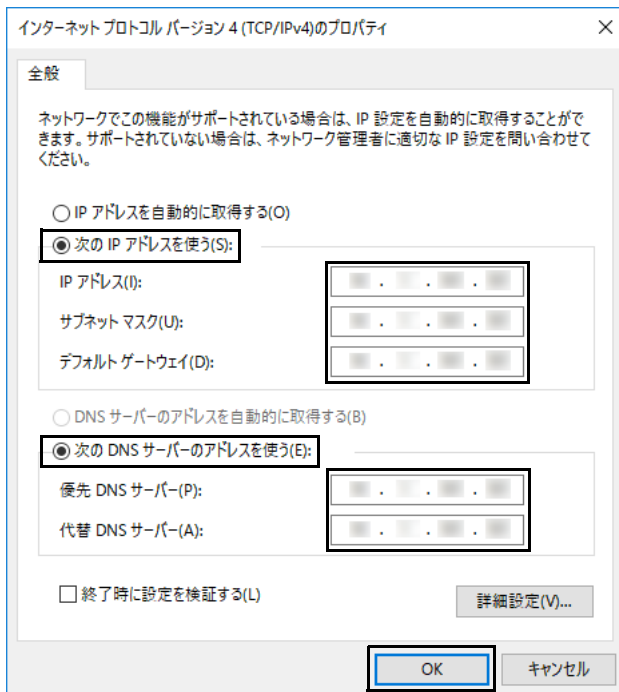
- 5 「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」が表示されます。

6 次の設定を行い、「OK」をクリックします。

1. 「次の IP アドレスを使う」を選択し、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。
2. 「次の DNS サーバーのアドレスを使う」を選択した後、優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーを入力し、「OK」をクリックします。



「イーサネットのプロパティ」が表示されます。

7 「閉じる」をクリックします。

**重要**

- ▶ ネットワーク設定が完了したら、インターネットに接続してWindowsを最新の状態に更新してください。

## 時刻設定

NTP サーバを追加します。NTP サーバと日付および時刻を同期することで、アクセスポイント部分の日付や時刻の設定を行います。

### 重要

- ▶ 本製品の電源を切ると、アクセスポイントの日付や時刻の設定がクリアされます。
- ▶ NTPサーバにアクセスできない場合に備え、複数のNTPサーバを登録してください。

- 1 ブラウザーのアドレスバーに URL (http://新しい IP アドレス) を入力し、Web 設定画面のログイン画面を表示します。
- 2 「基本設定」→「システム」の順にクリックします。
- 3 ネットワーク環境に即した NTP サーバ名を入力し、**+** をクリックします。  
NTP サーバを設置している場合は、NTP サーバ名を入力してください。

基本設定 詳細設定 Wizard

システム

### ルータパスワードの変更

ユーザ名

新しいパスワード

パスワードの確認入力   パスワード表示

---

### その他設定

タイムゾーン

自動ログアウト  分 (無効: 0)

### NTPサーバ(最大数: 6)

NTPサーバ	追加/削除
<input type="text" value="time.japan"/>	<b>+</b>
us.pool.ntp.org	-
north-america.pool.ntp.org	-
time.nst.gov	-
pool.ntp.org	-

**適用**

- 4 「適用」をクリックします。

### NTPサーバ(最大数: 6)

NTPサーバ	追加/削除
<input type="text"/>	<b>+</b>
time.japan	-
us.pool.ntp.org	-
north-america.pool.ntp.org	-
time.nst.gov	-
pool.ntp.org	-

**適用**

### POINT

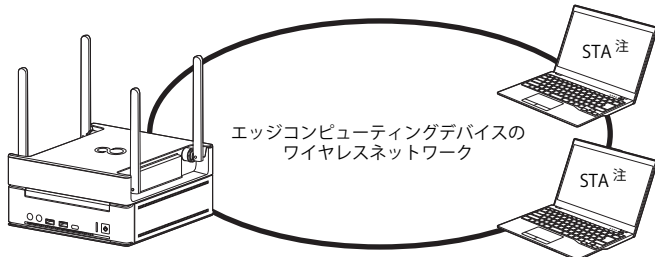
- ▶ 登録したNTPサーバを削除する場合は、**-** をクリックしてください。

## 無線 LAN 環境を構築する

ここでは、社内で端末を接続するための無線 LAN 環境を構築する手順を説明します。

### POINT

- ▶ 無線 LAN の周波数帯で、2.4GHz を使用する場合は、Wi-Fi チャンネルを 5 チャンネル以上間隔を空けて、電波干渉がない状態で使用してください。2.4GHz に電波干渉があると、多数の端末を接続するときに、無線 LAN に接続できない場合があるため、無線 LAN の周波数帯は、5GHz を使用することを推奨します。



注：ワイヤレス網内のノートパソコンなどの端末

本書では以下の設定条件を例に、設定手順を説明します。実際に利用する環境にあわせて設定してください。

- ・ 周波数帯 : 5GHz
- ・ SSID : SSID-sample
- ・ 通信モード : IEEE 802.11 ac/n/a
- ・ チャンネルボンディング : 20/40/80 MHz
- ・ 認証モード : WPA2 Personal
- ・ 事前共有キー (PSK) : 012345abc

### 1 「詳細設定」→「ネットワーク」→「無線」の順にクリックします。



基本設定が表示されます。

### 2 「周波数帯」を「5GHz」に設定し、「無線機能」を「有効」に設定します。

#### 基本設定

周波数帯

無線機能  有効  無効

### 3 「SSID」に「SSID-sample」を入力し、「ステルス (隠蔽) SSID」を「無効」に設定します。

SSID

ステルス(隠蔽) SSID  有効  無効

### 4 「通信モード」で、「ac/n/a」を選択します。

通信モード

### 5 「チャンネルボンディング」で、「20/40/80 MHz」を選択します。

チャンネルボンディング

### 6 「認証モード」で「WPA2 Personal」を選択します。

認証モード

### 7 「事前共通キー (PSK)」に「012345abc」を入力します。

事前共有キー(PSK)

### POINT

- ▶ 「事前共通キー (PSK)」の設定は、ご購入時の設定から変更することをお勧めします。

### 8 「適用」をクリックします。

Protected Management Frames

最大端末数

キー更新間隔

## ネットワーク分離について

ネットワーク分離機能には、3つのモードがあります。お使いのネットワーク環境と状況によって設定してください。

- Model1  
MACアドレスとIPアドレスで、パケットの転送または破棄を判定します (→P.45)。
- Model2  
MACアドレスとIPアドレスで送信元を識別して、VLAN ID を決定します。設定したアクセスルールに従ってVLAN TAG を付与します (→P.48)。
- Model3  
SSID でVLAN ID を決定します。設定したアクセスルールに従ってVLAN TAG を付与します (→P.50)。

### ■VLAN 環境がない場合

Model1 (→P.45) を設定してください。  
設定は任意ですが、設定することによってセキュリティがより強化されます。

### ■VLAN 環境がある場合で、かつVLAN 設定が必要な場合

設定する状況にあわせて必ずModel2 (→P.48) かModel3 (→P.50) を設定してください。

## ネットワーク分離の設定ファイルについて

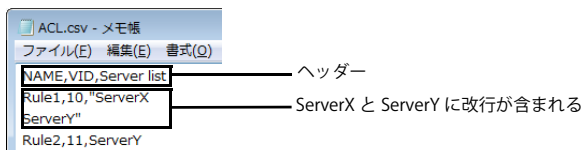
ネットワーク分離は、次のCSV ファイルをインポートして設定します。

- サーバDB 設定ファイル (SERVER.csv)  
サーバの名称とサーバのIPアドレスを記載します。
- アクセスルールDB 設定ファイル (ACL.csv)  
アクセスルールを記載します。
- ユーザDB 設定ファイル (USER1.csv)  
端末の情報 (ユーザー名やMACアドレス)、ネットワークアクセスの優先度、どのアクセスルールを適用するかを記載します。
- SSIDDB 設定ファイル (SSID.csv)  
ワイヤレス網のSSID を記載します。

CSV ファイルの作成には、CSV ファイルに対応した表計算ソフトウェアを利用することをお勧めします。表計算ソフトウェアがない場合は、テキストエディターで作成してください。

### POINT

- ▶ CSVファイルを作成する場合、次の点にご注意ください。  
下の図は、CSVファイルの記載例です。



- ・必ずヘッダーを記載してください。
- ・各設定値に改行が含まれる場合は、必ず、ダブルクォート「"」で囲ってください。なお、設定値内に改行がない場合は、ダブルクォートを省略できます。
- ・各設定値の間にカンマ「,」を記入してください。
- ・各設定の間は、改行してください。

詳しくは、次の項目をご覧ください。

- ・「Model1 のネットワーク分離を設定する」 (→P.45)
- ・「Model2 のネットワーク分離を設定する」 (→P.48)
- ・「Model3 のネットワーク分離を設定する」 (→P.50)

## ネットワーク分離の設定方法

### ■ アクセスコントロールを有効にする

- 1 「詳細設定」→「セキュリティ」→「ACL」の順にクリックします。

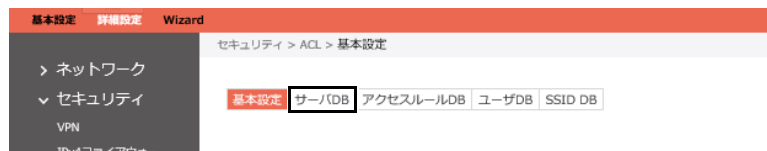



- 2 「アクセスコントロール」を「有効」にして、「適用」をクリックします。



### ■ サーバDB 設定ファイル (SERVER.csv) をインポートする

- 1 「サーバDB」をクリックします。



- 2 「サーバDBのインポート」で  をクリックした後、表示されたウィンドウから SERVER.csv ファイルを選択し、「実行」をクリックします。

#### サーバDB 設定



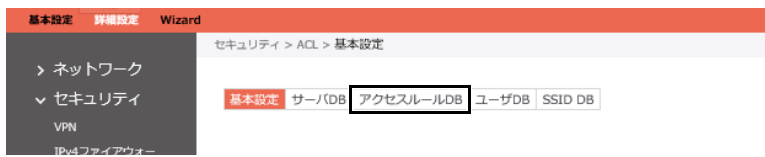
#### サーバDBリスト (最大数: 64)




インポートが完了すると SERVER.csv で記載した設定が「サーバDB リスト」に表示されます。

## ■ アクセスルール DB 設定ファイル (ACL.csv) をインポートする

- 1 「アクセスルール DB」をクリックします。



- 2 「アクセスルール DB のインポート」で  をクリックした後、表示されたウィンドウから ACL.csv ファイルを選択し、「実行」をクリックします。

### アクセスルールDB 設定



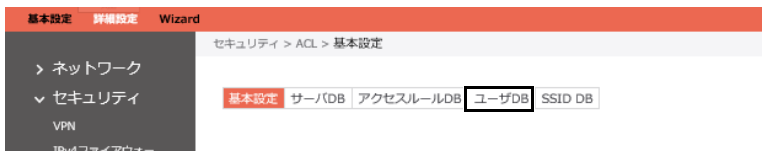
### アクセスルールリスト (最大数: 64)




インポートが完了すると ACL.csv で記載した設定が「アクセスルールリスト」に表示されます。

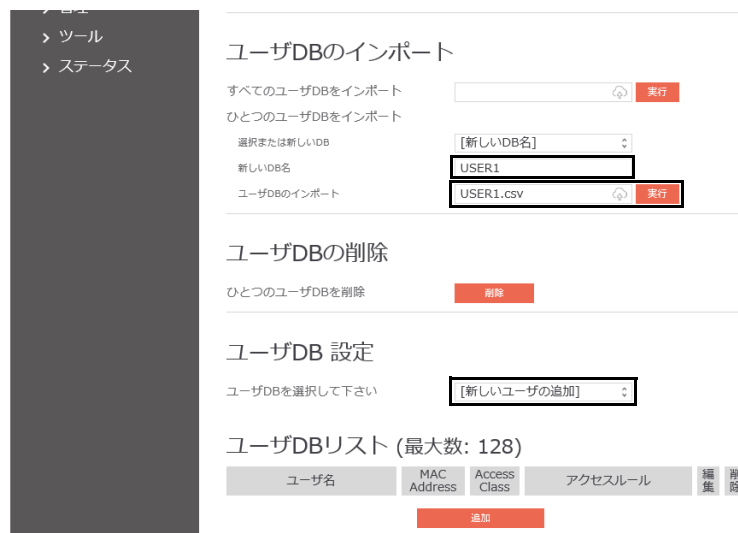
## ■ ユーザ DB 設定ファイル (USER1.csv) をインポートする

- 1 「ユーザ DB」をクリックします。



- 2 「新しい DB 名」に「USER1」を入力し、「ユーザ DB のインポート」で  をクリックした後、表示されたウィンドウから USER1.csv ファイルを選択し、「実行」をクリックします。

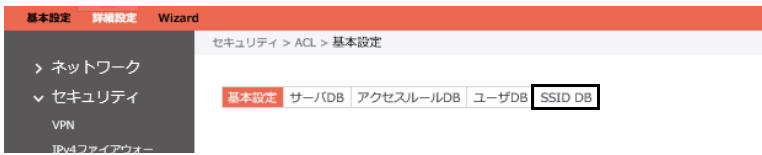
このユーザ DB 名は、SSID.csv で必要となります。




インポートが完了した後、「ユーザ DB を選択して下さい」で「USER1」を選択すると、USER1.csv に記載した設定が「ユーザ DB リスト」に表示されます。

## ■ SSID DB 設定ファイル (SSID.csv) をインポートする

- 1 「SSID DB」をクリックします。



- 2 「SSID DB のインポート」で  をクリックした後、表示されたウィンドウから SSID.csv ファイルを選択し、「実行」をクリックします。

### SSID DB 設定



### SSID DBリスト (最大数: 32)

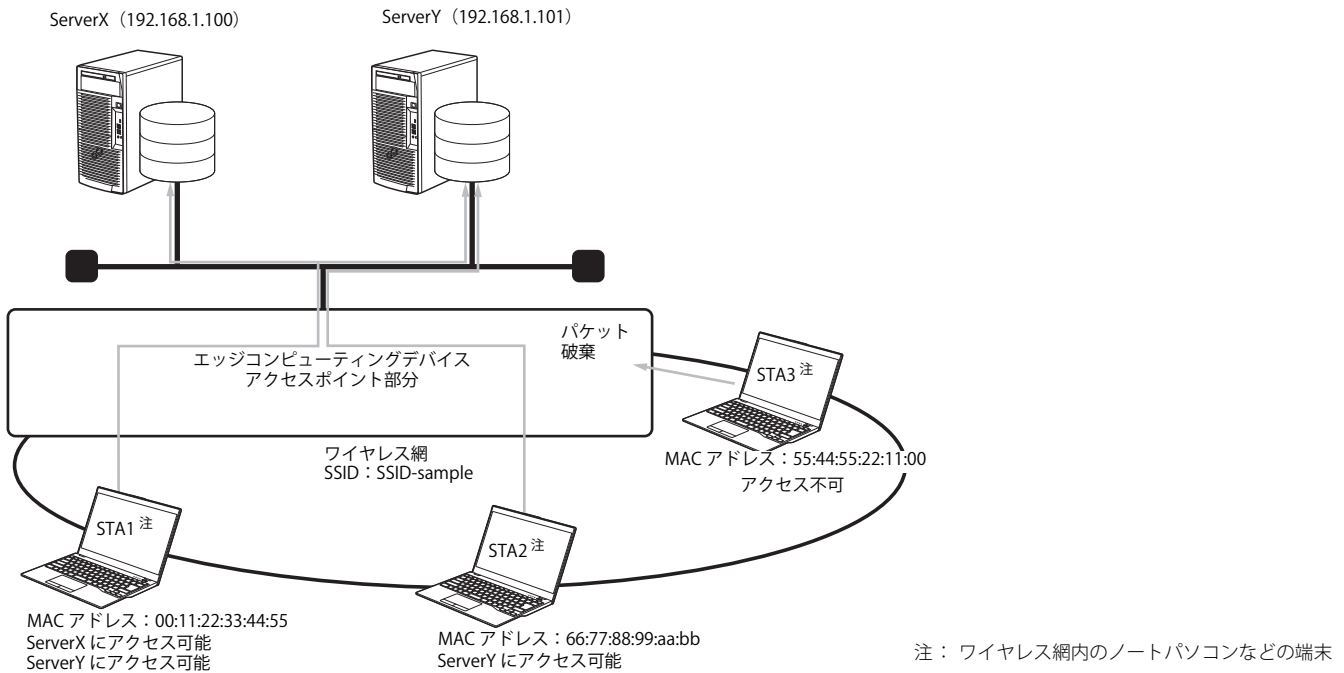


インポートが完了すると SSID.csv で記載した設定が「SSID DB リスト」に表示されます。



## Model1 のネットワーク分離を設定する

Model1 は、MAC アドレスと IP アドレスでパケットの転送または破棄を判定します。  
次の図のような条件を例に、Model1 のネットワーク分離を設定する手順を説明します。



### ■ 設定ファイルを作成する

Model1 の設定に必要な CSV ファイルは SERVER、ACL、USER1、SSID です。これらのファイルを事前に、作成してください。なお、各 CSV ファイルの記載内容は、次のとおりです。

#### ●SERVER.csv

Server 注1	IP address/Host Name 注2
ServerX	192.168.1.100
ServerY	192.168.1.101

注1 : サーバの名称を記載します。

注2 : サーバの IP アドレスを記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



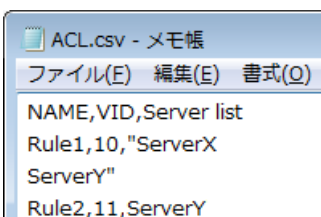
#### ●ACL.csv

NAME	VID 注1	Server list 注2
Rule1	10	ServerX ServerY
Rule2	11	ServerY

注1 : Model1 では、使用しません。任意の数値を記載してください。

注2 : アクセス可能なサーバ名を記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



●USER1.csv

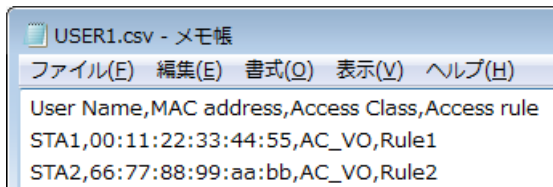
User Name	MAC address	Access Class 注1	Access rule 注2
STA1	00:11:22:33:44:55	AC_VO	Rule1
STA2	66:77:88:99:aa:bb	AC_VO	Rule2

注1: ネットワークアクセスの優先度を記載します。設定値は次のとおりです。

Voice : 「AC\_VO」  
Video : 「AC\_VI」  
Best Effort : 「AC\_BE」  
Background : 「AC\_BK」

注2: ACL.csv で設定したアクセスルールに沿った NAME を記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



●SSID.csv

SSID Name	Action mode 注1	VID 注2	User DB 注3
SSID-sample	1	12	USER1

注1: ACL モード「1」を記載します。

注2: Model1 では、使用しません。任意の数値を記載してください。

注3: USER1.csv をインポートするときに設定する User DB 名を記載します。





上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



■ 設定ファイルをインポートする

- 1 SERVER.csv ファイルをインポートします (→ P.42)。
- 2 「サーバ DB リスト」に SERVER.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

サーバDBリスト (最大数: 64)

サーバ名	IPアドレス / ホスト名	編集	削除
ServerX	192.168.1.100		
ServerY	192.168.1.101		

- 3 ACL.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 4 「アクセスルールリスト」に ACL.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

アクセスルールリスト (最大数: 64)





アクセスルール名	VLAN ID	編集	削除
Rule1	10		
Rule2	11		

- 5 USER1.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 6 「ユーザ DB を選択して下さい」で「USER1」を選択します。

ユーザDBを選択して下さい

- 7 「ユーザ DB リスト」に USER1.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

ユーザDBリスト (最大数: 128)

ユーザ名	MAC Address	Access Class	アクセスルール	編集	削除
STA1	00:11:22:33:44:55	Voice	Rule1		
STA2	66:77:88:99:aa:bb	Voice	Rule2		

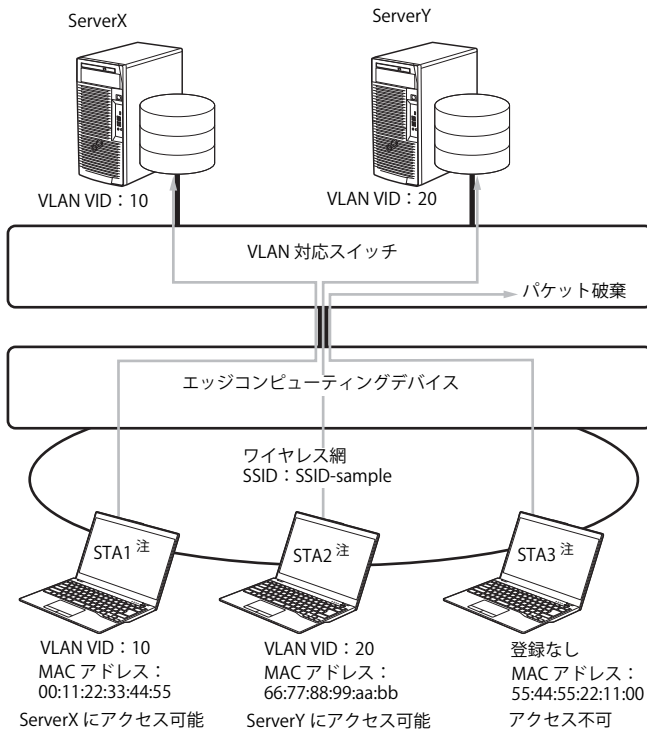
- 8 SSID.csv ファイルをインポートします (→ P.44)。
- 9 「SSID DB リスト」に SSID.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

SSID DBリスト (最大数: 32)

SSID名	ACL モード	VLAN ID	ユーザDB	編集	削除
SSID-Sample	1	12	USER1		

## Model2 のネットワーク分離を設定する

Model2 は、MAC アドレスと IP アドレスで送信元を識別して、VLAN ID を決定します。設定したアクセスルールに従って VLAN TAG を付与します。



### ■ 設定ファイルを作成する

Model2 の設定に必要な CSV ファイルは ACL、USER1、SSID です。これらのファイルを事前に、作成してください。なお、各 CSV ファイルの記載内容は、次のとおりです。

#### ●ACL.csv

NAME	VID 注1	Server list 注2
Rule1	10	
Rule2	20	

注1: 使用する VID を記載します。

注2: Model2 では、使用しません。CSV ファイルへの記載は不要です。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。

```

ACL.csv - メモ帳
ファイル(E) 編集(E) 書式(O)
NAME,VID,Server list
Rule1,10,
Rule2,20,
    
```

#### ●USER1.csv

User Name	MAC address	Access Class 注1	Access rule 注2
STA1	00:11:22:33:44:55	AC_VO	Rule1
STA2	66:77:88:99:aa:bb	AC_VO	Rule2

注1: ネットワークアクセスの優先度を記載します。設定値は次のとおりです。

Voice : 「AC\_VO」  
Video : 「AC\_VI」  
Best Effort : 「AC\_BE」  
Background : 「AC\_BK」

注2: ACL.csv で設定したアクセスルールに沿った NAME を記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。

```

USER1.csv - メモ帳
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
User Name,MAC address,Access Class,Access rule
STA1,00:11:22:33:44:55,AC_VO,Rule1
STA2,66:77:88:99:aa:bb,AC_VO,Rule2
    
```

●SSID.csv

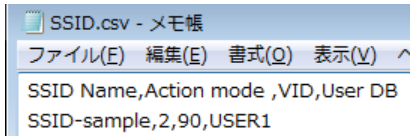
SSID Name	Action mode 注1	VID 注2	User DB 注3
SSID-sample	2	90	USER1

注1: ACLモード「2」を記載します。

注2: Model2 では、使用しません。任意の数値を記載してください。

注3: USER1.csv をインポートするときに設定する User DB 名を記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



■設定ファイルをインポートする

- 1 ACL.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 2 「アクセスルールリスト」に ACL.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

アクセスルールリスト (最大数: 64)

アクセスルール名	VLAN ID	編集	削除
Rule1	10		
Rule2	20		

- 3 USER1.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 4 「ユーザ DB を選択して下さい」で「USER1」を選択します。

ユーザDBを選択して下さい

- 5 「ユーザ DB リスト」に USER1.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

ユーザDBリスト (最大数: 128)

ユーザ名	MAC Address	Access Class	アクセスルール	編集	削除
STA1	00:11:22:33:44:55	Voice	Rule1		
STA2	66:77:88:99:aa:bb	Voice	Rule2		

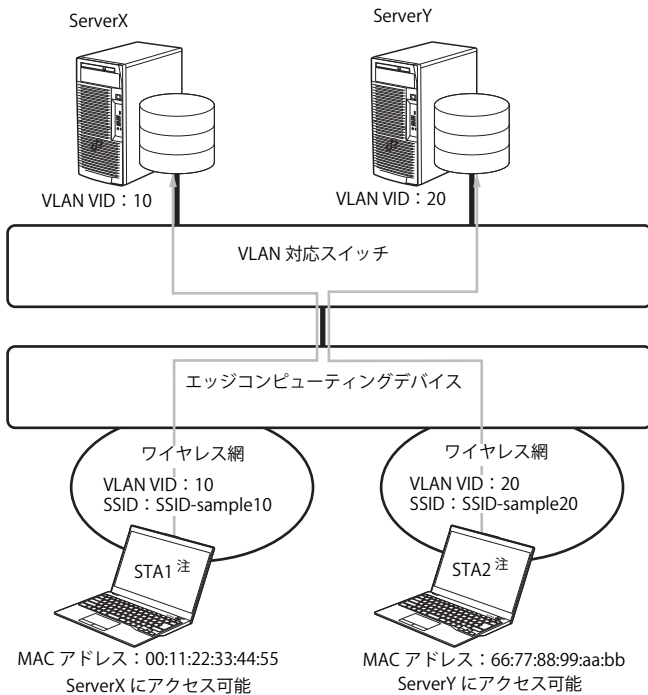
- 6 SSID.csv ファイルをインポートします (→ P.44)。
- 7 「SSID DB リスト」に SSID.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

SSID DBリスト (最大数: 32)

SSID名	ACL モード	VLAN ID	ユーザDB	編集	削除
SSID-Sample	2	90	USER1		

## Model3 のネットワーク分離を設定する

SSID で VLAN ID を決定します。  
設定したアクセスルールに従って VLAN TAG を付与します。



注：ワイヤレス網内のノートパソコンなどの端末

### ■ 設定ファイルを作成する

Model3 の設定に必要な CSV ファイルは ACL、USER1、SSID です。これらのファイルを事前に、作成してください。なお、各 CSV ファイルの記載内容は、次のとおりです。

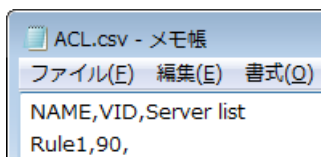
#### ●ACL.csv

NAME	VID <sup>注1</sup>	Server list <sup>注2</sup>
Rule1	90	

注1：Model3 では、使用しません。任意の数値を記載してください。

注2：Model3 では、使用しません。CSV ファイルへの記載は不要です。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



#### ●USER1.csv

User Name	MAC address	Access Class <sup>注1</sup>	Access rule <sup>注2</sup>
STA1	00:11:22:33:44:55	AC_VO	Rule1
STA2	66:77:88:99:aa:bb	AC_VO	Rule1

注1：ネットワークアクセスの優先度を記載します。設定値は次のとおりです。

Voice：「AC\_VO」

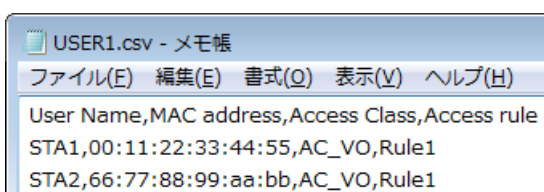
Video：「AC\_VI」

Best Effort：「AC\_BE」

Background：「AC\_BK」

注2：ACL.csv で設定したアクセスルールに沿った NAME を記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。



●SSID.csv

SSID Name	Action mode 注1	VID 注2	User DB 注3
SSID-sample10	3	10	USER1
SSID-sample20	3	20	USER1

注1: ACLモード「3」を記載します。

注2: VIDの値を記載します。

注3: USER1.csvをインポートするときに設定するユーザDB名を記載します。

上の表をCSVファイルで作成すると、下の図のようになります。



■設定ファイルをインポートする

- 1 ACL.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 2 「アクセスルールリスト」に ACL.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

アクセスルールリスト (最大数: 64)

アクセスルール名	VLAN ID	編集	削除
Rule1	90		

- 3 USER1.csv ファイルをインポートします (→ P.43)。
- 4 「ユーザDBを選択して下さい」で「USER1」を選択します。

ユーザDBを選択して下さい

- 5 「ユーザDBリスト」に USER1.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

ユーザDBリスト (最大数: 128)

ユーザ名	MAC Address	Access Class	アクセスルール	編集	削除
STA1	00:11:22:33:44:55	Voice	Rule1		
STA2	66:77:88:99:aa:bb	Voice	Rule1		

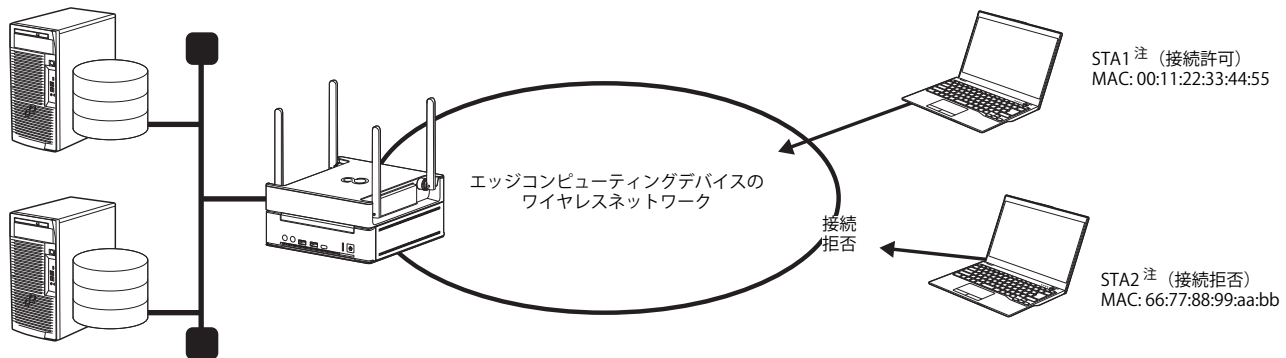
- 6 SSID.csv ファイルをインポートします (→ P.44)。
- 7 「SSID DB リスト」に SSID.csv ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

SSID DBリスト (最大数: 32)

SSID名	ACLモード	VLAN ID	ユーザDB	編集	削除
SSID-sample10	3	10	USER1		
SSID-sample20	3	20	USER1		

## MAC フィルタ

MAC フィルタは STA の MAC アドレスを使用して、ワイヤレス網への接続を許可または拒否する機能です。ここでは、特定の STA のみワイヤレス網への接続を許可する場合を例に説明します。



注：ワイヤレス網内のノートパソコンなどの端末

次の設定条件を例に MAC フィルタを構築します。

- ・ 周波数帯 : 5GHz
- ・ SSID : SSID-sample
- ・ MAC フィルタモード : 許可

### ■ 設定ファイルを作成する

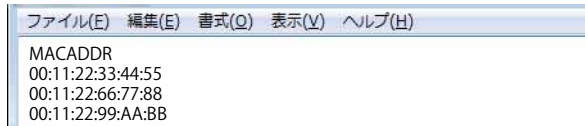
CSV ファイルを事前に作成してください。なお、CSV ファイルの記載内容は、次のとおりです。

#### ● mac\_filter.csv

MACADDR 注
00:11:22:33:44:55
00:11:22:66:77:88
00:11:22:99:AA:BB

注：接続許可する MAC アドレスを記載します。

上の表を CSV ファイルで作成すると、下の図のようになります。





## ■ 設定ファイルをインポートする

1 「詳細設定」→「ネットワーク」→「無線」→「MACフィルタ」の順にクリックします。



2 基本設定の各項目を次のように設定します。

- ・ 周波数帯 : 5GHz
- ・ SSID : SSID-sample
- ・ MAC フィルタ : 有効
- ・ MAC フィルタモード : 許可

### 基本設定

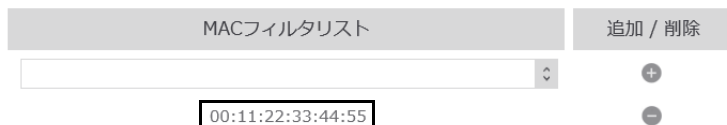


3 「MAC アドレスリスト」をインポートで、作成した CSV ファイルを選択し、「実行」をクリックします。



4 「MAC フィルタリスト」に CSV ファイルの設定が読み込まれたことを確認します。

### MACフィルタリスト (最大数: 64)



#### POINT

▶MACアドレスを手動で設定する場合は、次の操作を行ってください。

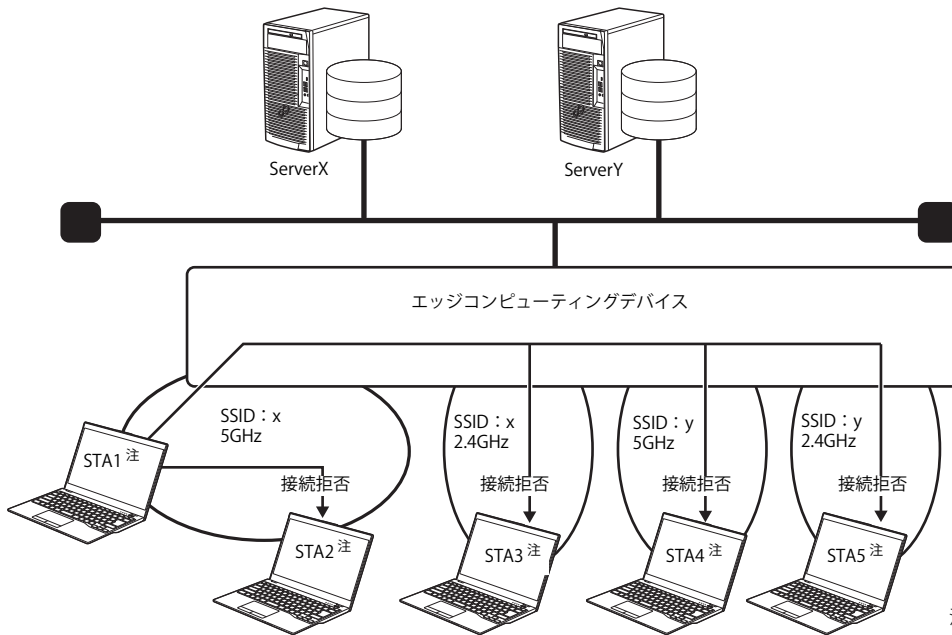
### MACフィルタリスト (最大数: 64)



1. 「MAC フィルタリスト」に MAC アドレスを入力します。
2. 「追加/削除」で、+ (追加) をクリックします。

## プライバシープロテクション

プライバシープロテクションはSTAのセキュリティを確保するため、STA間の通信を制限する機能です。ここでは、STA間の通信をすべて制限する場合の設定について説明します。



### ■ プライバシープロテクションを有効にする

- 1 「詳細設定」→「セキュリティ」→「ACL」の順にクリックします。



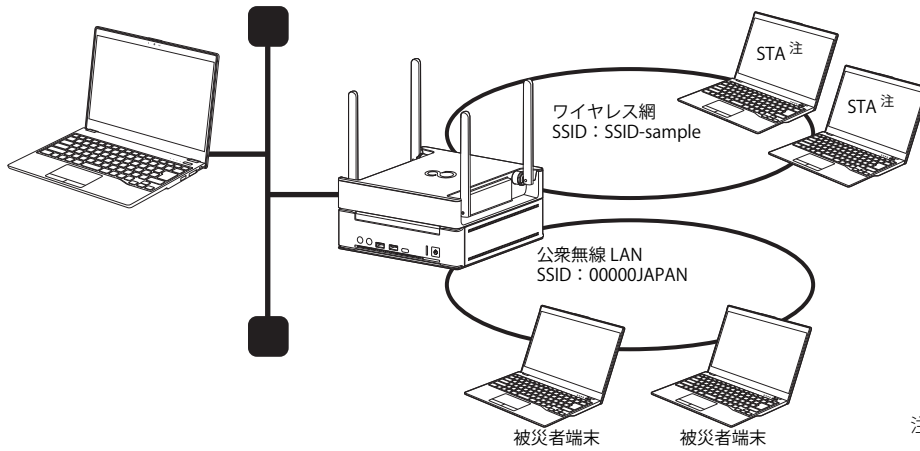
- 2 「同一 SSID 内の通信禁止」と「異なる SSID 間の通信禁止」を「有効」に設定して、「適用」をクリックします。

### プライバシープロテクション



## 緊急モード

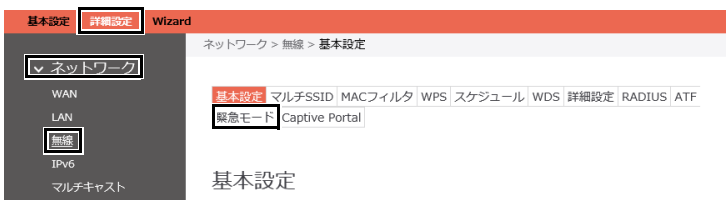
大規模災害発生時に公衆無線 LAN を無料開放することができます。  
「公衆無線 LAN の無料開放に関するガイドライン」に基づき SSID などの初期設定は完了しています。  
必要に応じて SSID 名の変更が可能です。



注：ワイヤレス網内のノートパソコンなどの端末

### ■ 緊急モードを起動する

- 1 「詳細設定」→「ネットワーク」→「無線」→「緊急モード」の順にクリックします。



- 2 「緊急モード」で「有効」にチェックを付け、「周波数帯」を「2.4GHz/5GHz」「2.4GHz」「5GHz」の中から選択し、「適用」をクリックします。



### 重要

▶緊急モードにてMACフィルタを有効にした場合、接続を希望する端末のMACフィルタリストを別途登録する必要があります。

## インストール補助ツールを使用する (初期設定)

「インストール補助ツール」(→ P.19)は、本製品に添付されておられません。「インストール補助ツール」を使用する場合は、「インストール補助ツールとアップデートパックのダウンロード」(→ P.23)をご覧ください。

ダウンロード後、「01\_BasicFunction\_BaseAPP\_Install.cmd」を実行して本製品を再起動した後、「02\_BasicFunction\_BaseAPP\_Install.cmd」を実行してください。なお、バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで実行してください。次のインストールと設定が自動で行われます。

「エクスプローラーの設定」(→ P.56)～「メンテナンス機能各種サービスの追加」(→ P.81)

バッチファイルの実行が完了したら、本製品を再起動して、「管理画面の初期パスワード変更」(→ P.82)からインストールと設定を進めてください。なお、「インストール補助ツール」を使用しない場合は、本マニュアルに沿ってインストールと設定を行ってください。

## 基本アプリのインストールと設定

### 基本アプリについて

次のアプリは、本製品ですべての機能が動作するために必要な基本となるアプリです。本製品を使用するためには、このアプリを必ずインストールして設定する必要があります。

- cygwin
- Open Java Development Kit

基本アプリは、本製品のストレージに添付されています(→ P.18)。アプリのインストールや設定は、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。

### エクスプローラーの設定

エクスプローラーで、隠しファイルやフォルダー、拡張子を表示します。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システムツール」→「エクスプローラー」の順にクリックします。  
エクスプローラーが起動します。
- 2 「表示」をクリックし、「隠しファイル」と「ファイル名拡張子」にチェックを付けます。

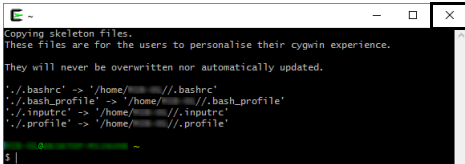
### cygwin64 フォルダの配置

- 1 「C:\cygwin64」を作成します。
- 2 「C:\Fujitsu\Software\InternetCache\cygwin64」内のすべてのファイルとフォルダーを「C:\cygwin64」にコピーします。
- 3 フォルダとファイルの構成が次のようになっていることを確認します。

フォルダとファイルの構成	
C:\cygwin64	bin
	cacheUI
	dev
	etc
	home
	lib
	opt
	sbin
	squid
	squidcontroller
	tmp
	usr
	var
	Cygwin.bat
	Cygwin.ico
Cygwin64 Terminal	
Cygwin-Terminal.ico	

- 4 「C:\cygwin64\Cygwin64 Terminal」を実行します。  
Terminal が起動した後、コマンドラインが入力可能な状態になります。

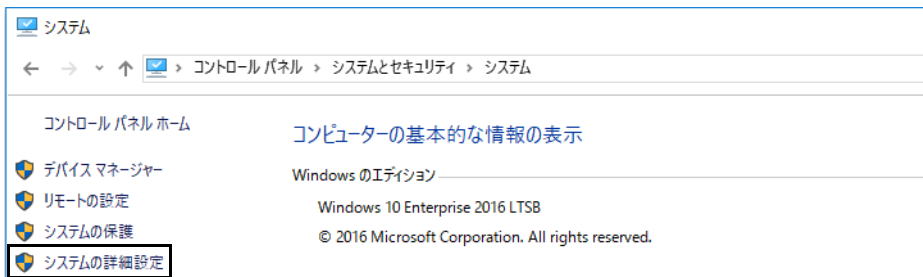
- 5 閉じるボタン ( × ) をクリックし、画面を閉じます。



- 6 「C:\cygwin64\home」に、Windows にログインしたときのユーザーフォルダーが作成されていることを確認します。

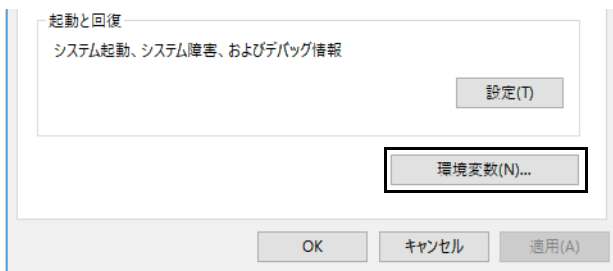
## cygwin64 フォルダの環境変数設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 3 「システムの詳細設定」をクリックします。



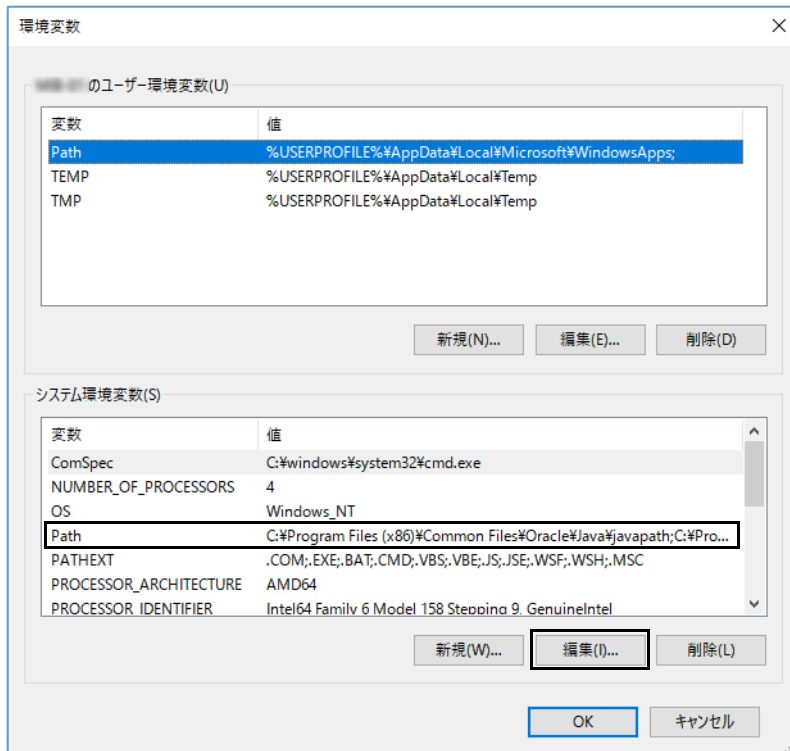
「システムのプロパティ」が表示されます。

- 4 「環境変数」をクリックします。



「環境変数」が表示されます。

5 「システム環境変数」の「Path」をクリックし、「編集」をクリックします。

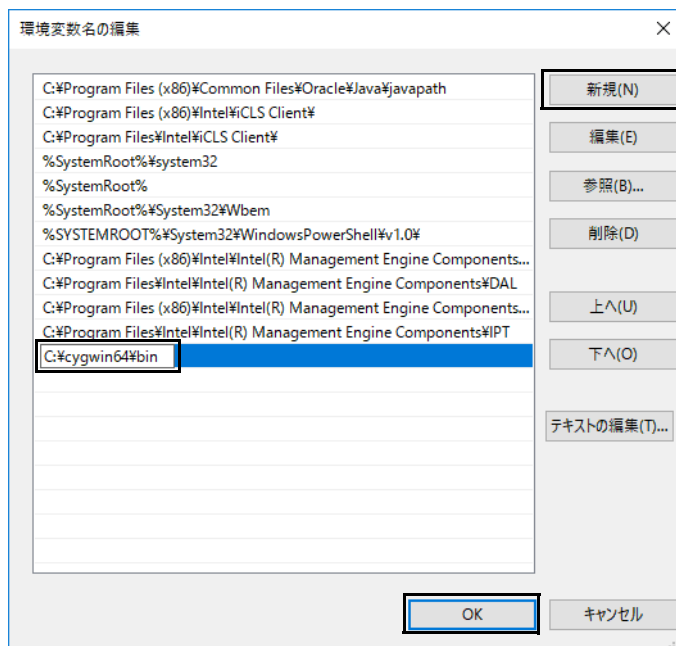


「環境変数名の編集」が表示されます。

6 「新規」をクリックし、最終行に表示されたテキストボックスに「C:\cygwin64\bin」を入力し、「OK」をクリックします。

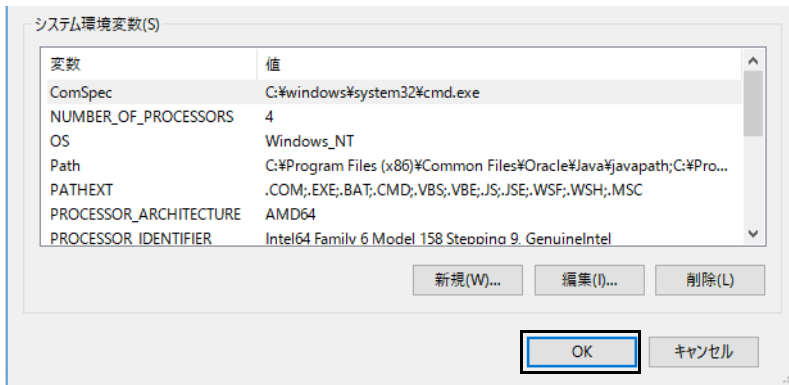
POINT

▶「C:\cygwin64\bin」の優先順位を「%SystemRoot%\System32」より上にしないでください。アプリのインストールが失敗します。



「環境変数」が表示されます。

7 「OK」 をクリックします。



## Open Java Development Kit のインストール

本製品に OpenJDK をインストールします。

1 次のフォルダーを作成します。

C:\Program Files\Java\jdk8u-jre

2 「C:\Fujitsu\Software\Java」 フォルダ内のすべてのフォルダーとファイルを手順 1 で作成した 「jdk8u-jre」 フォルダに格納します。

**POINT**

▶「このフォルダーへコピーするには管理者権限が必要です」と表示された場合は、「続行」 をクリックします。

3 フォルダとファイルの構成が次のようになっていることを確認します。

フォルダとファイルの構成	
C:\Program Files\Java\jdk8u-jre\	bin
	lib
	ASSEMBLY_EXCEPTION
	LICENSE
	openj9-notices.html
	openj9-openjdk-notices
	release
	THIRD_PARTY_README

## Open Java Development Kit の環境変数設定

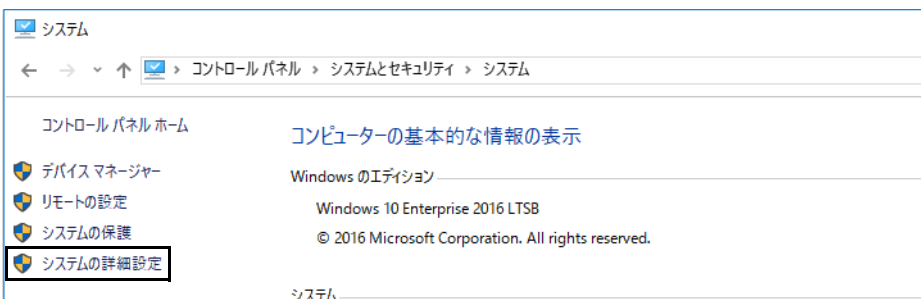
OpenJDK の環境変数を設定します。

1 「コントロールパネル」 を表示します (→ P.6)。

「コントロールパネル」 が表示されます。

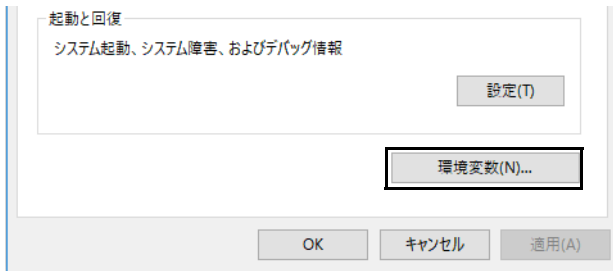
2 「システムとセキュリティ」 → 「システム」 の順にクリックします。

3 「システムの詳細設定」 をクリックします。



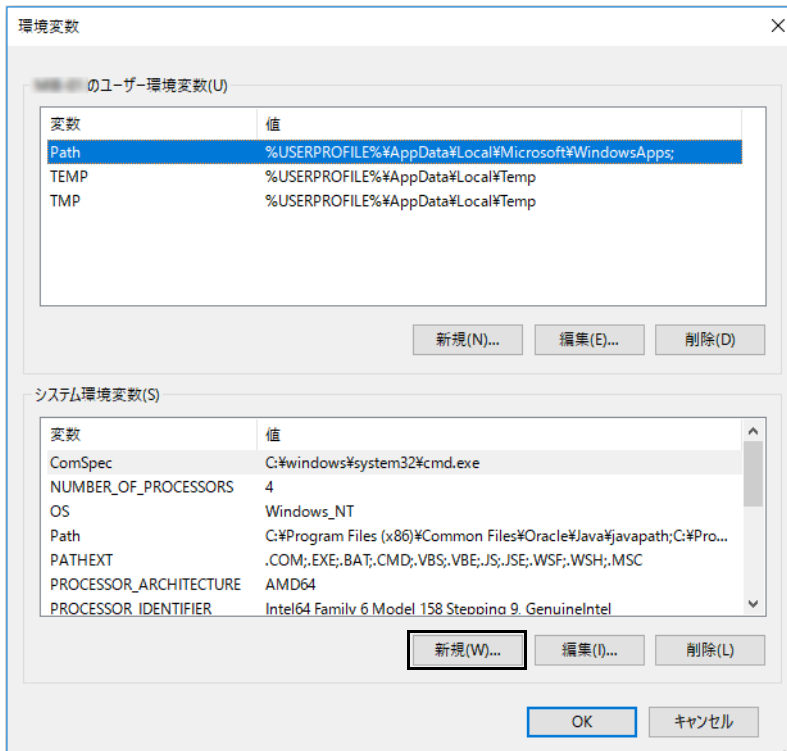
「システムのプロパティ」 が表示されます。

4 「環境変数」をクリックします。



「環境変数」が表示されます。

5 「システム環境変数」の「新規」をクリックします。

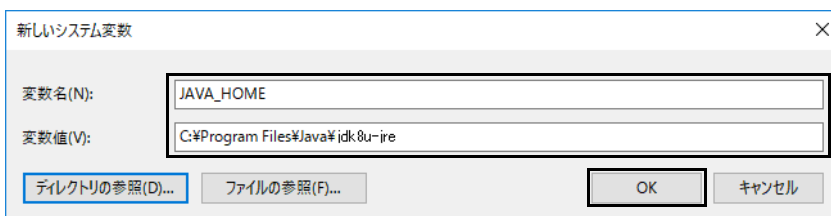


「新しいシステム変数」が表示されます。

6 変数名と変数値に次の値を入力し、「OK」をクリックします。

変数名：「JAVA\_HOME」

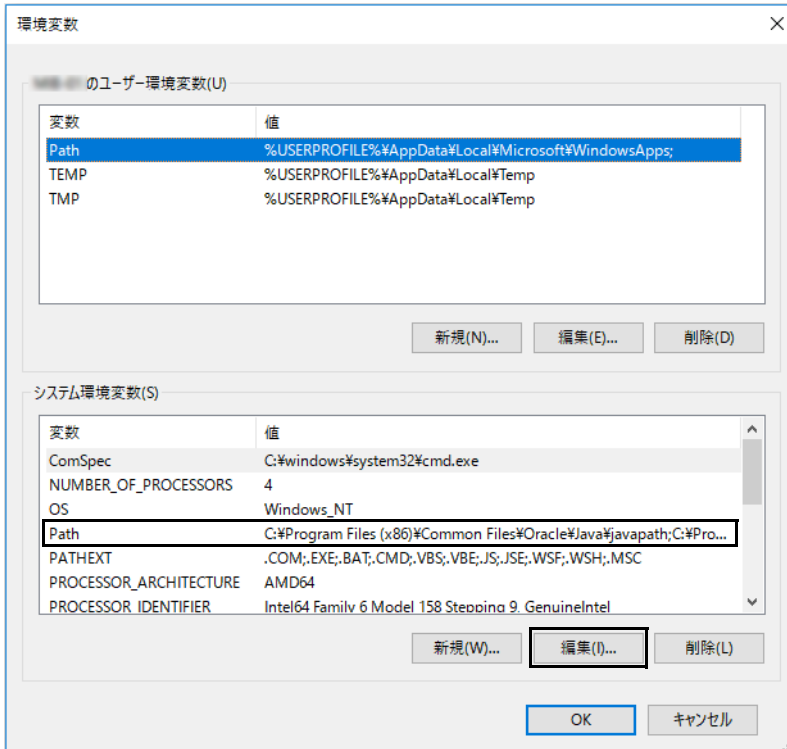
変数値：「C:\Program Files\Java\jdk8u-jre」



「環境変数」が表示されます。



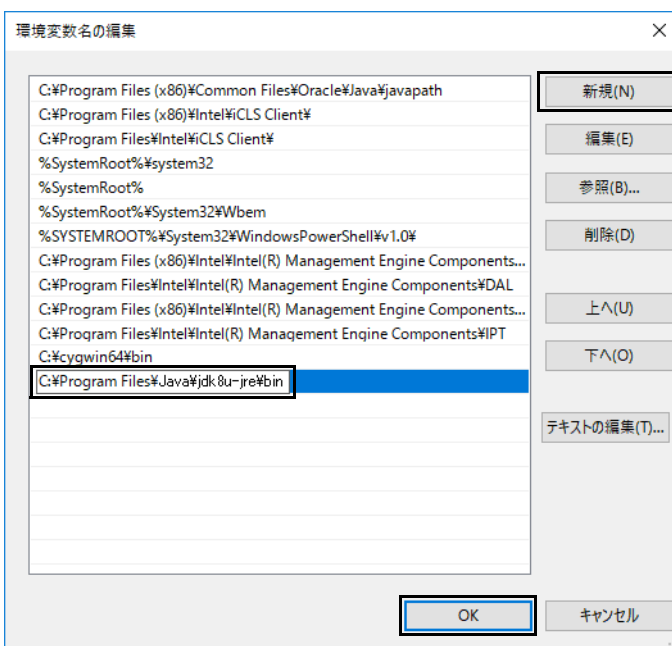
7 「システム環境変数」の「Path」をクリックし、「編集」をクリックします。



「環境変数名の編集」が表示されます。

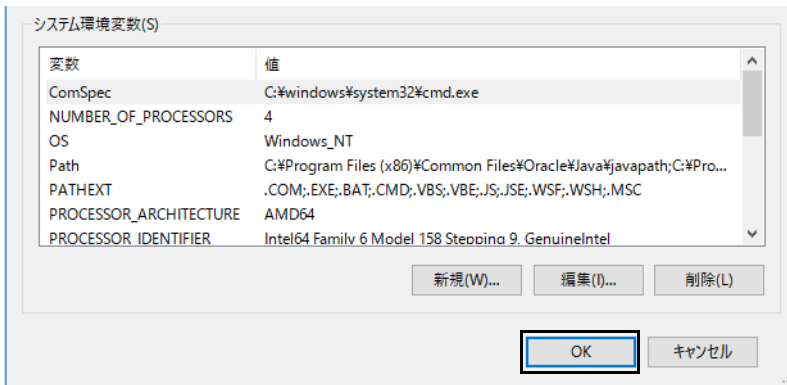
8 「新規」をクリックし、最後行に表示されたテキストボックスに次のフォルダーのパスを入力し、「OK」をクリックします。

「C:\Program Files\Java\jdk8u-jre\bin」



「環境変数」が表示されます。

9 「OK」をクリックします。



10 「OK」をクリックします。

### メンテナンス機能のフォルダーの配置

- 1 「C:\SmartMaintenance」フォルダーを作成します。
- 2 「C:\Fujitsu\Software\SmartMaintenance」内のすべてのファイルとフォルダーを「C:\SmartMaintenance」にコピーします。
- 3 フォルダーとファイルの構成が次のようになっていることを確認します。

フォルダーとファイルの構成	
C:\SmartMaintenance\	bat
	Batch
	ElasticSearch
	Java
	Logstash
	Management
	nginx
	OSS
	Other
	mib.ini

### セキュリティ除外設定

市販のセキュリティ対策ソフトをインストールしている場合は、お使いのセキュリティ対策ソフトによって本製品が正常に動作しない場合があります。セキュリティ対策ソフトのマニュアルをご覧になり、次のファイルをチェック対象から除外してください。

C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe  
C:\cygwin64\squid\bin\squidclient.exe

## ファイアウォールの設定

メンテナンス機能で使用するアプリやポートについて、ファイアウォール経由の通信を許可する設定を行います。ここでは、本製品に Windows ファイアウォールを設定する方法を説明します。

### POINT

- ▶ 市販のセキュリティ対策ソフトをインストールしている場合は、セキュリティ対策ソフトのマニュアルをご覧ください。ファイアウォールの設定を行ってください。

### ●設定が必要なプログラム

通信許可設定が必要なアプリは、次のとおりです。「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべての接続で通信を許可してください。

プログラム	プログラムのパス	受信/送信
nginx.exe	C:\SmartMaintenance\nginx\nginx.exe	受信
Open Java Development Kit	C:\Program Files\Java\jdk8u-jre\bin\java.exe	受信

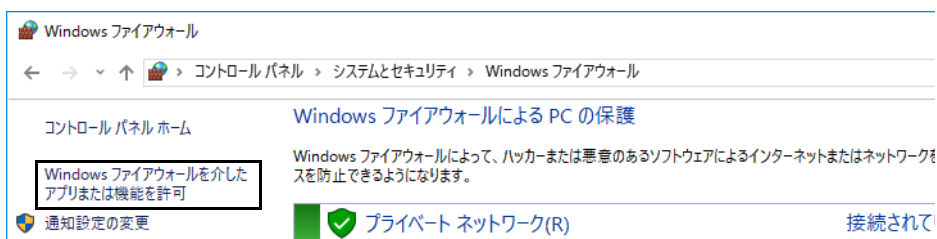
### ●設定が必要なポート

通信許可設定が必要なポートは、次のとおりです。「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべての接続で通信を許可してください。

用途	プロトコル	ポート	設定対象のプログラムのパス	受信/送信
管理画面	TCP	10080	-	受信
Squid Cache Server	TCP	8080	C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe	受信
Squid ICP	TCP	3130	C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe	受信
Squid ICP2	UDP	3130	C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe	受信

## nginx.exe の許可設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→「Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可」の順にクリックします。



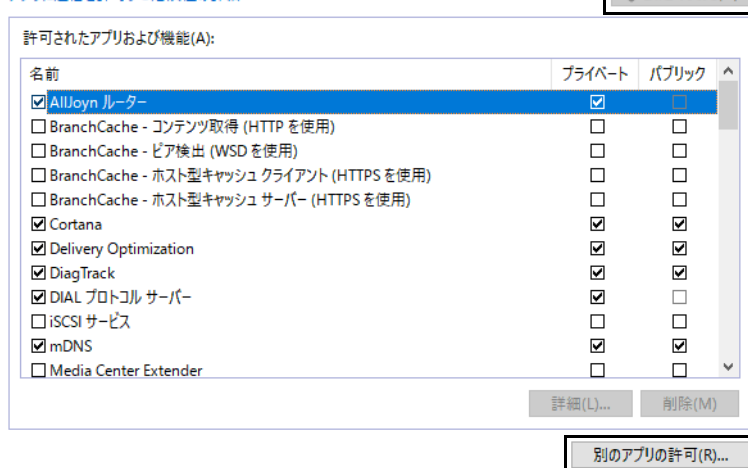
「アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する」が表示されます。

- 3 「設定の変更」をクリックし、「別のアプリの許可」をクリックします。

### アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する

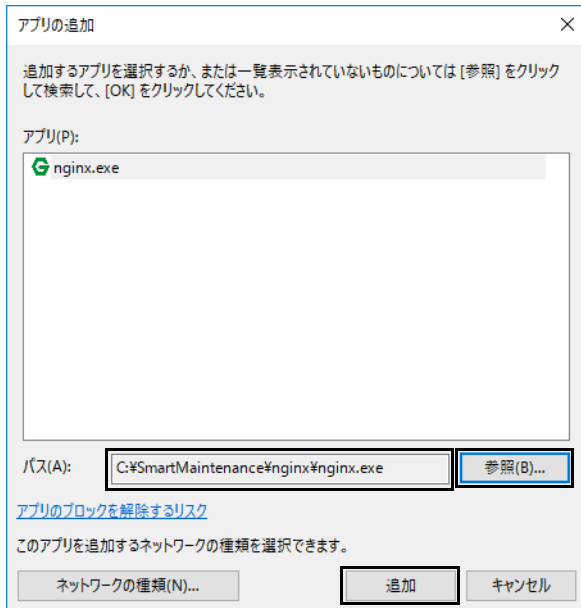
許可されたアプリおよびポートを追加、変更、または削除するには、[設定の変更] をクリックします。

アプリに通信を許可する危険性の詳細



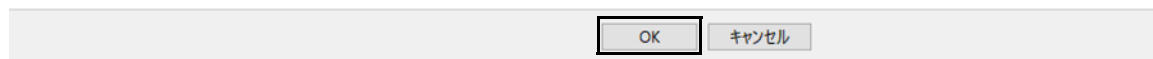
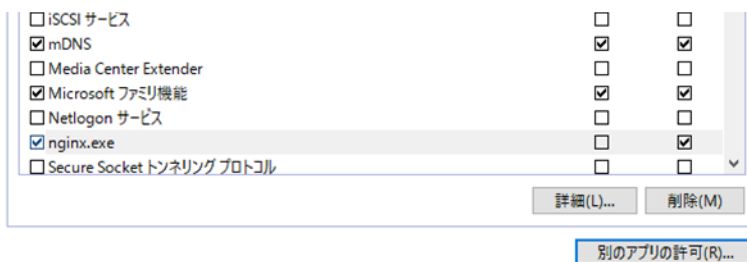
「アプリの追加」が表示されます。

4 「参照」をクリックした後、「C:\SmartMaintenance\nginx\nginx.exe」を指定し、「追加」をクリックします。



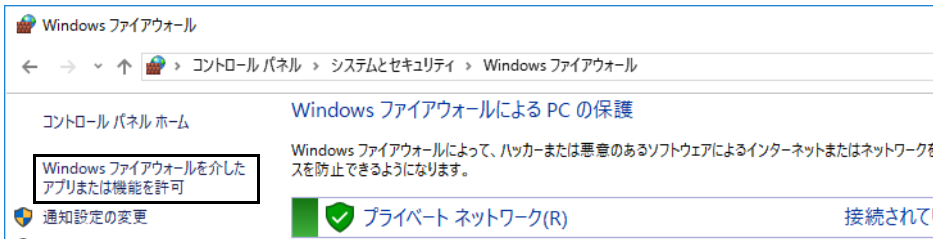
「アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する」が表示されます。

5 「OK」をクリックします。



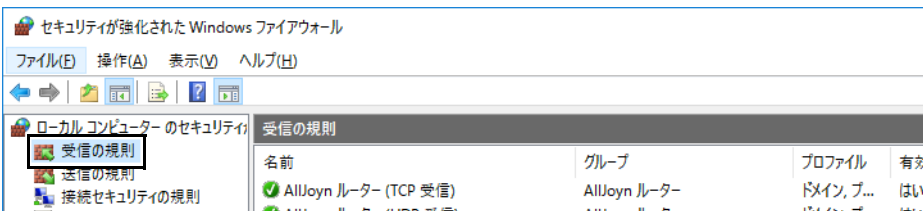
## 管理画面の許可設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→「詳細設定」の順にクリックします。



「アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する」が表示されます。

- 3 「受信の規則」をクリックします。



- 4 画面右側の「新しい規則...」をクリックします。



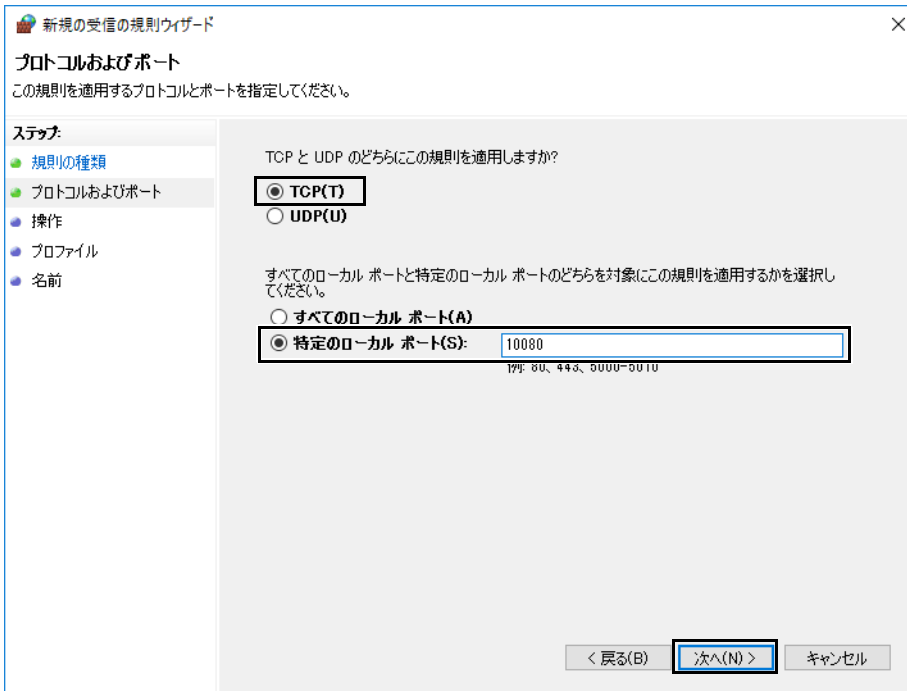
「規則の種類」が表示されます。

- 5 「ポート」を選択し、「次へ」をクリックします。



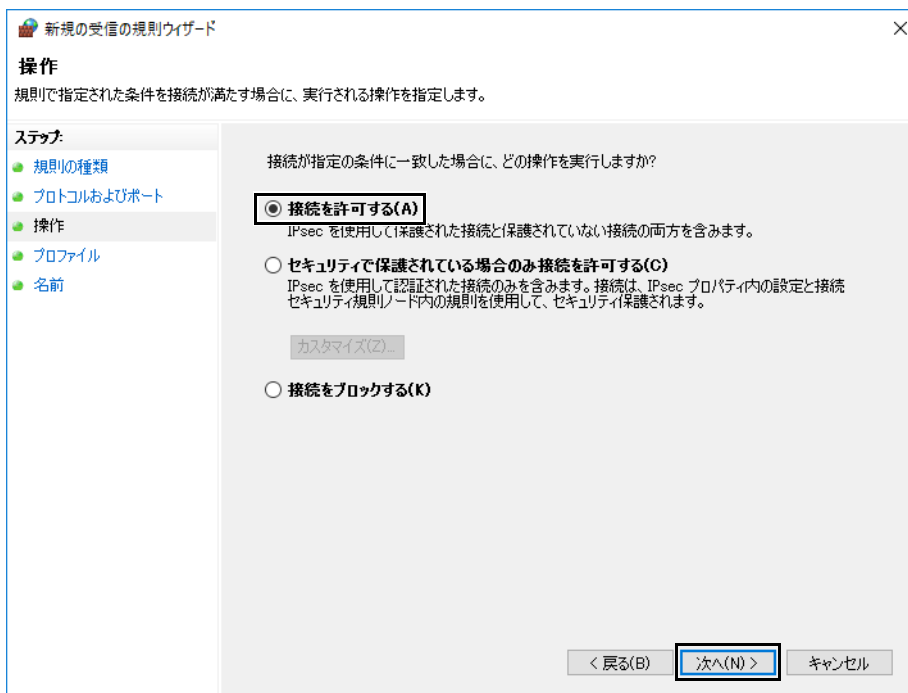
「プロトコルおよびポート」が表示されます。

- 6 プロトコルを「TCP」に設定し、ポートを「特定のローカルポート」に設定して「10080」を入力した後、「次へ」をクリックします。



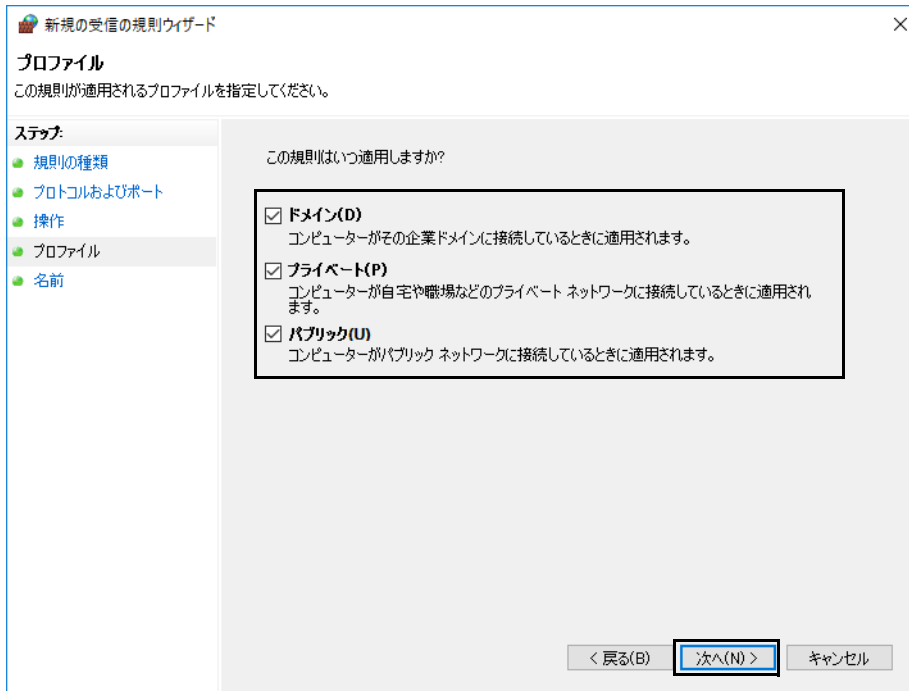
「操作」が表示されます。

- 7 「接続を許可する」を選択し、「次へ」をクリックします。



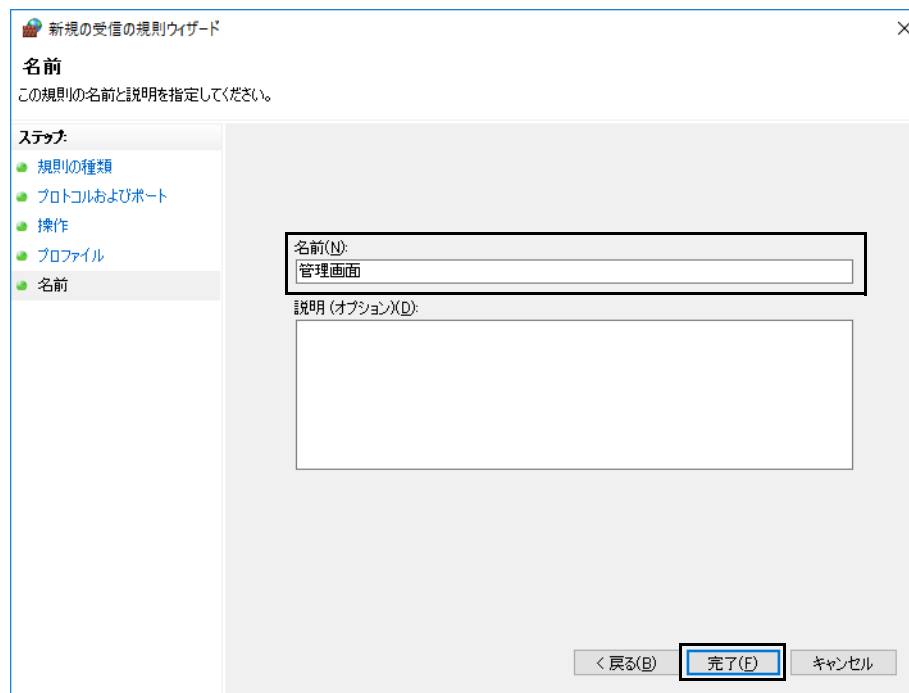
「プロファイル」画面が表示されます。

8 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべてにチェックを付け、「次へ」をクリックします。



「名前」が表示されます。

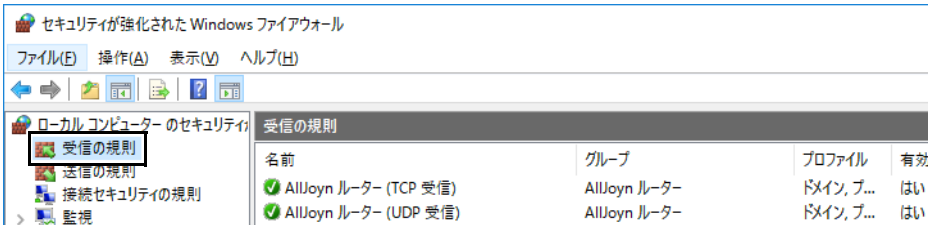
9 「名前」に「管理画面」を入力し、「完了」をクリックします。



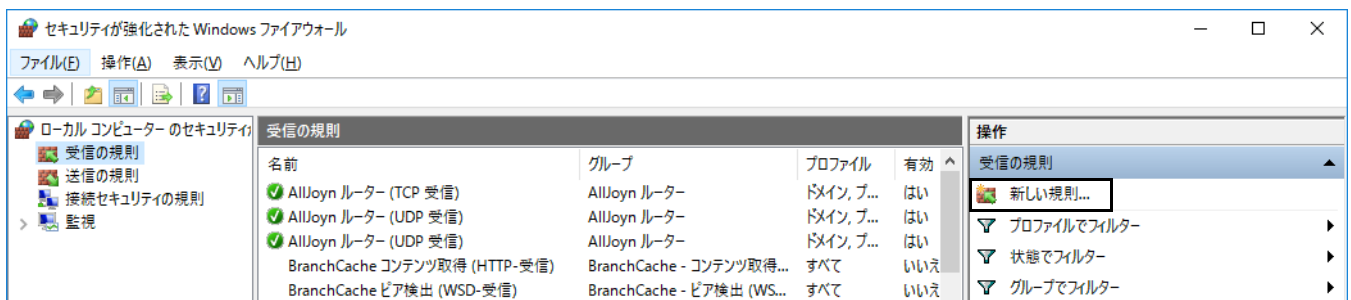
「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。

## Squid Cache Server の許可設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→「詳細設定」の順にクリックします。  
「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。
- 3 「受信の規則」をクリックします。

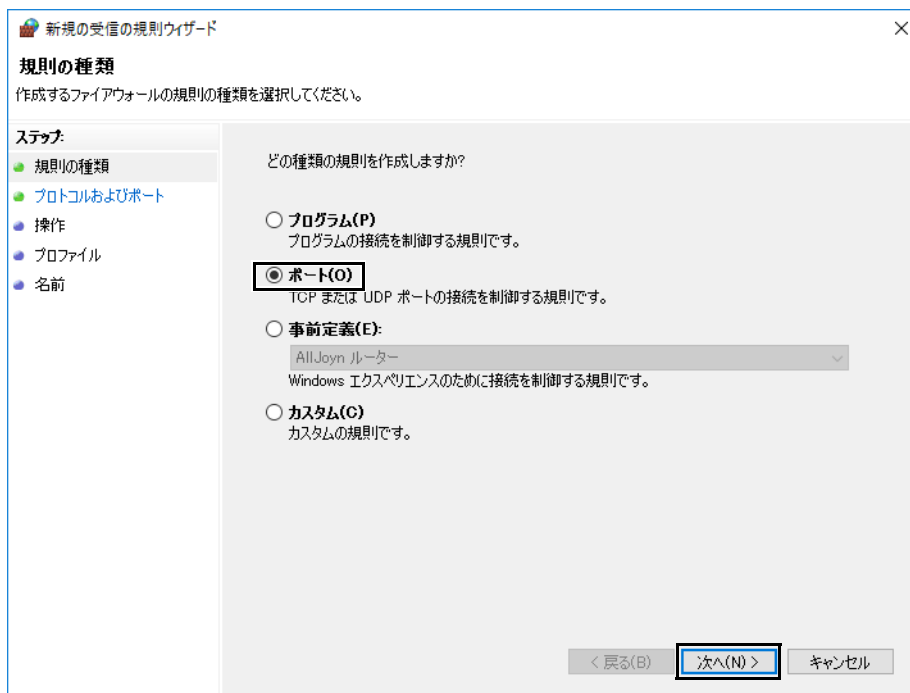


- 4 画面右側の「新しい規則...」をクリックします。



「規則の種類」が表示されます。

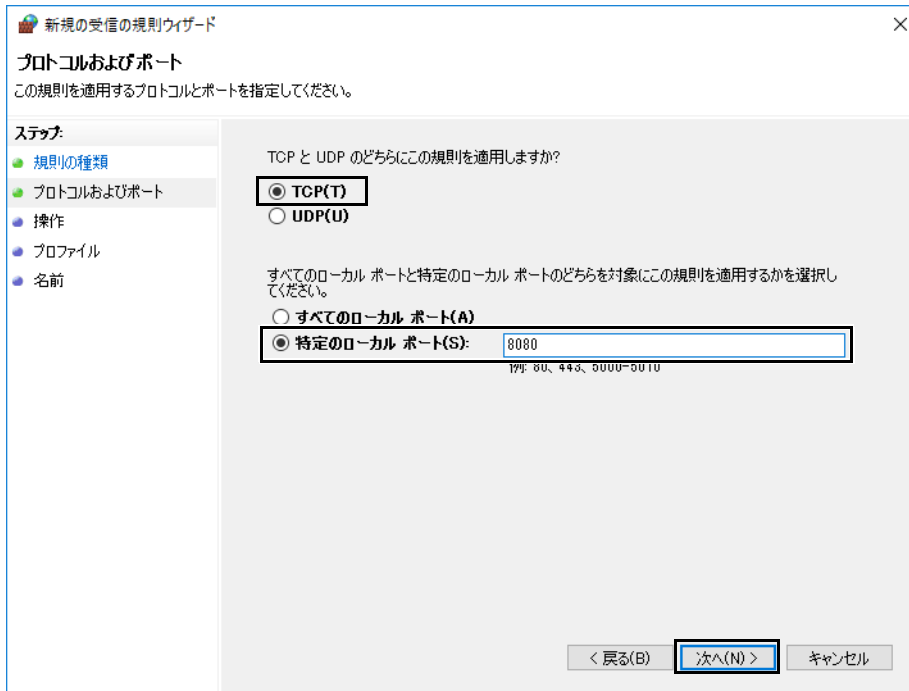
- 5 「ポート」を選択し、「次へ」をクリックします。



「プロトコルおよびポート」が表示されます。

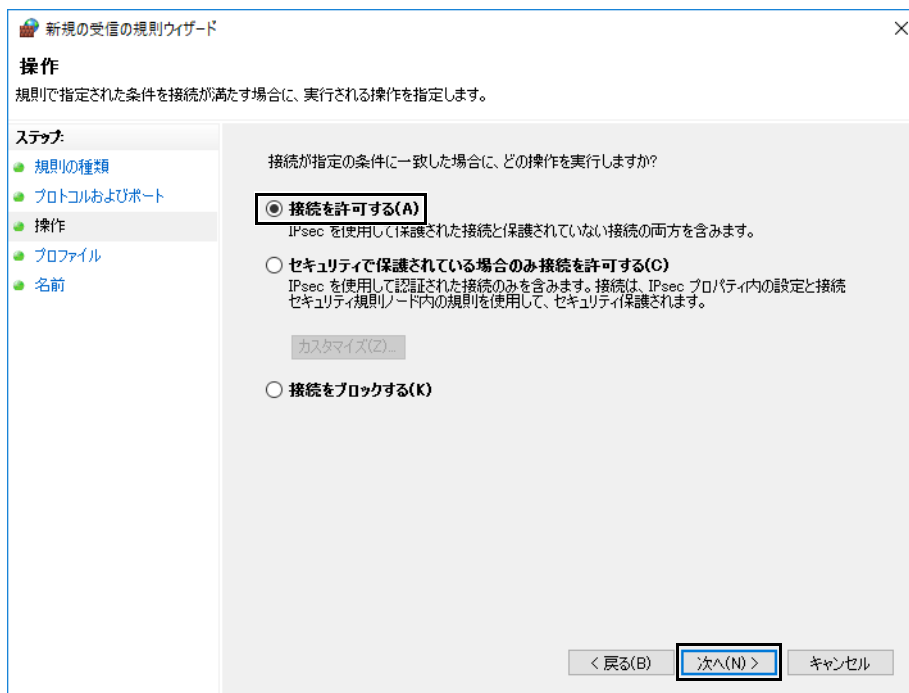


- 6 プロトコルを「TCP」に設定し、ポートを「特定のローカルポート」に設定して「8080」を入力した後、「次へ」をクリックします。



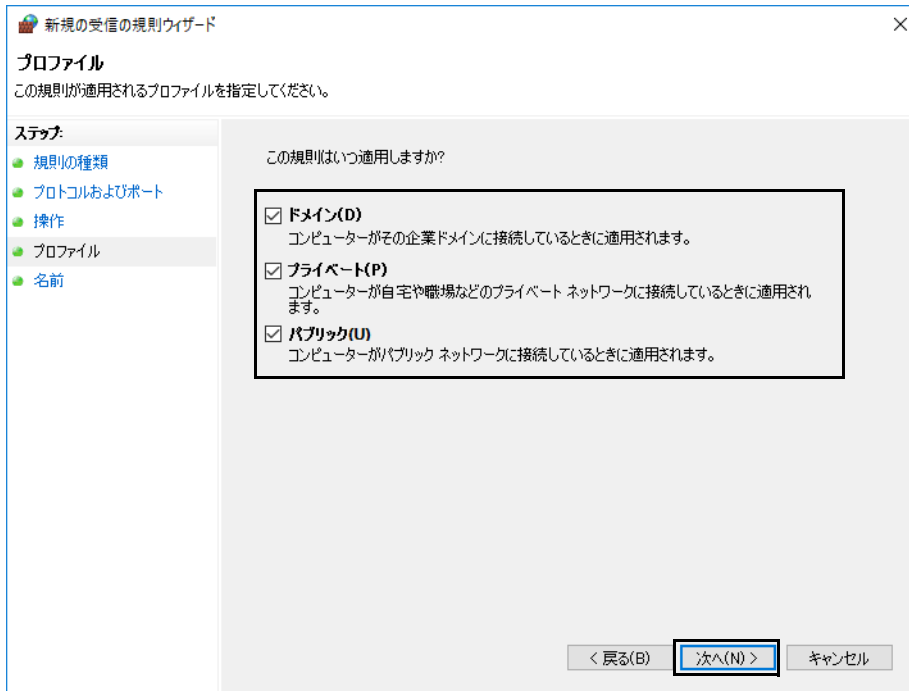
「操作」が表示されます。

- 7 「接続を許可する」を選択し、「次へ」をクリックします。



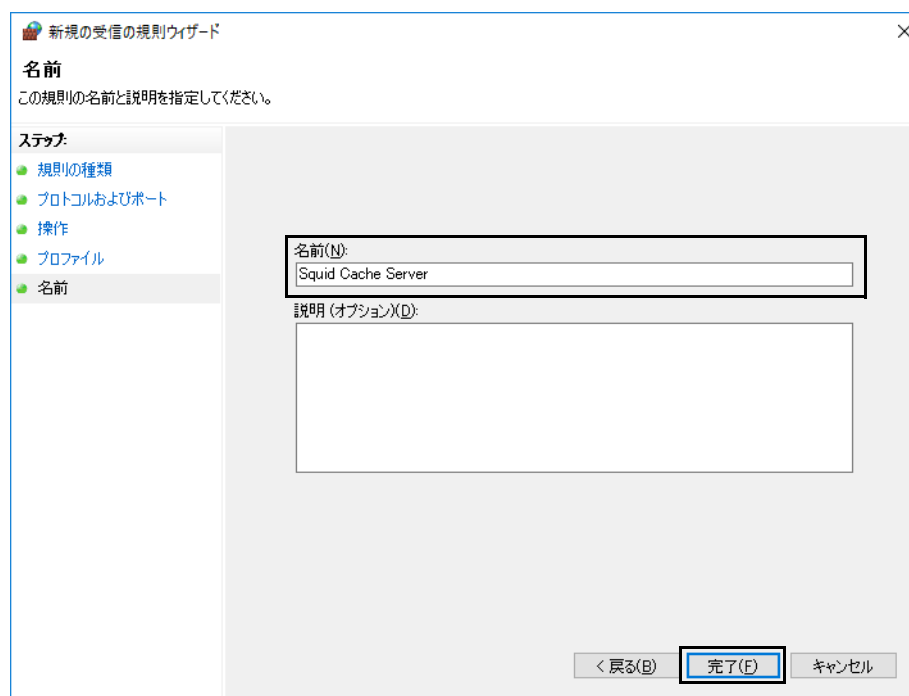
「プロファイル」画面が表示されます。

- 8 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべてにチェックを付け、「次へ」をクリックします。



「名前」が表示されます。

- 9 「名前」に「Squid Cache Server」を入力し、「完了」をクリックします。

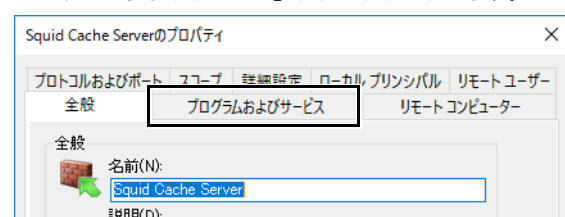


「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。

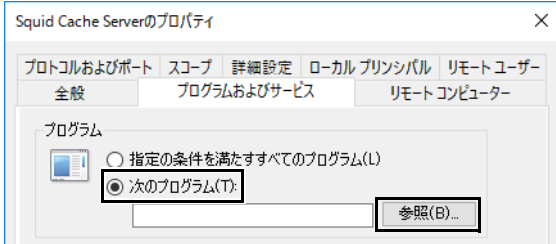
- 10 「Squid Cache Server」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「Squid Cache Server のプロパティ」が表示されます。

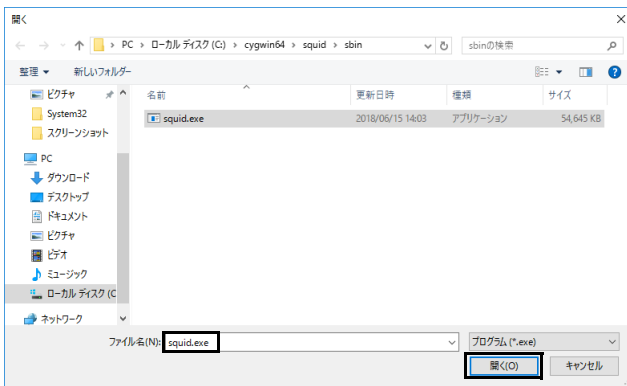
- 11 「プログラムおよびサービス」タブをクリックします。



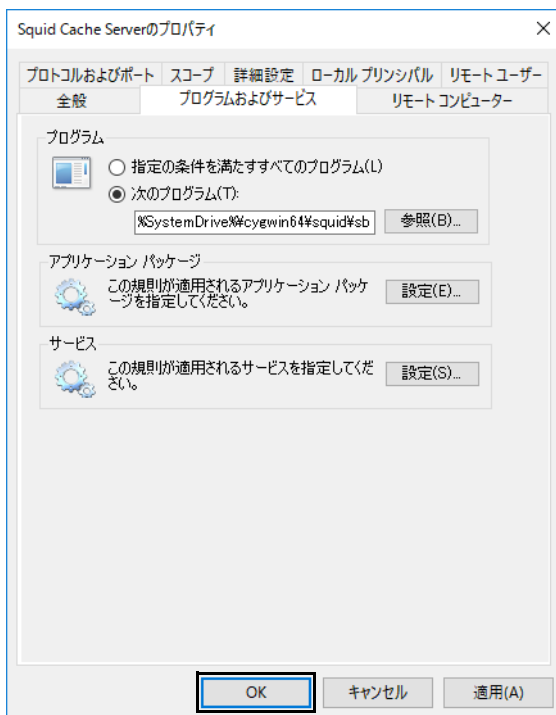
12 「次のプログラム」を選択し、「参照」をクリックします。



13 「C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe」を選択し、「開く」をクリックします。



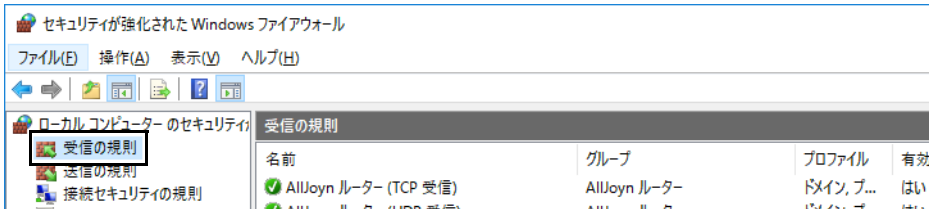
14 「OK」をクリックします。



## Squid ICP の許可設定

### ■ Squid ICP の設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→「詳細設定」の順にクリックします。  
「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。
- 3 「受信の規則」をクリックします。

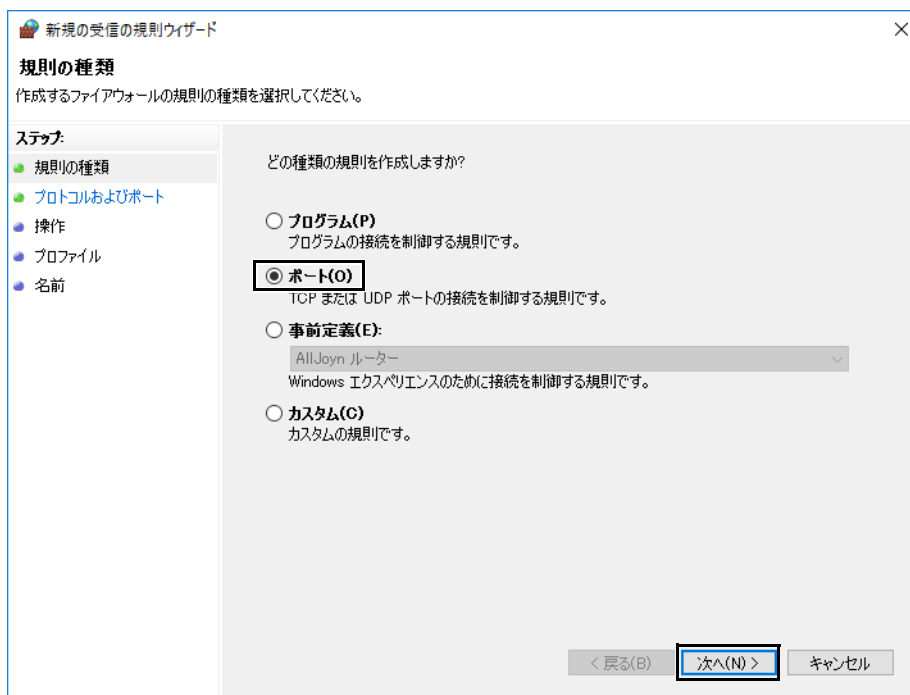


- 4 画面右側の「新しい規則...」をクリックします。



「規則の種類」が表示されます。

- 5 「ポート」を選択し、「次へ」をクリックします。



「プロトコルおよびポート」が表示されます。

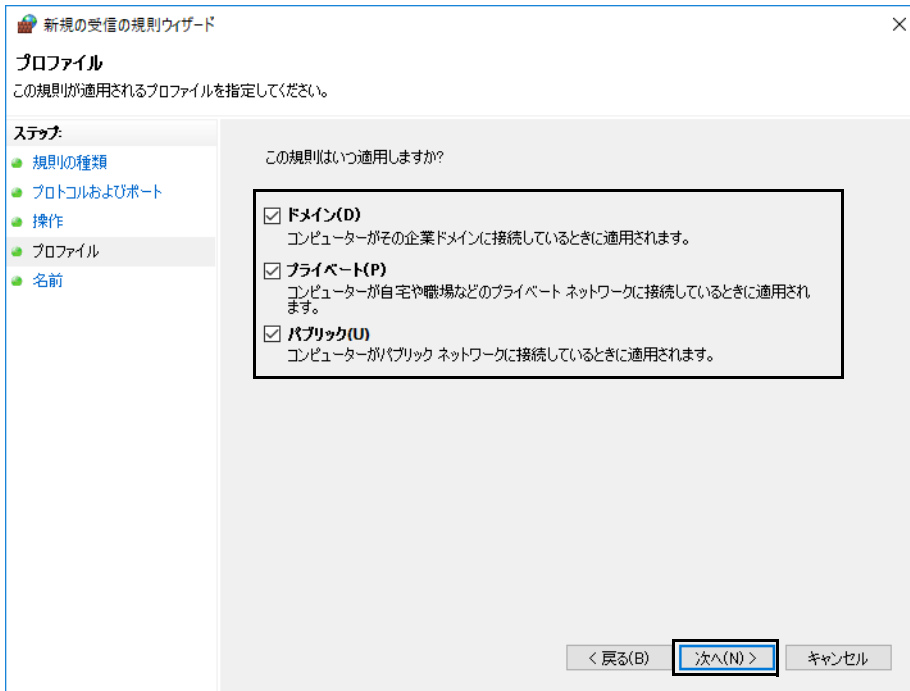
- 6 プロトコルを「TCP」に設定し、ポートを「特定のローカルポート」に設定して「3130」を入力した後、「次へ」をクリックします。

「操作」が表示されます。

- 7 「接続を許可する」を選択し、「次へ」をクリックします。

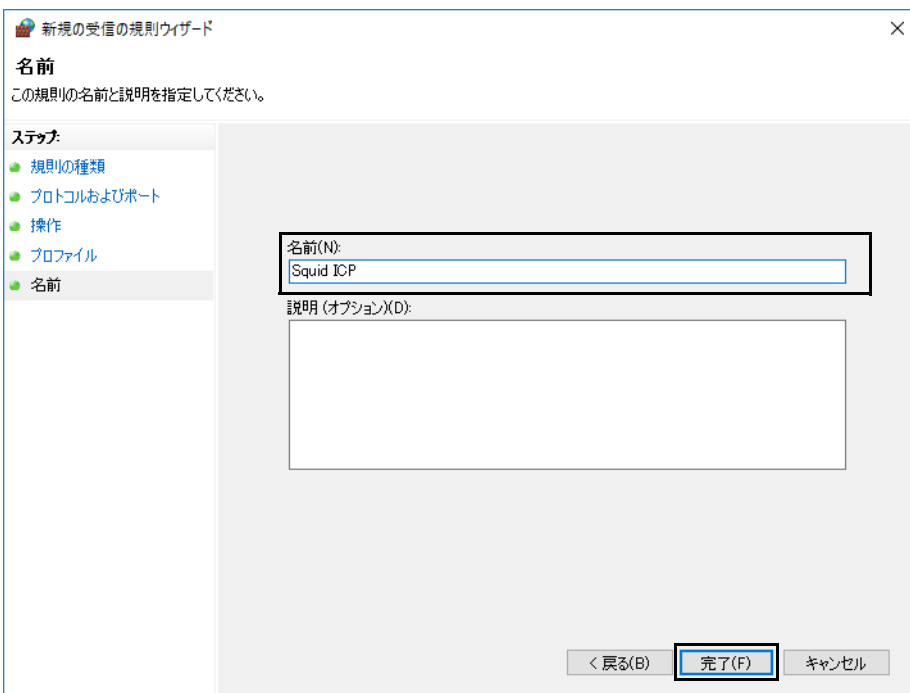
「プロファイル」画面が表示されます。

- 8 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべてにチェックを付け、「次へ」をクリックします。



「名前」が表示されます。

- 9 「名前」に「Squid ICP」を入力し、「完了」をクリックします。

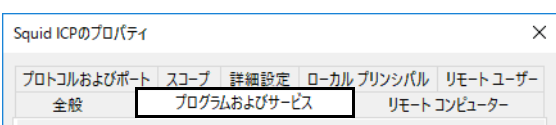


「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。

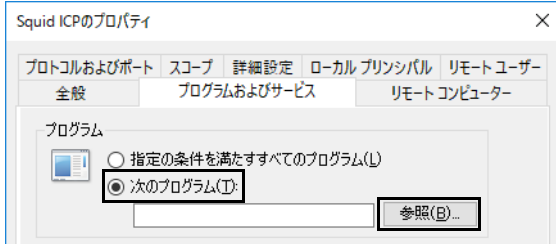
- 10 「Squid ICP」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「Squid ICP のプロパティ」が表示されます。

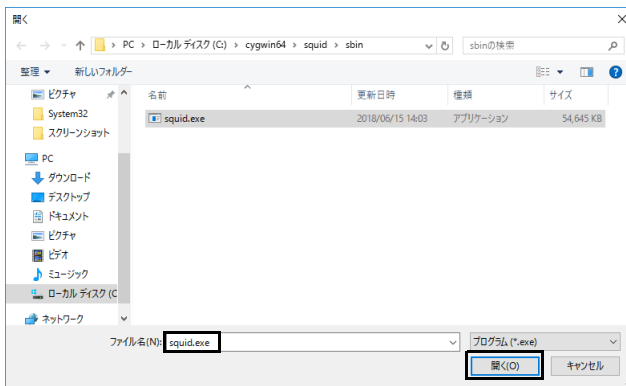
- 11 「プログラムおよびサービス」タブをクリックします。



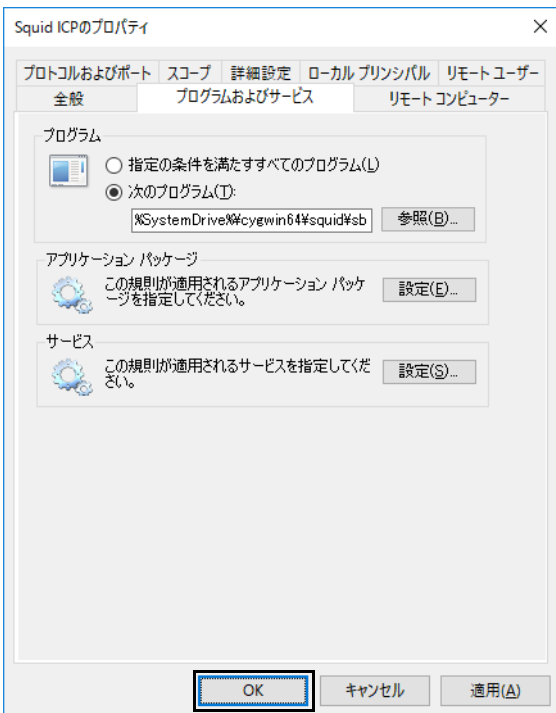
12 「次のプログラム」を選択し、「参照」をクリックします。



13 「C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe」を選択し、「開く」をクリックします。

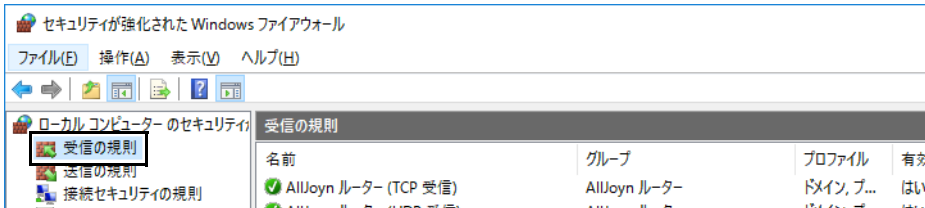


14 「OK」をクリックします。



## ■ Squid ICP2 の設定

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→「詳細設定」の順にクリックします。  
「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。
- 3 「受信の規則」をクリックします。

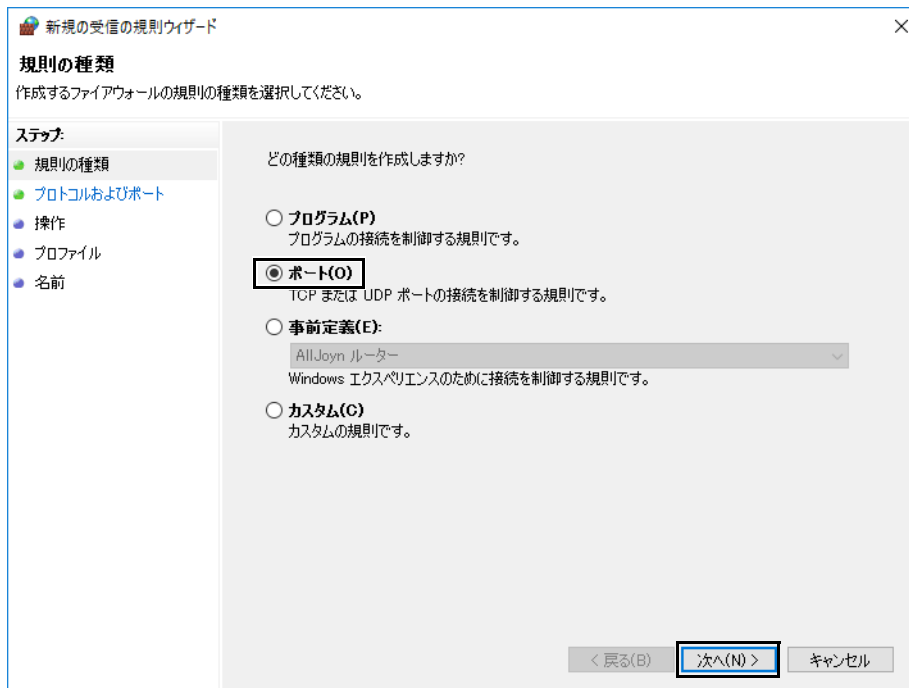


- 4 画面右側の「新しい規則...」をクリックします。



「規則の種類」が表示されます。

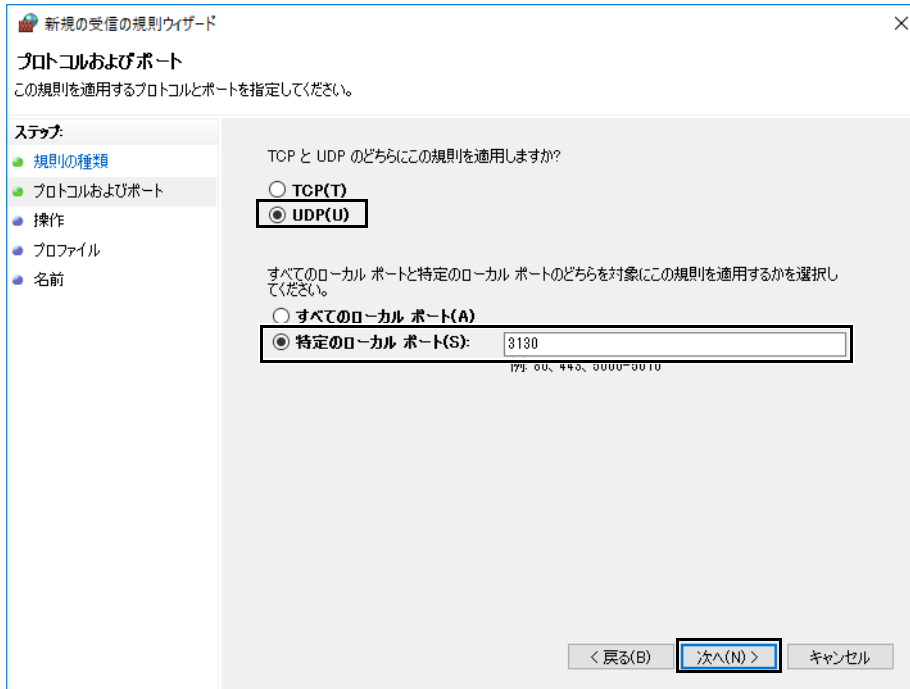
- 5 「ポート」を選択し、「次へ」をクリックします。



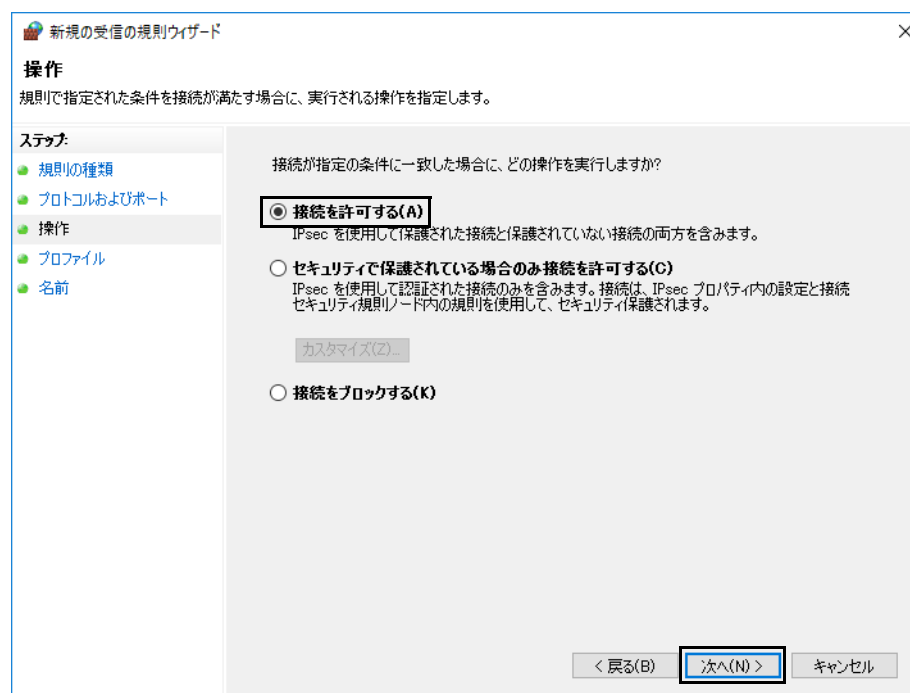
「プロトコルおよびポート」が表示されます。



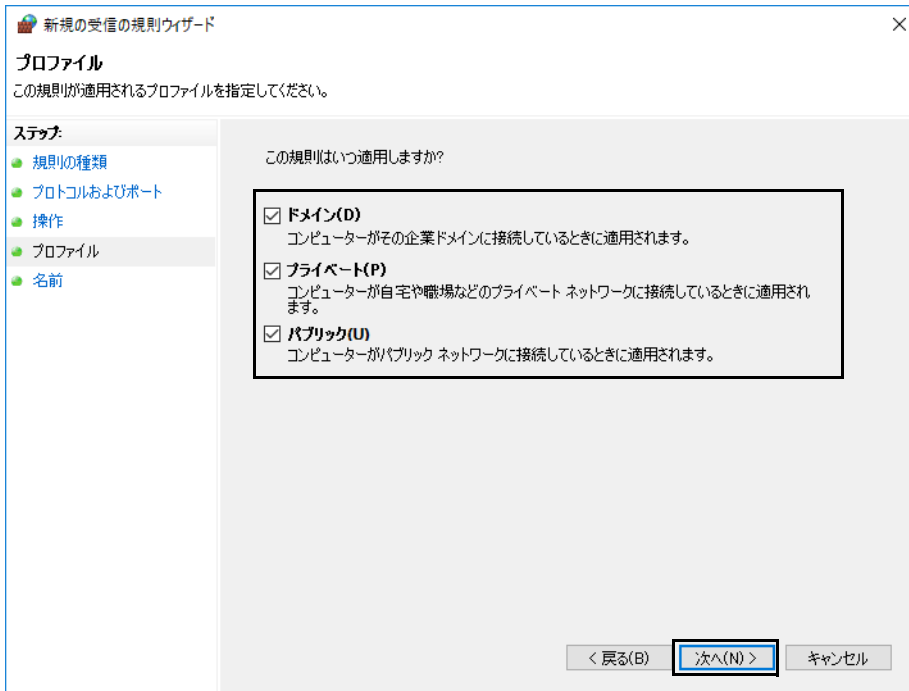
- 6 プロトコルを「UDP」に設定し、ポートを「特定のローカルポート」に設定して「3130」を入力した後、「次へ」をクリックします。



- 7 「接続を許可する」を選択し、「次へ」をクリックします。

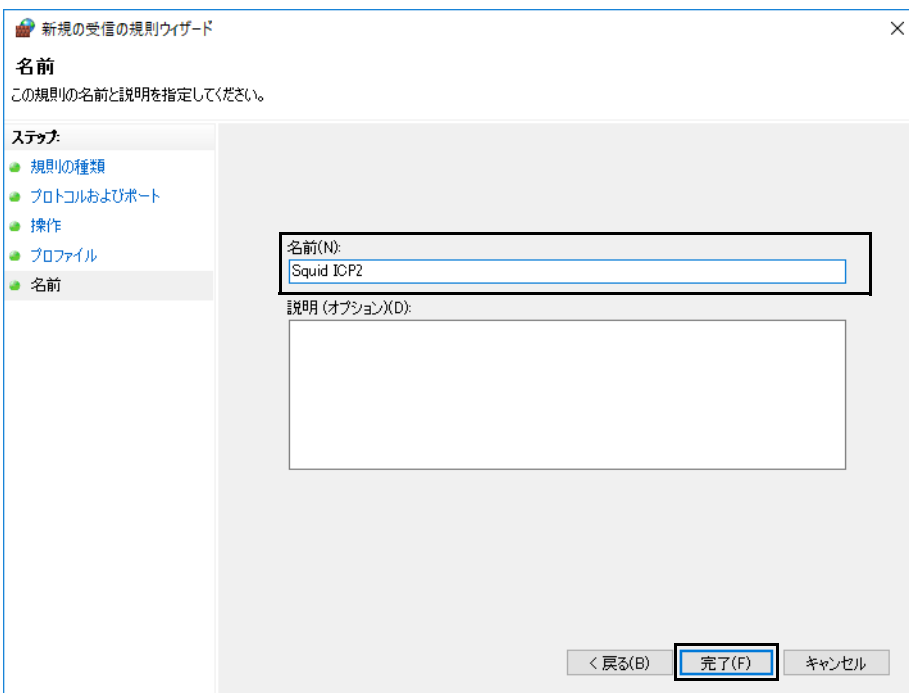


8 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」すべてにチェックを付け、「次へ」をクリックします。



「名前」が表示されます。

9 「名前」に「Squid ICP2」を入力し、「完了」をクリックします。

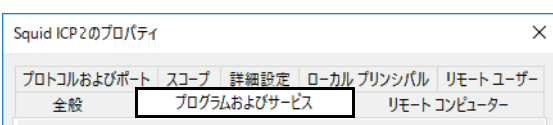


「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」が表示されます。

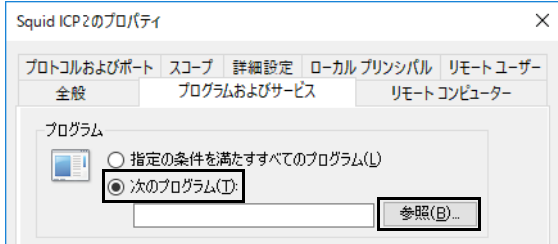
10 「Squid ICP2」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「Squid ICP2 のプロパティ」が表示されます。

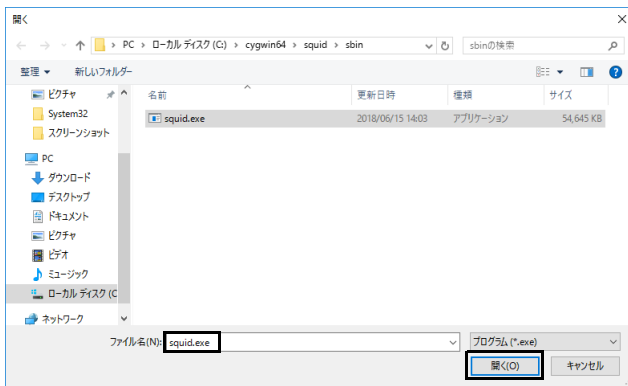
11 「プログラムおよびサービス」タブをクリックします。



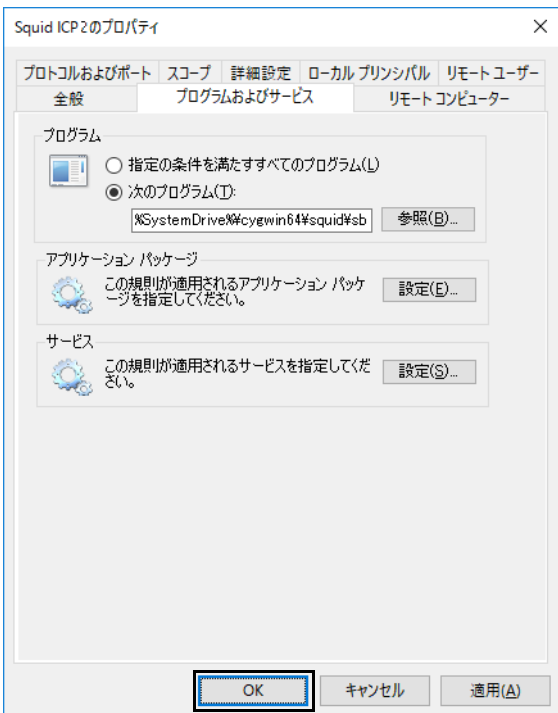
12 「次のプログラム」を選択し、「参照」をクリックします。



13 「C:\cygwin64\squid\sbin\squid.exe」を選択し、「開く」をクリックします。



14 「OK」をクリックします。



## メンテナンス機能の設定ファイル変更

### config.ini 設定ファイルの変更

- 1 テキストエディターで「C:\SmartMaintenance\Batch\config.ini」を開き、設定ファイルを変更します。

※IPアドレスには、本製品のコンピューター部分の固定IPアドレスを入力します。

hostAddress = IPアドレス

```
[common]
;### API のポート番号 (Server 用)
serverPortNumber = 10080
;### この PC の IP アドレス
hostAddress = x.x.x.x
```

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

- 2 ファイルを保存して閉じます。

#### POINT

▶「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

### mib.ini 設定ファイルの変更

- 1 テキストエディターで「C:\SmartMaintenance\mib.ini」を開き、[cacheService] セクションのurlの記載を次のように変更します。

※「x.x.x.x」には、本製品のコンピューター部分の固定IPアドレスを入力します。

url = http://IPアドレス:10080/squid/

```
[cacheService]
url = http://x.x.x.x:10080/squid/
backupPath = cache
restorePath = cache
sleepSecond = 1
```

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

- 2 ファイルを保存して閉じます。
- 3 「C:\tmp\mib.ini」がある場合は、「C:\SmartMaintenance\mib.ini」を上書きコピーします。

### nginx 設定ファイル変更

nginx 設定ファイルを変更します。設定ファイルを変更するときは、テキストエディターを使用してください。

- 1 テキストエディターで「C:\SmartMaintenance\nginx\conf\nginx.conf」を開き、設定ファイルを変更します。

#### 重要

▶下図のIPアドレスの設定箇所をすべて変更してください。変更しない場合、セットアップ中にエラーが発生します。

※「x.x.x.x」には、本製品のコンピューター部分の固定IPアドレスを入力します。

```
#####IP アドレス設定箇所 #####
location / {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8081/;
}

location /maintenance/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8080/;
}

location /squid/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8000/;
}

location /apcache/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8002/;
}

location /apcacheui/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8003/;
}

location /security/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8010/;
}

location /nodejs/ {
    proxy_pass http://x.x.x.x:8001/;
}

#error_page 404 /404.html;
```

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

コンピューター部分の固定IPアドレスを入力してください。

- 2 ファイルを保存して閉じます。

#### POINT

▶「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

## メンテナンス機能各種サービスの追加

---

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。  
`cd C:¥SmartMaintenance¥Other`  
「C:¥SmartMaintenance¥Other」フォルダーへ移動します。
- 3 「`setup.bat`」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「セットアップ処理を完了します」メッセージが表示されたら、サービスの設定は完了です。
- 4 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
サービスが起動します。
- 5 サービスの一覧に次のサービスが存在することを確認します。

サービス名
Elasticsearch 5.5.0 (elasticsearch-service-x64)
PortalAppService
SmartMaintWebAppService
NginxService

### POINT

- ▶ サービスをいったん削除したい場合は、「C:¥SmartMaintenance¥Other¥servicedelete.bat」を実行してください。

## 管理画面の初期パスワード変更

### 管理画面へのログイン

本製品上で「管理画面」にログインします。

- 1 ブラウザーを起動し、管理画面の URL (http://IP アドレス :10080/) に接続します。

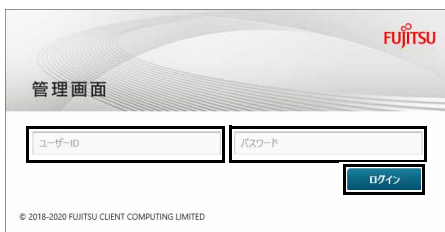
#### POINT

- ▶ IPアドレスにはコンピューター部分のIPアドレスをお使いください。  
コンピューター部分のIPアドレスが「192.168.1.3」の場合は次のようになります。  
http://192.168.1.3:10080/
- ▶ Internet Explorer で管理画面を表示したときに入力フォームが表示されない場合は、次の設定をご確認ください。
  1. Internet Explorer を起動します。
  2. 画面右上のツールアイコン (設定) → 「互換表示設定」の順にクリックします。  
「互換性設定の変更」が表示されます。
  3. 「イントラネットサイトを互換表示で表示する」のチェックを外します。

ログイン画面が表示されます。

- 2 ユーザー ID およびパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

ユーザー ID の初期値は「administrator」、パスワードの初期値は「administrator」です。



「初回ログインパスワード変更」が表示されます。

### パスワードの変更

- 1 ユーザー ID 「administrator」の「新しいパスワード」と「新しいパスワード (確認用)」にパスワードを入力し、変更をクリックします。

パスワードは、8文字以上16文字以下で設定してください。なお、変更したパスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。



#### POINT

- ▶ 初期ログインパスワードを変更後に、パスワードを変更したい場合は、次の操作を行ってください。なお、変更したパスワードは、忘れないように大切に保管しておいてください。
  1. 「管理画面設定」→「パスワード更新」の順にクリックします。
  2. パスワード更新に関する項目を入力し、「更新」をクリックします。



各項目については、次の表をご覧ください。

項目	説明
ユーザー名	現在ログインしているユーザーの名前が表示されます。
現在のパスワード	現在使っているパスワードを入力します。
新しいパスワード	新しいパスワードを、8～16文字で入力します。
パスワード再入力	確認のため、「新しいパスワード」欄に入力したパスワードを入力します。

## 2. 基本機能 - 初期設定 (業務端末/マスター端末)

業務端末とマスター端末の初期設定を行います。

### 重要

- ▶ マスター端末/業務端末を設定する場合、次の点に注意してください。
  - ・ 複数のアカウントが作成されている端末に設定する場合は、すべてのアカウントに対して設定が必要となります。

### エクスプローラーの設定

エクスプローラーで、隠しファイルやフォルダー、拡張子を表示します。

#### ■ Windows10 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システムツール」→「エクスプローラー」の順にクリックします。  
エクスプローラーが起動します。
- 2 「表示」をクリックし、「隠しファイル」と「ファイル名拡張子」にチェックを付けます。

#### ■ Windows11 の場合

- 1 「スタート」ボタン→画面右上の「すべてのアプリ」→「エクスプローラー」の順にクリックします。  
エクスプローラーが起動します。
- 2 「表示」をクリックし、「隠しファイル」と「ファイル名拡張子」にチェックを付けます。

### プロキシの設定



本製品のデータキャッシュ機能を使用するには業務端末/マスター端末にプロキシを設定する必要があります。無線 LAN の設定をする前にプロキシの設定を行ってください。

### 重要

- ▶ プロキシの設定は、エッジコンピューティングデバイス本体には設定しないでください。不具合が発生することがあります。

### 手動プロキシ設定

手動プロキシを設定します。自動構成スクリプト (PAC) を使用する場合は、「自動プロキシ設定」(→ P.86) をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) の順にクリックします。  
「設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックします。
- 3 「プロキシ」をクリックします。



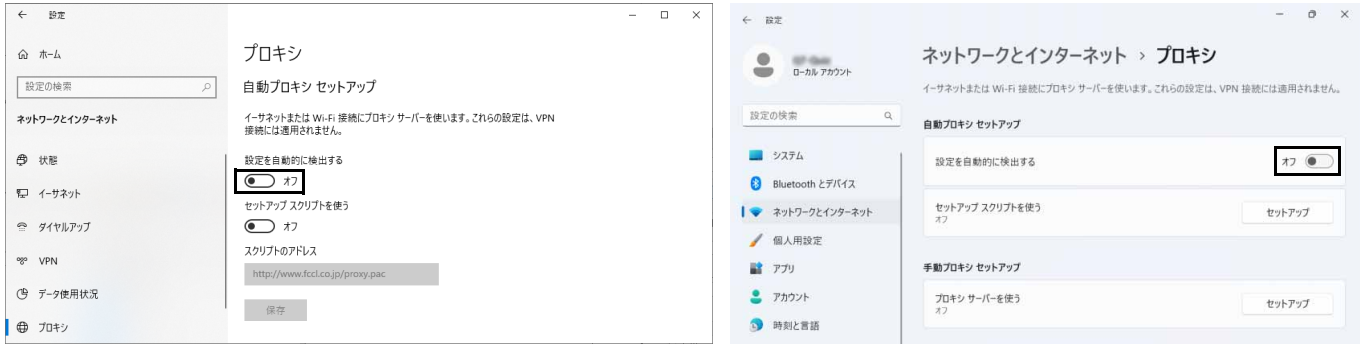
(Windows10 の場合)



(Windows11 の場合)

「プロキシ」が表示されます。

4 「自動プロキシセットアップ」の「設定を自動的に検出する」をクリックして  (オフ) にします。

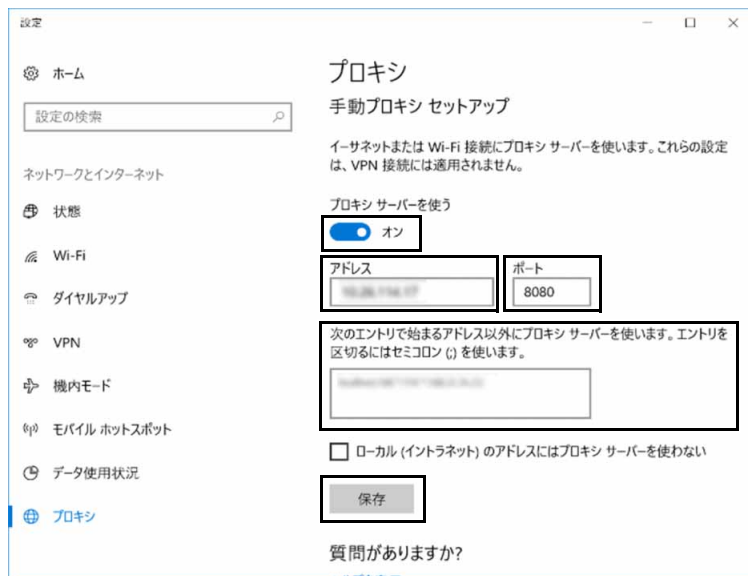


4. 「手動プロキシセットアップ」の「プロキシサーバーを使う」をクリックして  (オン) にし、次のように入力し、「保存」をクリックします。
- ・ アドレス：本製品のコンピューター部分の IP アドレス
  - ・ ポート：8080
  - ・ 次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。：本製品のコンピューター部分の IP アドレス

POINT

▶ 管理画面にアクセスする端末については、本製品へのアクセス時に本製品のコンピューター部分をプロキシとして使用しないように除外設定をしてください。

「次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。」に本製品のコンピューター部分の IP アドレスを入力してください。




● Windows11 の場合

1. 「手動プロキシセットアップ」の「セットアップ」をクリックします。



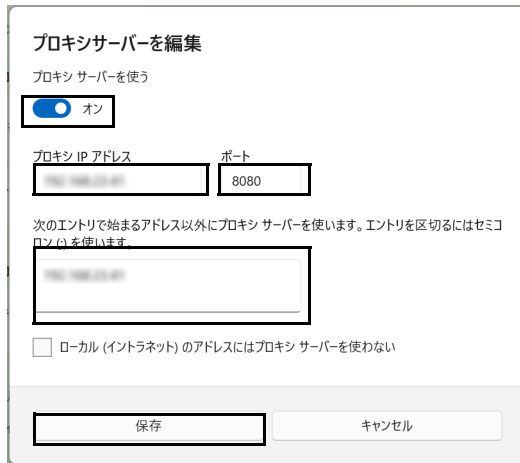


2. 「プロキシサーバーを使う」をクリックして  (オン) にし、次のように入力し、「保存」をクリックします。
  - アドレス：本製品のコンピューター部分の IP アドレス
  - ポート：8080
  - 「次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。」：本製品のコンピューター部分の IP アドレス

 POINT

- ▶ 管理画面にアクセスする端末については、本製品へのアクセス時に本製品のコンピューター部分をプロキシとして使用しないように除外設定をしてください。

「次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。」に本製品のコンピューター部分の IP アドレスを入力してください。



プロキシサーバーを編集

プロキシサーバーを使う

オン


プロキシ IP アドレス      ポート

     8080

次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。エントリを区切るにはセミコロン(;)を使います。

ローカル (イントラネット) のアドレスにはプロキシサーバーを使わない

- 5  をクリックして「設定」ウィンドウを閉じます。

## 自動プロキシ設定

プロキシの自動設定には、次の2つの方法があります。

- 自動構成スクリプト (PAC) ファイル (→ P.86)
- プロキシ自動設定機能 (→ P.91)

### POINT

▶プロキシ自動設定機能は、自動構成スクリプト (PAC) ファイルが使用できない場合に使用してください。

### ■自動構成スクリプト (PAC) ファイル

#### サブネットマスク一覧

次の表は、A から C のアドレスクラスで使用する、サブネットマスクと IP アドレスの総数の一覧です。実際に利用する環境の IP アドレスの総数に適したサブネットマスクを使用します。

アドレスクラス	サブネットマスク		IP アドレスの総数
A クラス (大規模ネットワーク向け)	255.0.0.0	/8	16,777,216
	255.128.0.0	/9	8,388,608
	255.192.0.0	/10	4,194,304
	255.224.0.0	/11	2,097,152
	255.240.0.0	/12	1,048,576
	255.248.0.0	/13	524,288
	255.252.0.0	/14	262,144
	255.254.0.0	/15	131,072
B クラス (中規模ネットワーク向け)	255.255.0.0	/16	65,536
	255.255.128.0	/17	32,768
	255.255.192.0	/18	16,384
	255.255.224.0	/19	8,192
	255.255.240.0	/20	4,096
	255.255.248.0	/21	2,048
	255.255.252.0	/22	1,024
	255.255.254.0	/23	512
C クラス (小規模ネットワーク向け)	255.255.255.0	/24	256
	255.255.255.128	/25	128
	255.255.255.192	/26	64
	255.255.255.224	/27	32
	255.255.255.240	/28	16
	255.255.255.248	/29	8
	255.255.255.252	/30	4
	255.255.255.254	/31	2
255.255.255.255	/32	1	

□ 自動構成スクリプト (PAC) ファイルの作成

本書では次の条件を例に、ファイルの作成方法を説明します。実際に利用する環境にあわせて設定してください。

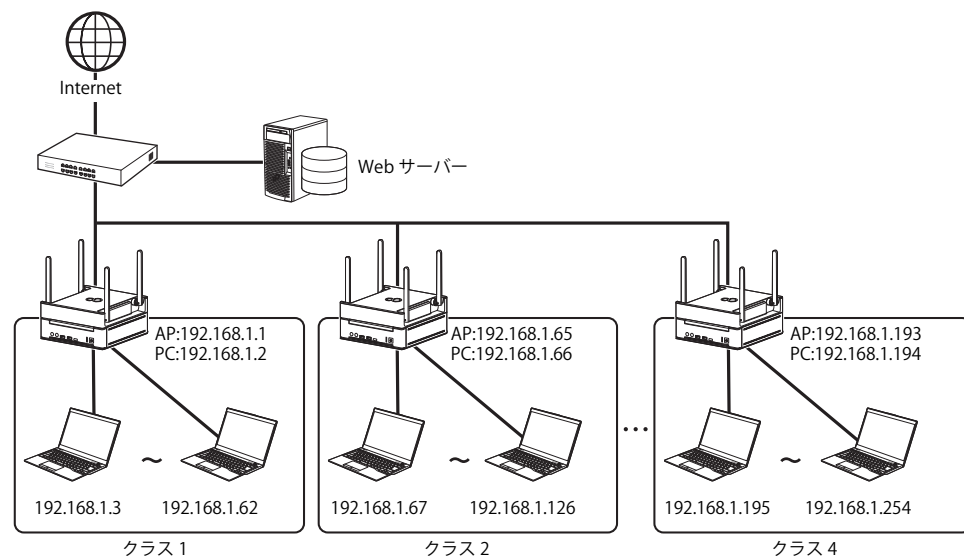
- ・ 部署の数 : 4
- ・ エッジコンピューティングデバイス : 部署で1台設置
- ・ 接続する端末の台数 : 部署で62台接続

※ 本製品で接続できる端末の台数は次のとおりです。  
無線 LAN 接続: 44 台まで  
無線 LAN/有線 LAN 合わせて: 100 台まで

ここでは、IP アドレスの第4オクテッドを4つに分割します。サブネットマスク (→P.86) は、「255.255.255.192/26」を使用します。

各クラスへの割り当て可能な IP アドレス、PAC に用いるネットワークアドレス、サブネットマスクは次の表のようになります。

クラス	IP (ネットワーク)	IP (ホスト)	割り当て可能な IP 範囲	ネットワーク アドレス	サブネットマスク
1	192.168.1	0 ~ 63	1 ~ 62	192.168.1.0	255.255.255.192/26
2	192.168.1	64 ~ 127	65 ~ 126	192.168.1.64	255.255.255.192/26
3	192.168.1	128 ~ 191	129 ~ 190	192.168.1.128	255.255.255.192/26
4	192.168.1	192 ~ 255	193 ~ 254	192.168.1.192	255.255.255.192/26



注 AP: アクセスポイント部分  
PC: コンピューター部分

PAC ファイルには、ネットワークアドレスとサブネットマスクより次のように記述します。

```
function FindProxyForURL(url, host) {
// URL のホストがローカルの場合
if (isInNet(host, "192.168.1.0", "255.255.255.0")) {
return "DIRECT"; // プロキシを経由しない
} else {
// 自分の IP アドレスを取得
myip = myIpAddress();
// クラス 1
if (isInNet(myip, "192.168.1.0", "255.255.255.192")) {
return "PROXY 192.168.1.2:8080";
} // クラス 2
} else if (isInNet(myip, "192.168.1.64", "255.255.255.192")) {
return "PROXY 192.168.1.66:8080";
} // クラス 3
} else if (isInNet(myip, "192.168.1.128", "255.255.255.192")) {
return "PROXY 192.168.1.130:8080";
} // クラス 4
} else if (isInNet(myip, "192.168.1.192", "255.255.255.192")) {
return "PROXY 192.168.1.194:8080";
} // 上記以外のクラス
} else {
return "DIRECT";
}
}
```

## □ PAC ファイルの記載方法

### ● FindProxyForURL 関数

PAC ファイルが実行時に、FindProxyForURL 関数が実行されます。

```
function FindProxyForURL(url, host) {
```

- 引数  
url : アクセス先の URL。http:// から始まる URL のパスとクエリ要素は取り除かれます。  
host : URL から抜き出したホスト名
- 戻り値  
プロキシサーバー名+ポート番号

### ● myIpAddress 関数

端末 (自分) の IP アドレスを取得します。

```
myip = myIpAddress();
```

### ● isInNet 関数

どのネットワークに属しているかを判定します。

```
isInNet(IP アドレス, ネットワークアドレス, サブネットマスク)
```

IP アドレスをサブネットマスクでマスクし、ネットワークアドレスと一致すれば OK (True)、一致しなければ NG (False)

(例) isInNet(172.16.1.3, 172.16.1.0, 255.255.255.0) → OK(True)

isInNet(172.16.2.3, 172.16.1.0, 255.255.255.0) → NG(False)

### ● PAC ファイル内の例外設定

外部にアクセスする場合はプロキシサーバーを経由したいが、ローカルアドレスについては経由しない方がよいという場合、ローカルアドレスを例外設定することができます。

方法としては、isInNet 関数を用い、入力 URL のホスト名がローカルの場合はプロキシを経由しないように記述します。

```
// URL のホストがローカルの場合
if (isInNet(host, "192.168.1.0", "255.255.255.0")) {
    return "DIRECT"; // プロキシを経由しない
}
```

また、管理画面にアクセスする端末に関しては、本製品を例外設定する必要があります。

```
if (isInNet(host, "IP アドレス", "255.255.255.0")){
    return "DIRECT";
}
```

※IP アドレスには本製品のコンピューター部分の IP アドレスを記入してください。

### ● ファイル名



「proxy.pac」という名前で、テキスト形式で保存します。

## □ PAC ファイルを WEB サーバーに配置する

作成した「proxy.pac」をイントラネット内にある WEB サーバー内に配置します。

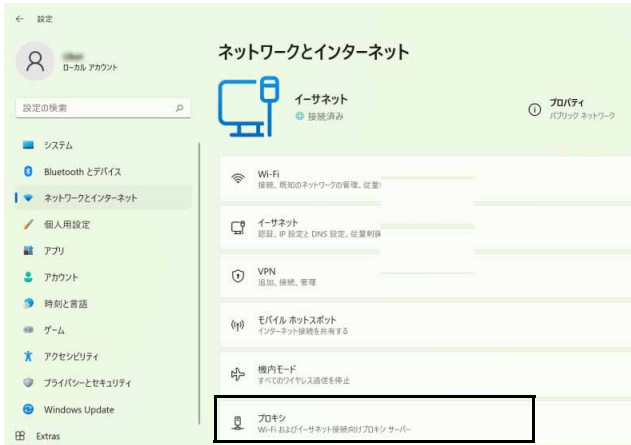
□ 自動構成スクリプト (PAC) の設定

自動構成スクリプト (PAC) を使った自動プロキシを設定します。

- 1 「スタート」ボタン →  または  (設定) の順にクリックします。  
「設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックします。
- 3 「プロキシ」をクリックします。



(Windows10の場合)




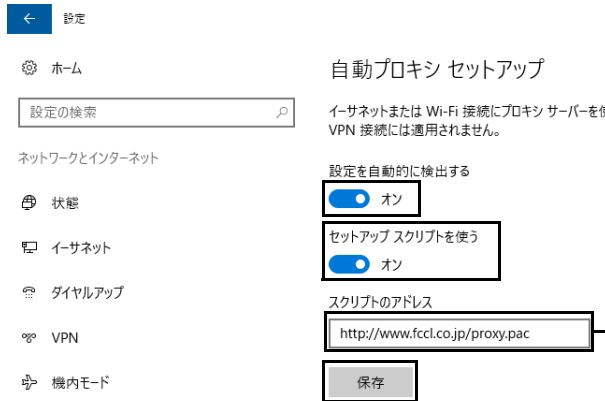
(Windows11の場合)

「プロキシ」が表示されます。

4 次の手順を実行し、自動プロキシの設定を行います。


● Windows10の場合

- 1 「自動プロキシセットアップ」の「設定を自動的に検出する」と「セットアップスクリプトを使う」をクリックして  (オン) にし、次のように入力し、「保存」をクリックします。  
・スクリプトのアドレス：PAC ファイルの URL



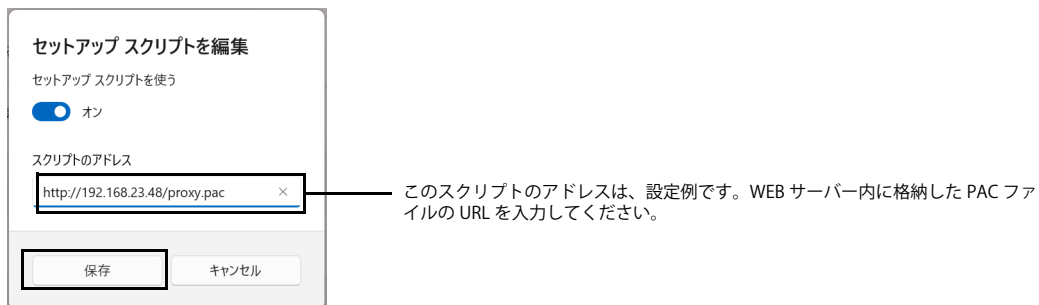
このスクリプトのアドレスは、設定例です。WEB サーバー内に格納した PAC ファイルの URL を入力してください。


● Windows11 の場合

1. 「自動プロキシセットアップ」の「設定を自動的に検出する」と「セットアップスクリプトを使う」の「セットアップ」をクリックして  (オン) にし、次のように入力し、「保存」をクリックします。



2. 次のように入力し、「保存」をクリックします。
  - ・スクリプトのアドレス：PAC ファイルの URL



- 5  をクリックして「設定」ウィンドウを閉じます。

## ■ プロキシ自動設定機能

本製品のアクセスポイントを AP モード (ブリッジモード) で利用している場合は、次の方法でプロキシの自動設定を設定します。

### □ インストール

- 1 エッジコンピューティングデバイスの「C:\Fujitsu\Software\InternetCache\ProxyController」フォルダーを端末の「C:\」にコピーします。
- 2 次のファイルを右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

C:\ProxyController\inst.bat

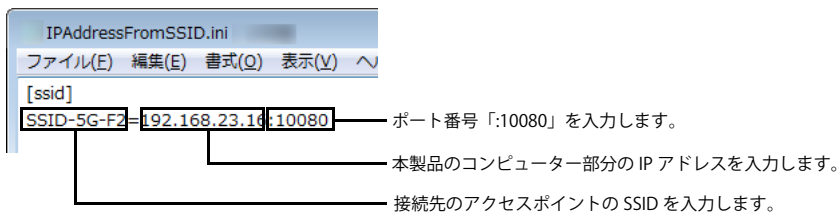
- 3 次のファイルをデスクトップにコピーします。

C:\ProgramData\FCC\ProxyController\Ini\IPAddressFromSSID.ini

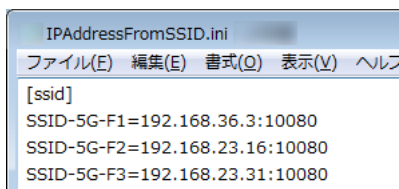
- 4 コピーした「IPAddressFromSSID.ini」設定ファイルをテキストエディターで開きます。

- 5 次の部分を変更します。

接続先のアクセスポイントの SSID と本製品のコンピューター部分の IP アドレスを次のように設定します。



複数登録する場合は、次のように設定します。



- 6 変更後、保存してファイルを閉じます。

- 7 デスクトップの「IPAddressFromSSID.ini」設定ファイルを次のフォルダーに移動して、既存のファイルと置換します。

C:\ProgramData\FCC\ProxyController\Ini\IPAddressFromSSID.ini

### POINT

▶「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

## WindowsUpdate の通信がプロキシサーバーを使用する設定 (マスター端末の場合)

---

マスター端末の場合、次の設定を行います。

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。  
`netsh winhttp set proxy proxy-server="IPアドレス:8080"`  
※IPアドレスには、本製品のコンピューター部分の IP アドレスを入力します。
- 3 コマンドプロンプトを終了します。

## WindowsUpdate の通信がプロキシサーバーを使用する設定 (業務用端末の場合)

---

業務用端末で、ユーザーがアカウントにログインしていない状態で WindowsUpdate を実行する運用の場合、業務用端末に対して次の設定を行います。

### POINT

▶ユーザーがアカウントにログインしている状態でWindowsUpdateを実行する運用の場合はこの設定をする必要はありません。ただし、マスター端末を使用した運用の場合は、マスター端末に対してこの設定は必須となります。

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。  
`netsh winhttp set proxy proxy-server="IPアドレス:8080"`  
※IPアドレスには、本製品のコンピューター部分の IP アドレスを入力します。
- 3 コマンドプロンプトを終了します。



## イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する設定

マスター端末/業務端末で、ローカルグループポリシーに「イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する」を設定します。

### 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。

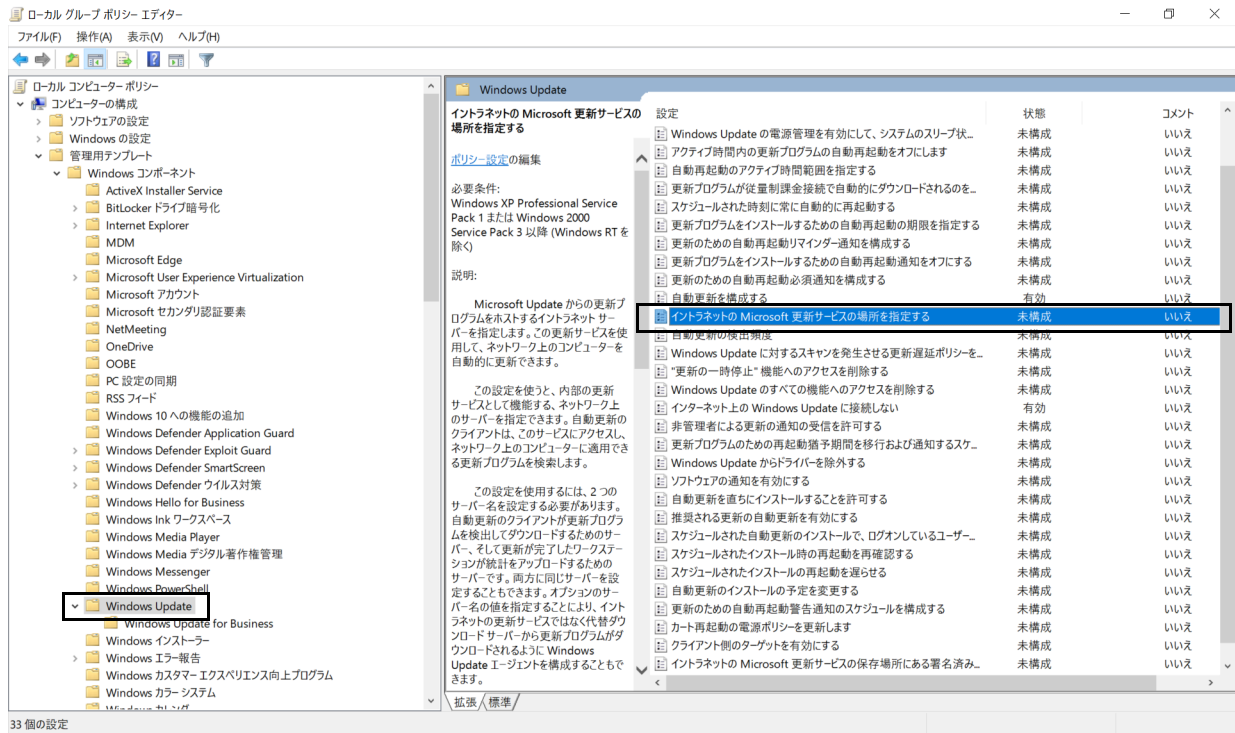
### 2 「gpedit.msc」を入力し、【Enter】キーを押します。

「ローカルグループポリシーエディター」が起動します。

### 3 次の手順を実行し、「イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する」の設定画面を表示します。

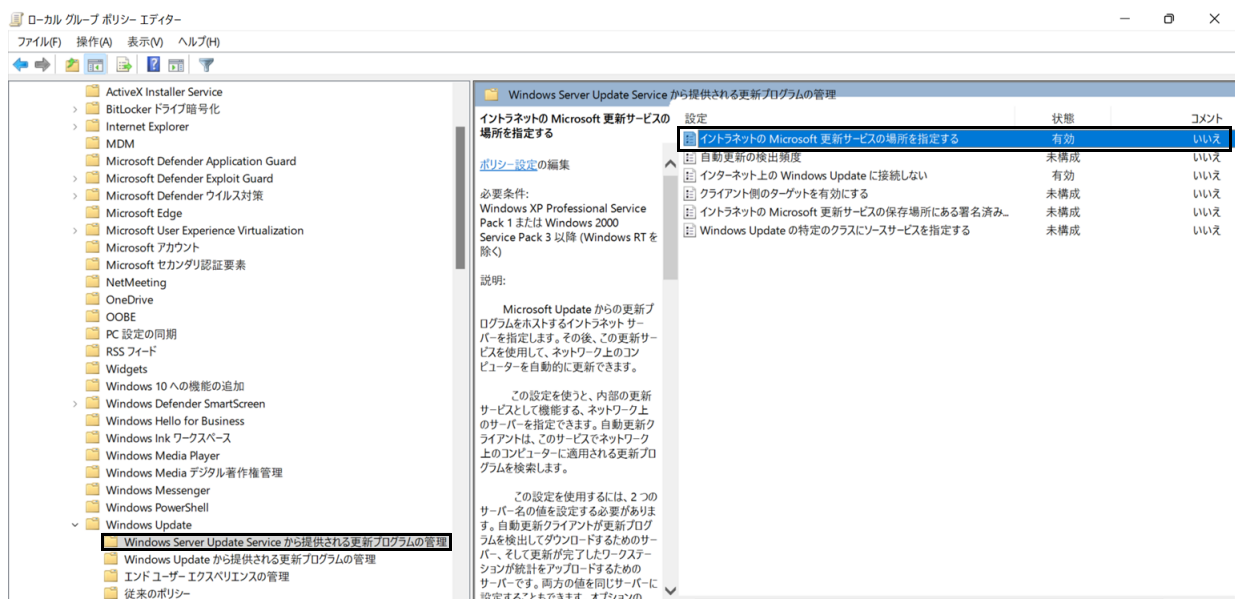
#### ● Windows10 の場合

1. 「コンピューターの構成」の「管理者用テンプレート」- 「Windows コンポーネント」- 「Windows Update」を選択し、「イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する」をダブルクリックします。



#### ● Windows11 の場合

1. 「コンピューターの構成」の「管理者用テンプレート」- 「Windows コンポーネント」- 「Windows Update」- 「Windows Server Update Service から提供される更新プログラムの管理」を選択し、「イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する」をダブルクリックします。

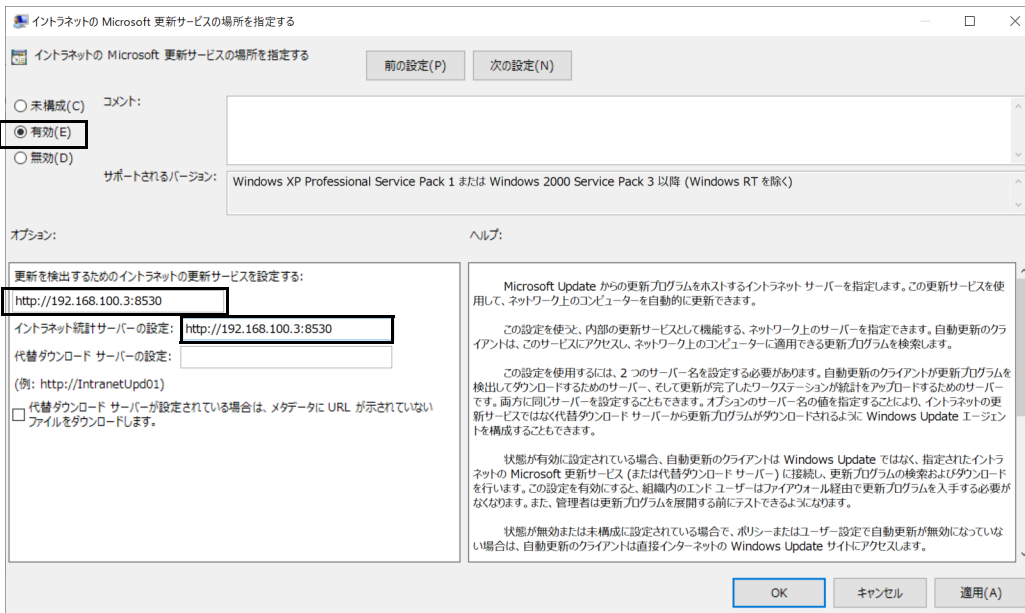


- 4 「有効」を選択し、「更新を検出するためのイントラネットの更新サービスを更新する」と「イントラネット統計サーバーの設定」に「http://WSUS サーバー名 : ポート番号」を入力します。

POINT

- ▶ WSUSサーバー名には、WSUSサーバーのIPアドレス、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、または、ホスト名を入力してください。
- ▶ WSUSサーバー名を完全修飾ドメイン名 (FQDN) で設定する場合、本製品をドメイン参加させるなど、本製品の名前解決ができるように本製品をネットワーク上に配置してください。  
WSUSサーバーのホスト名が「wsus-server」、ドメイン名が「fujitsu.co.jp」、WSUSのポート番号が「8530」の場合、完全修飾ドメイン名 (FQDN) は次のようになります。  
http://wsus-server.fujitsu.co.jp:8530
- ▶ WSUSサーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で設定する場合やホスト名で設定する場合は、「WUserver.conf」を設定する必要があります。詳しくは、「設定ファイルの変更」(→P.127) をご覧ください。
- ▶ WSUSサーバーをホスト名で設定する場合は、「hosts」ファイルを設定する必要があります。詳しくは、「hostsファイルの変更」(→P.127) をご覧ください。

次の画面の例は、WSUSサーバーのIPアドレスが「192.168.100.3」、WSUSのポート番号が「8530」の場合です。

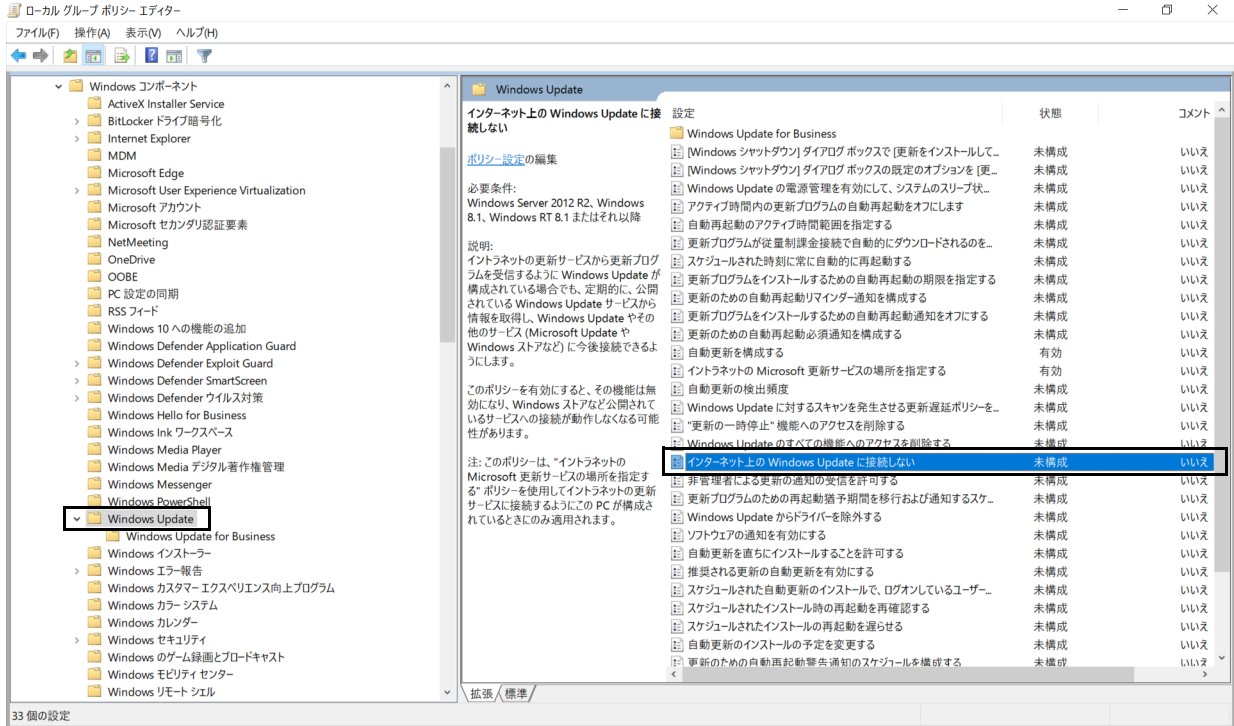


- 5 「適用」をクリックして「OK」をクリックします。

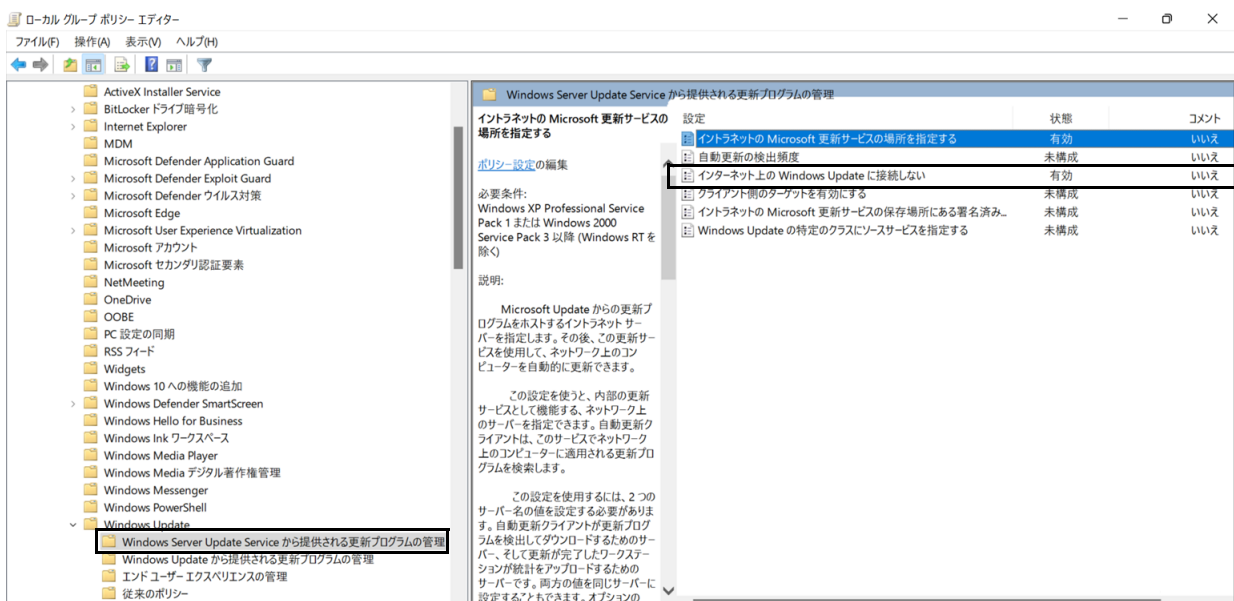
## インターネット上の Windows Update に接続しない設定

マスター端末 / 業務端末で、ローカルグループポリシーに「インターネット上の Windows Update に接続しない」を設定します。

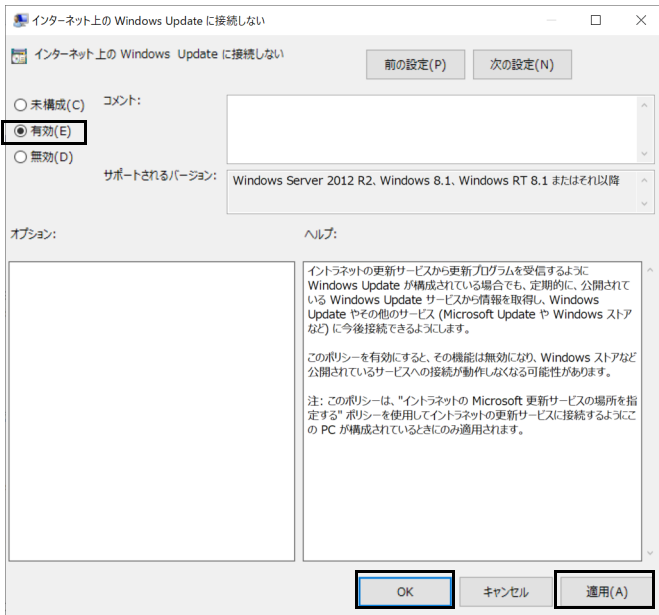
- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 「gpedit.msc」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「ローカルグループポリシーエディター」が起動します。
- 3 次の手順を実行し、「インターネット上の Windows Update に接続しない」の設定画面を表示します。
  - Windows10 の場合
    1. 「コンピューターの構成」の「管理者用テンプレート」- 「Windows コンポーネント」- 「Windows Update」を選択し、「インターネット上の Windows Update に接続しない」をダブルクリックします。



- Windows11 の場合
  1. 「コンピューターの構成」の「管理者用テンプレート」- 「Windows コンポーネント」- 「Windows Update」- 「Windows Server Update Service から提供される更新プログラムの管理」を選択し、「インターネット上の Windows Update に接続しない」をダブルクリックします。




4 「有効」を選択した後、「適用」をクリックして「OK」をクリックします。

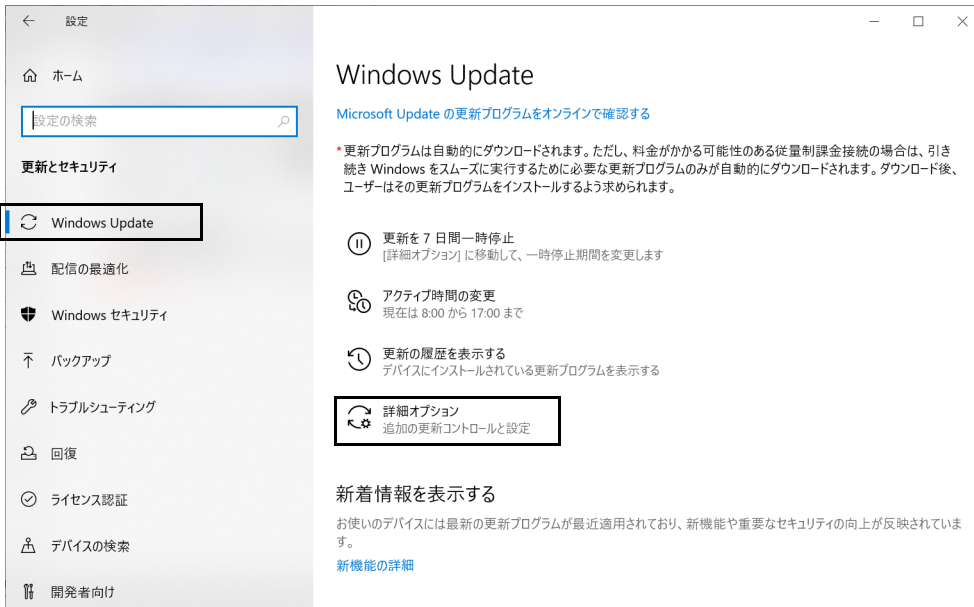


## 配信の最適化を OFF にする設定

マスター端末/業務端末で、配信の最適化を OFF に設定します。

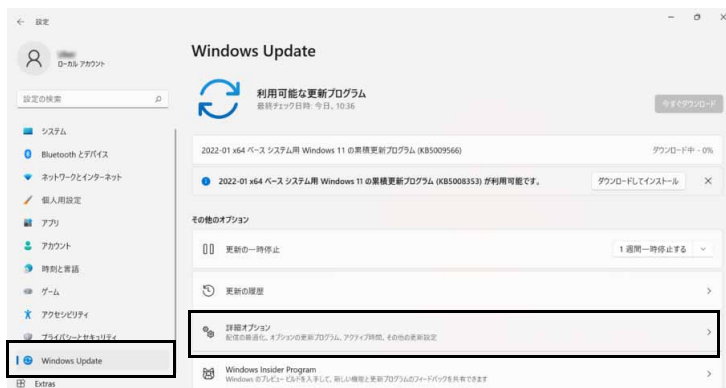
### 1 次の手順を実行し、「Windows Update」の「詳細オプション」を表示します。

- Windows10 の場合
  1. 「スタート」ボタン →  (設定) → 「更新とセキュリティ」をクリックします。
  2. 「Windows Update」 → 「詳細オプション」の順にクリックします。



### ● Windows11 の場合

1. 「スタート」ボタン →  (設定) → 「Windows Update」 → 「詳細オプション」の順にクリックします。



2 「配信の最適化」をクリックします。



(Windows10 の場合)



(Windows11 の場合)

3 「他の PC からダウンロードを許可する」を「オフ」にします。



(Windows10 の場合)



(Windows11 の場合)

### 3. 基本機能 - データキャッシュ機能 (製品本体)

#### インストール補助ツールを使用する (インターネットキャッシュ機能)

「インストール補助ツール」(→ P.19) は、本製品に添付されておりません。「インストール補助ツール」を使用する場合は、「インストール補助ツールとアプリケーションアップデートパックのダウンロード」(→ P.23) をご覧になり、ダウンロードしてください。

ダウンロード後、「BasicFunction\_InternetCache\_Install.cmd」を実行してください。なお、バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで実行してください。次のインストールと設定が、自動で行われます。

「インターネットキャッシュ機能のインストールと設定」(→ P.99) ～ 「シャットダウンの設定」(→ P.113)

バッチファイルの実行が完了したら、本製品を再起動した後、「インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュールのインストール」(→ P.114) からインストールと設定を進めてください。

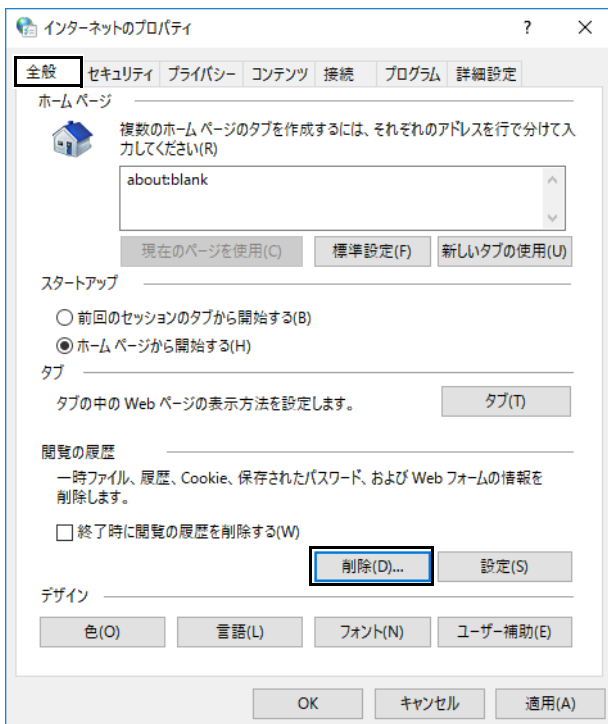
なお、「インストール補助ツール」(→ P.19) を使用しない場合は、本マニュアルに沿ってインストールと設定を行ってください。

#### インターネットキャッシュ機能のインストールと設定

##### Internet Explorer のキャッシュの初期化

Internet Explorer ネットキャッシュ、ユーザーキャッシュを初期化します。

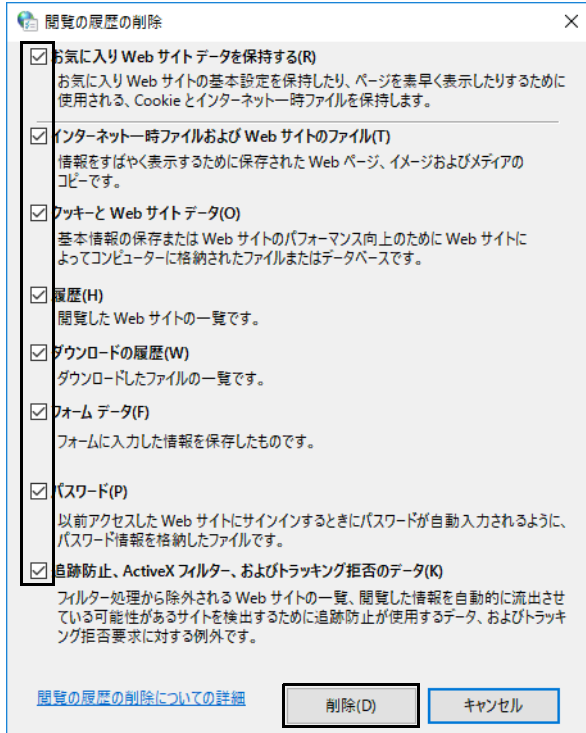
- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「ネットワークとインターネット」→「インターネット オプション」の順にクリックします。  
「インターネットのプロパティ」が表示されます。
- 3 「全般」タブを選択し、「削除」をクリックします。



「閲覧の履歴の削除」が表示されます。

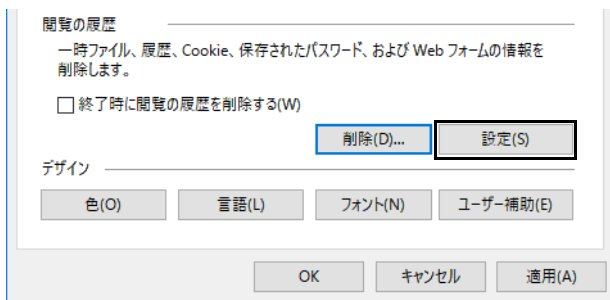


4 すべての項目にチェックを付けて、「削除」をクリックします。



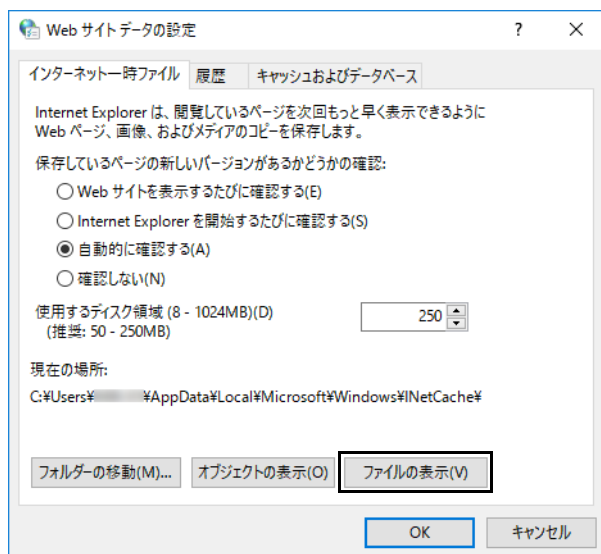
「インターネットオプション」が表示されます。

5 「設定」をクリックします。



「Web サイトの データ設定」が表示されます。

6 「ファイルの表示」をクリックします。



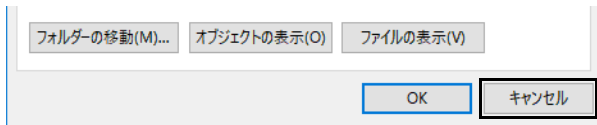
「NetCache」フォルダーが表示されます。



7 次の JavaScript のファイルがある場合は、ファイルを削除してフォルダーを閉じます。

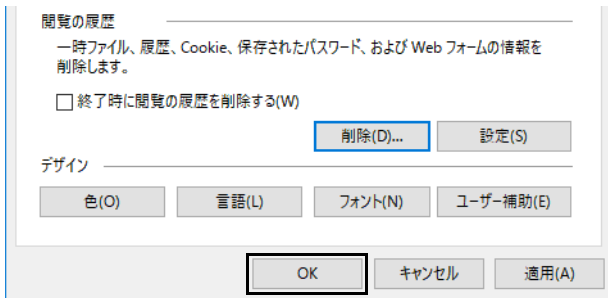
cache-data.js  
squid.js

8 「Web サイトのデータ設定」の「キャンセル」をクリックします。



「インターネットオプション」が表示されます。

9 「OK」をクリックします。



## キャッシュフォルダーの生成

1 「C:\cygwin64\Cygwin64 Terminal」を右クリックし「管理者として実行」をクリックします。

コンソールが起動します。

### POINT

▶「ユーザーアカウント制御」が表示された場合は、「はい」をクリックします。

2 次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。

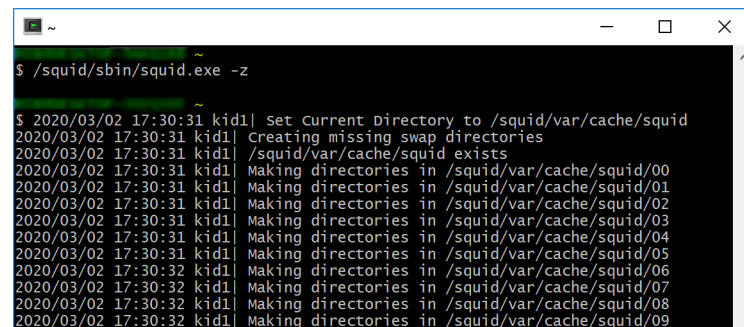
```
rm -rf /squid/var/cache/squid/*
```



キャッシュフォルダーが削除されます。

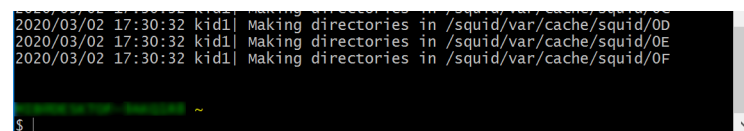
3 次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。

```
/squid/sbin/squid.exe -z
```



コマンド実行結果が表示されます。

4 【Enter】キーを押します。



キャッシュフォルダーの生成が完了します。

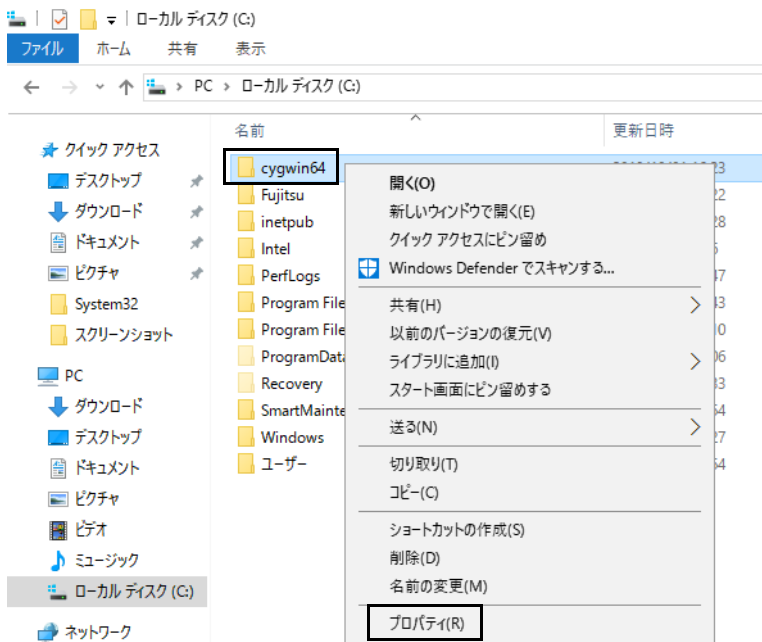
5 閉じるボタン ( × ) をクリックします。



## 管理者権限の設定

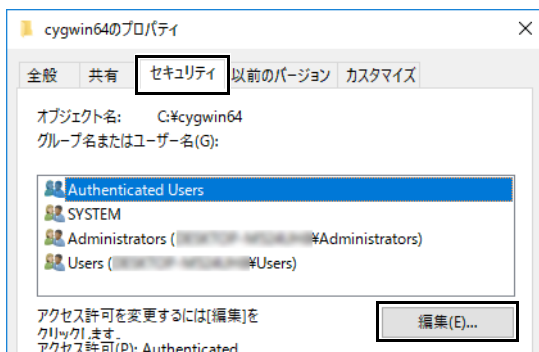
C:\cygwin64 フォルダに Administrators とユーザーアカウントのフルコントロールの権限を設定します。

- 1 「C:\cygwin64」フォルダを右クリックし「プロパティ」をクリックします。



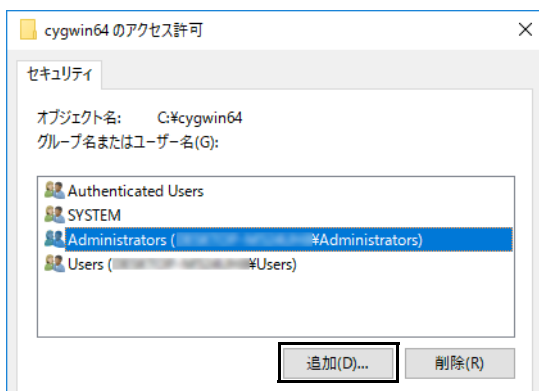
「cygwin64 のプロパティ」が表示されます。

- 2 「セキュリティ」タブをクリックし、「編集」をクリックします。



「cygwin64 のアクセス許可」が表示されます。

- 3 「追加」をクリックします。



「ユーザーまたはグループの選択」が表示されます。

4 「詳細設定」をクリックします。

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類(S):  
ユーザー、グループまたはビルトインセキュリティプリンシパル

場所の指定(F):

選択するオブジェクト名を入力してください(例)(E):

名前確認(C)

詳細設定(A)...

OK

キャンセル

5 「検索」をクリックし、検索結果から現在サインインしているユーザーアカウントを選択し、「OK」をクリックします。

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類(S):  
ユーザー、グループまたはビルトインセキュリティプリンシパル

場所の指定(F):

共通クエリ

名前(A): 次で文字で始まる

説明(D): 次で文字で始まる

無効になっているアカウント(B)

無期限のパスワード(X)

前回ログイン時からの日数(I):

検索(N)

中止(T)

OK

キャンセル

名前	フォルダー
LOCAL SERV	
USER01	
NETWORK	
Network Co...	
NETWORK S...	
OWNER RIG...	
Performance...	
Performance...	
Power Users	
Remote Des...	
REMOTE INT...	

6 「選択するオブジェクト名を入力してください」にユーザーアカウントが入力されていることを確認し、「OK」をクリックします。

ユーザーまたはグループの選択

オブジェクトの種類(S):  
ユーザー、グループまたはビルトインセキュリティプリンシパル

場所の指定(F):

選択するオブジェクト名を入力してください(例)(E):  
USER01

名前確認(C)

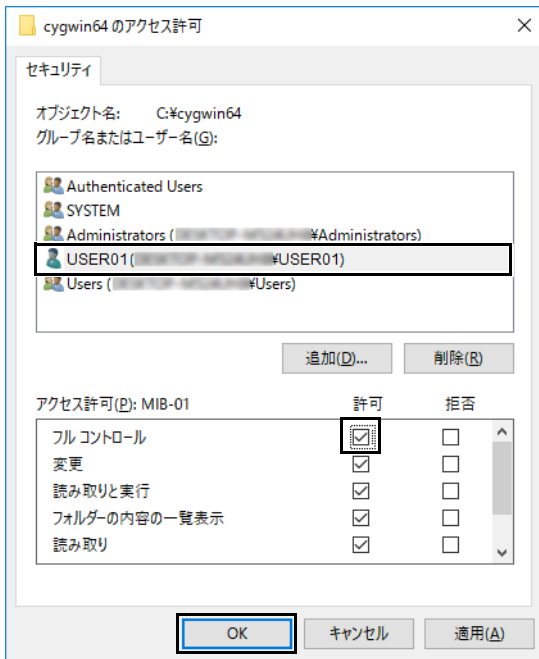
詳細設定(A)...

OK

キャンセル

「cygwin64 のアクセス許可」が表示されます。

- 7 追加したユーザーアカウントをクリックし、「アクセス許可」の「フルコントロール」にチェックを付け、「OK」をクリックします。



- 8 「はい」をクリックします。  
しばらくすると、「cygwin64 のプロパティ」が表示されます。
- 9 「OK」をクリックします。

#### キャッシュ UI のサービス登録用バッチの実行

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。  
`cd C:\cygwin64\cacheUI\setup`  
「C:\cygwin64\cacheUI\setup」フォルダーへ移動します。
- 3 「CacheUI\_setup.bat」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「セットアップ処理を終了します」と表示されたらサービスの登録は完了しました。
- 4 コマンドプロンプトを終了します。
- 5 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
サービスが起動します。
- 6 サービスの一覧に「CacheUIService」が存在することを確認します。

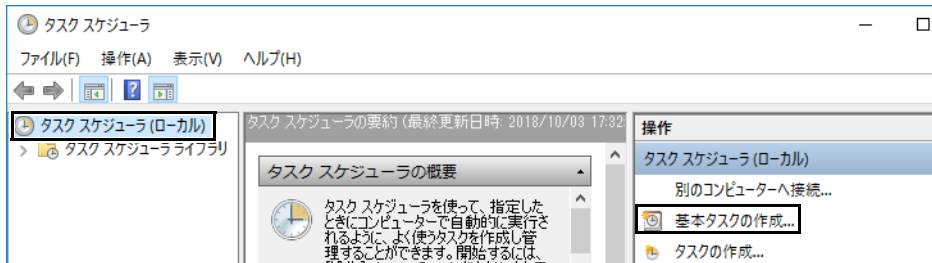
#### キャッシュ制御のサービス登録用バッチの実行

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。  
`cd C:\cygwin64\cacheUI\setup`  
「C:\cygwin64\cacheUI\setup」フォルダーへ移動します。
- 3 「CacheCtl\_setup.bat」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「セットアップ処理を終了します」と表示されたらサービスの登録は完了しました。
- 4 コマンドプロンプトを終了します。
- 5 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
サービスが起動します。
- 6 サービスの一覧に「cacheCtl」が存在することを確認します。

## ログローテーションの設定

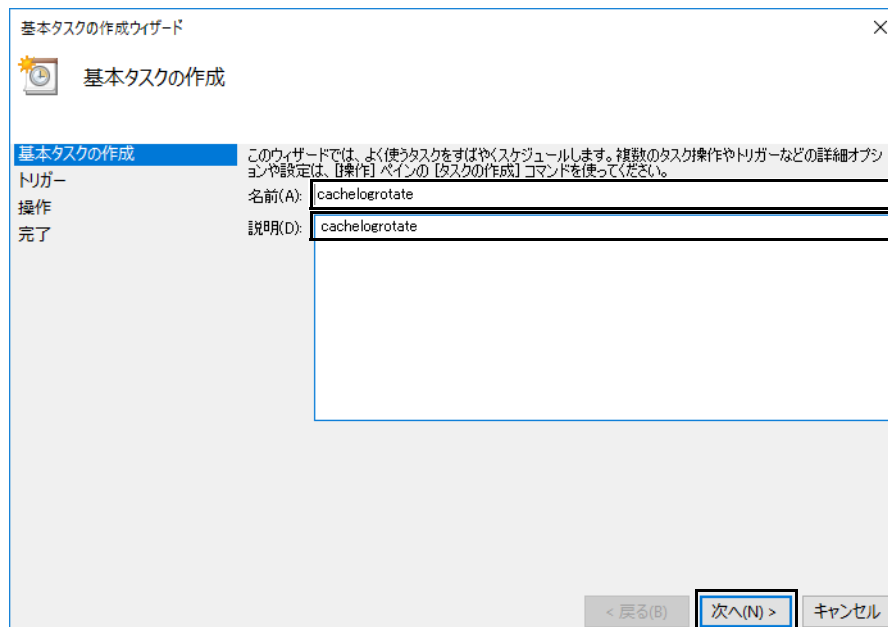
### ■ タスクスケジューラへのログローテートの登録

- 1 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「タスクスケジューラ」の順にクリックします。  
「タスクスケジューラ」が起動します。
- 2 「タスクスケジューラ (ローカル)」を選択し、「操作」の「基本タスクの作成」をクリックします。



「基本タスクの作成」が表示されます。

- 3 次の値を入力して、「次へ」をクリックします。  
名前: 「cachelogrotate」  
説明: 「cachelogrotate」



「タスク トリガー」が表示されます。

4 「毎日」を選択し、「次へ」をクリックします。

基本タスクの作成ウィザード

タスクトリガー

基本タスクの作成 いつタスクを開始しますか?

トリガー  毎日(D)

操作  毎週(W)

完了  毎月(M)

1回限り(O)

コンピューターの起動時(H)

ログオン時(L)

特定イベントのログへの記録時(E)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

「毎日」が表示されます。

5 「開始」に本日の日付と「12:00:00」を、「間隔」に「1日」を設定し、「次へ」をクリックします。

基本タスクの作成ウィザード

毎日

基本タスクの作成

トリガー

開始(S): 2018/10/03 12:00:00  タイムゾーン間で同期(O)

毎日 間隔(I): 1 日

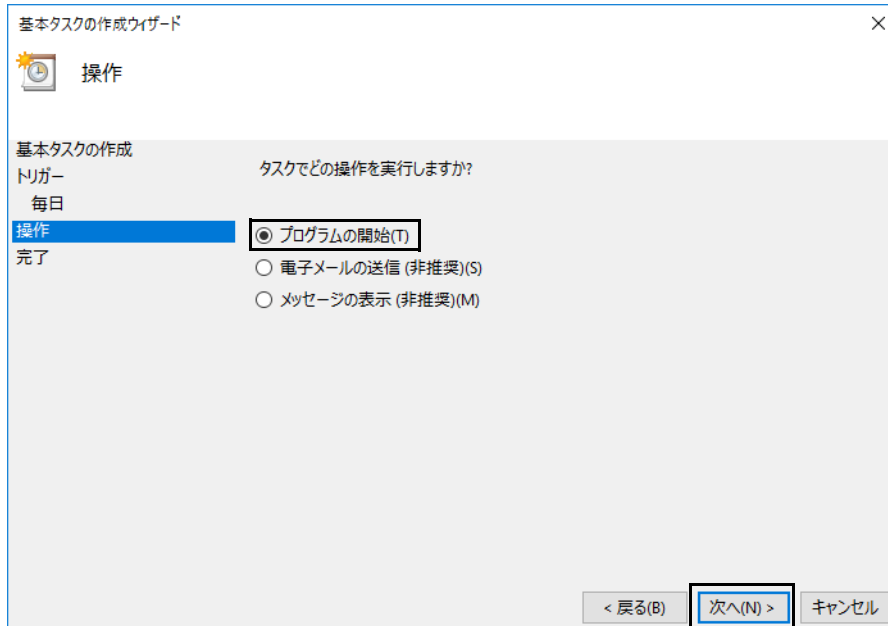
操作

完了

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

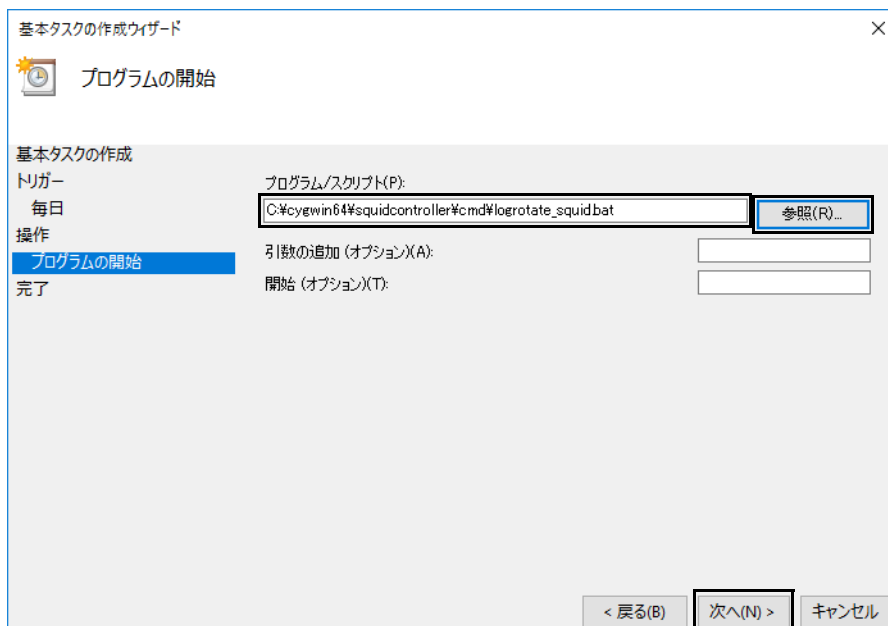
「操作」が表示されます。

6 「プログラムの開始」を選択し、「次へ」をクリックします。



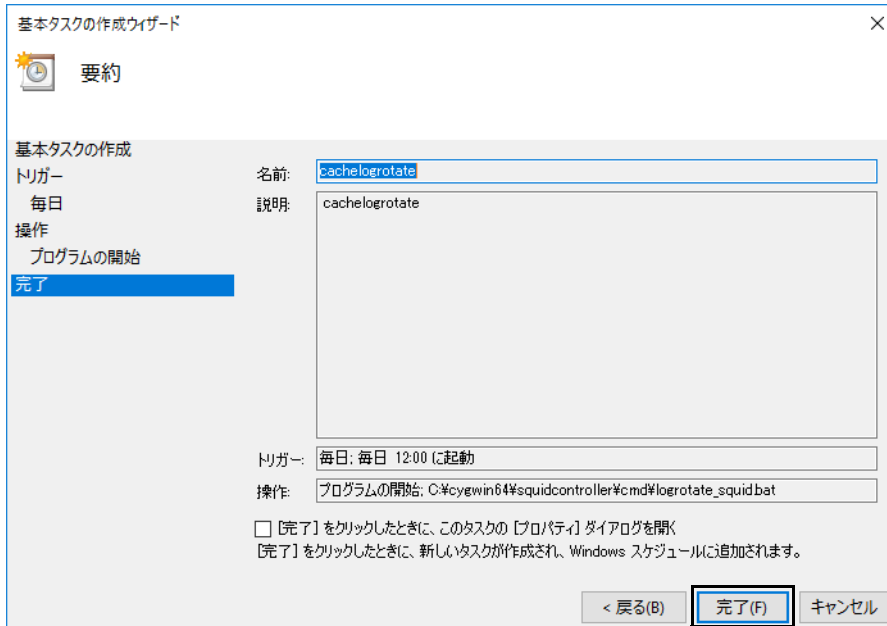
「プログラムの開始」が表示されます。

7 「プログラム/スクリプト」の「参照」をクリックし、表示されたウィンドウから次のファイルを選択し、「次へ」をクリックします。  
C:%cygwin64%squidcontroller%cmd%logrotate\_squid.bat

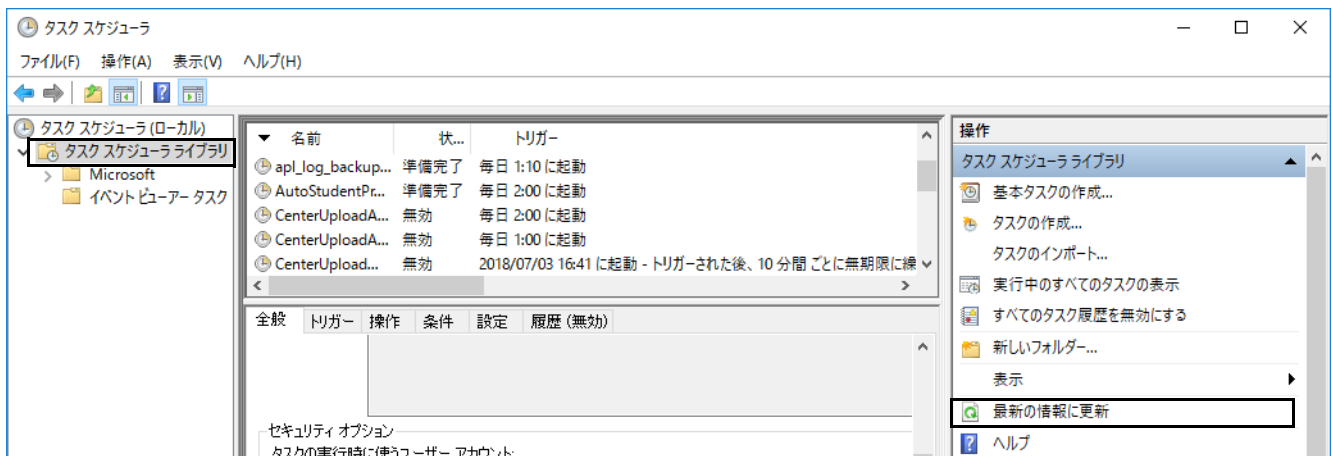


「要約」が表示されます。

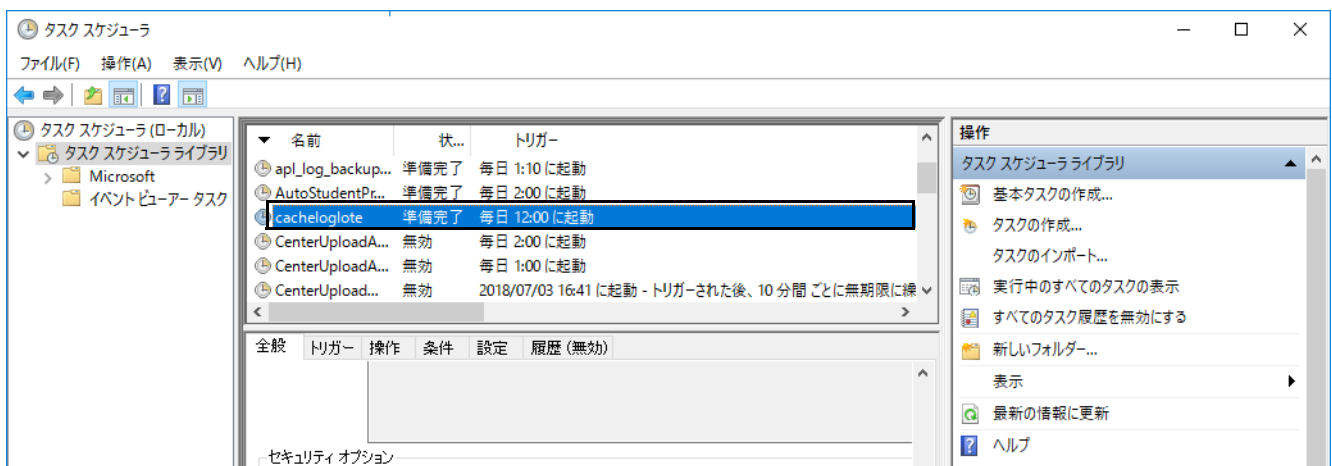
## 8 「完了」をクリックします。



## 9 「タスクスケジューラライブラリ」をクリックし、「最新の情報に更新」をクリックします。

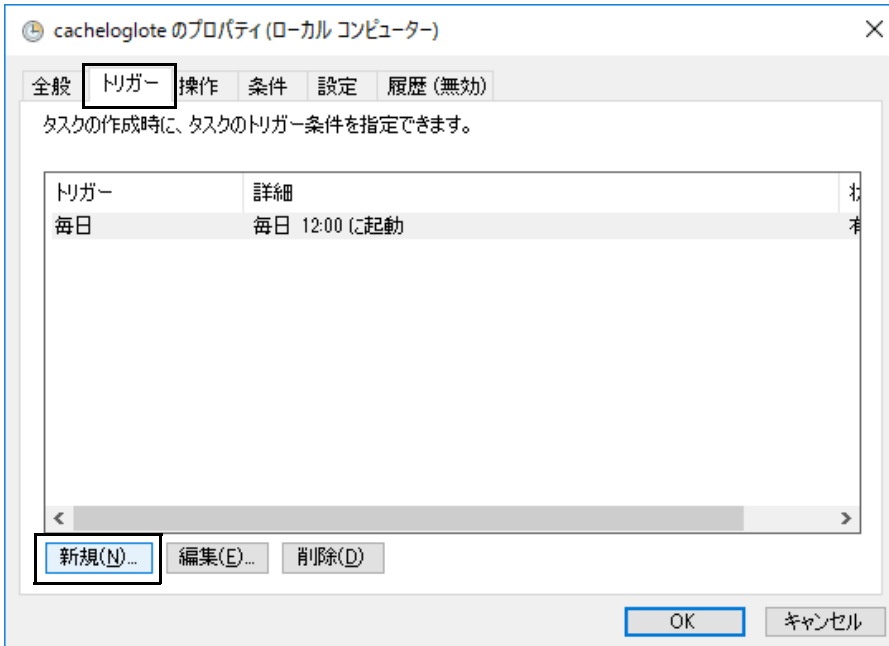


## 10 「cachelogrotate」をダブルクリックします。

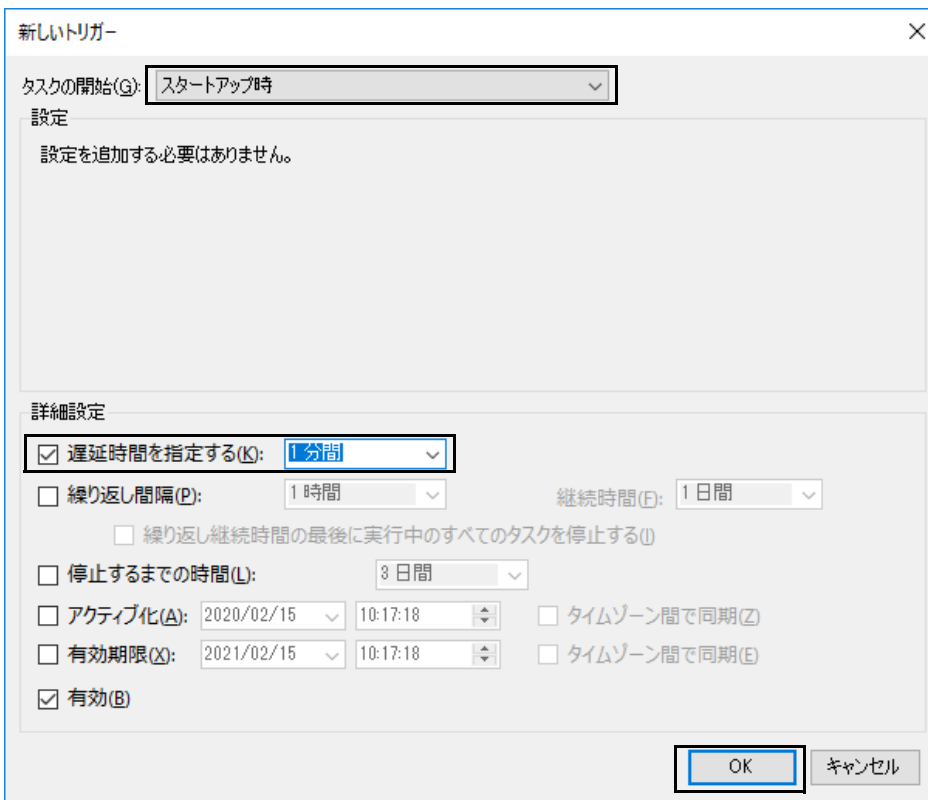




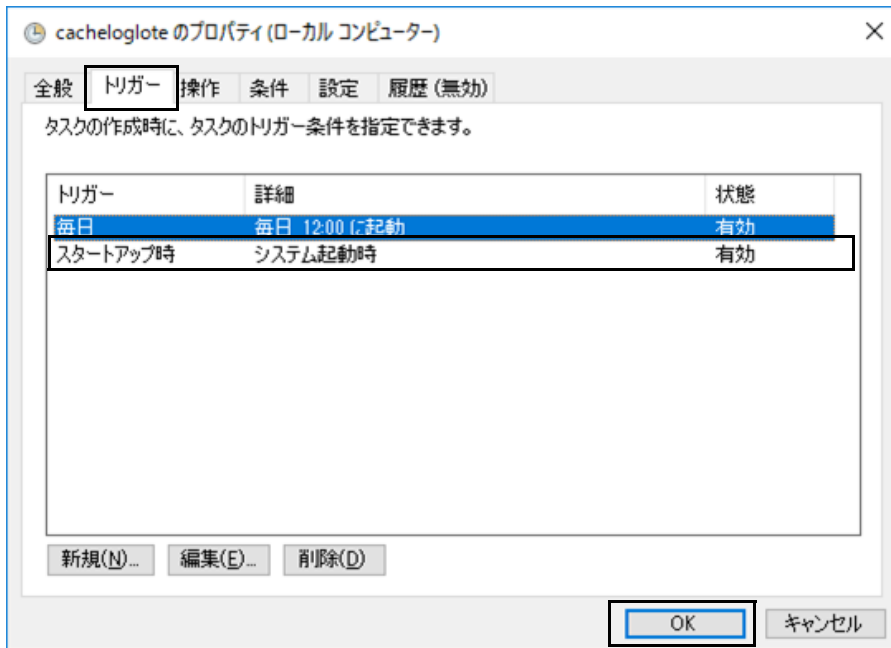
11 「トリガー」タブをクリックし、「新規」をクリックします。



12 タスクの開始に「スタートアップ時」を選択した後、詳細設定の「遅延時間を指定する」にチェックを入れ「1 分間」を選択して、「OK」をクリックします。



- 13 「スタートアップ時」が登録されていることを確認して「OK」をクリックします。

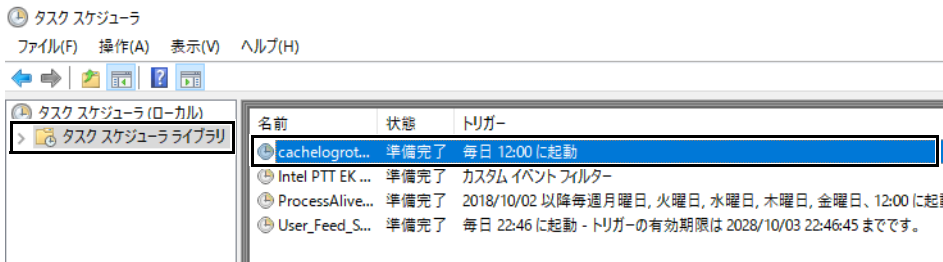


- 14 「タスクスケジューラ」を閉じます。

## ■ ログローテーションへの SYSTEM アカウント登録

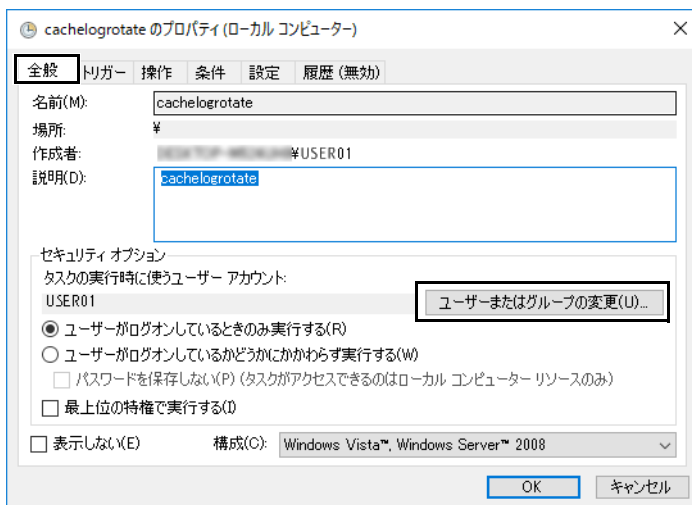
ログローテーションは管理者権限でないと動作しないため、管理権限を持っている SYSTEM アカウントを登録します。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「タスクスケジューラ」の順にクリックします。  
「タスクスケジューラ」が起動します。
- 2 「タスクスケジューラライブラリ」をクリックし、「cachelogrotate」をダブルクリックします。



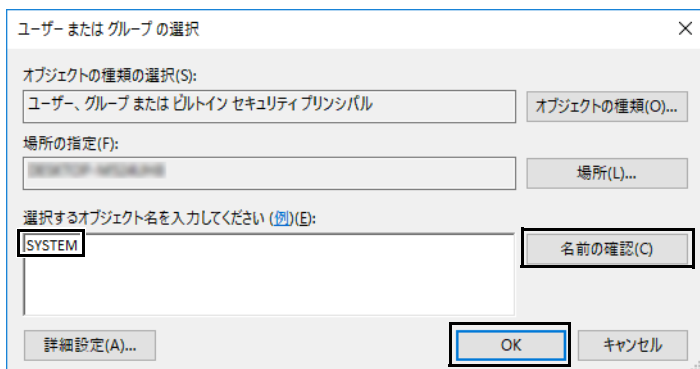
「cachelogrotate のプロパティ (ローカル コンピューター)」が表示されます。

- 3 「全般」タブをクリックし、「ユーザーまたはグループの変更」をクリックします。



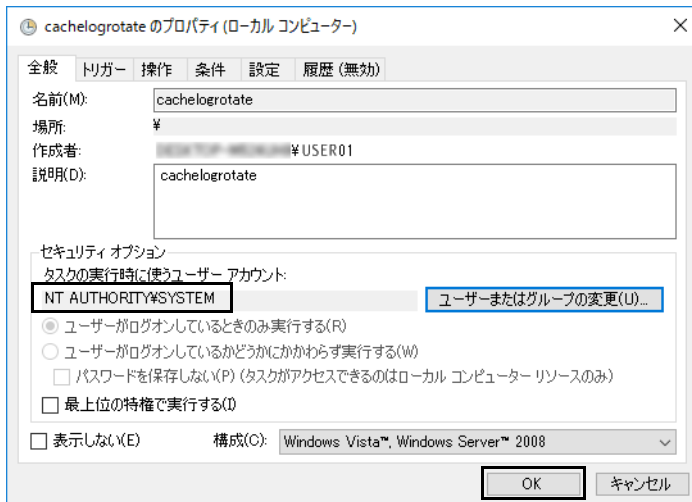
「ユーザーまたはグループの選択」が表示されます。

- 4 「選択するオブジェクト名を入力してください」に「SYSTEM」を入力した後、「名前の確認」をクリックし、「OK」をクリックします。



「cachelogrotate のプロパティ (ローカル コンピューター)」が表示されます。

- 5 セキュリティオプションの「タスクの実行時に使うユーザー アカウント」が「NT AUTHORITY\SYSTEM」であることを確認し「OK」をクリックします。

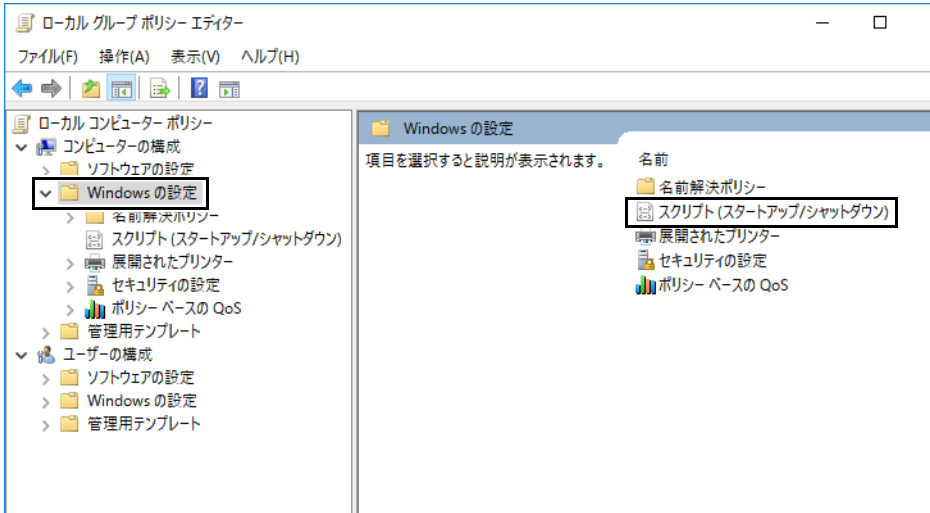


- 6 「タスクスケジューラ」を閉じます。

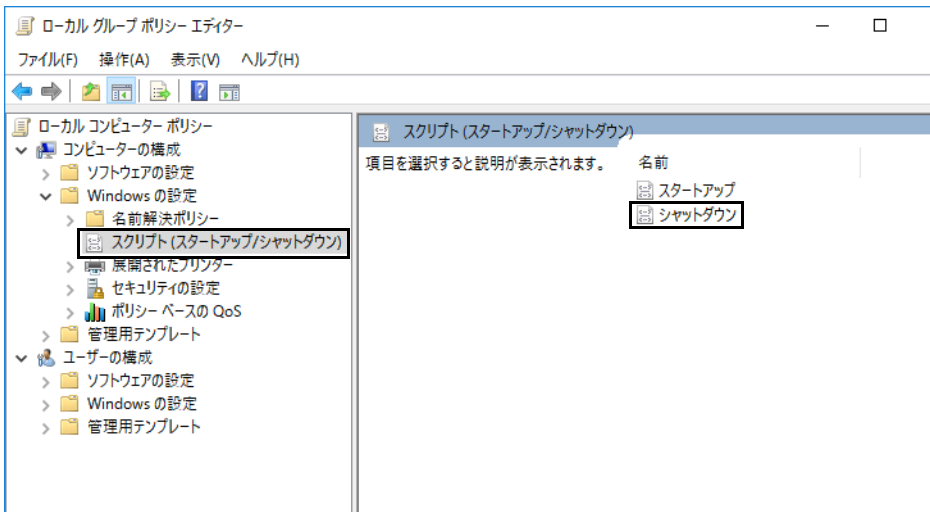
## ■ シャットダウンの設定

ローカルグループポリシーにシャットダウンスクリプトを設定します。

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 「gpedit.msc」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「ローカルグループポリシーエディター」が起動します。
- 3 「コンピューターの構成」の「Windows の設定」を選択し、「スクリプト (スタートアップ / シャットダウン)」をダブルクリックします。

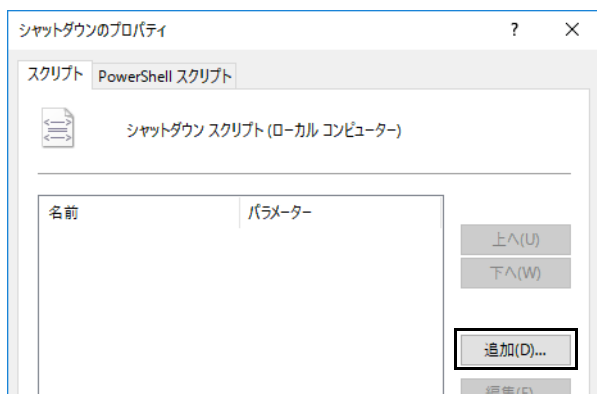


- 4 「シャットダウン」をダブルクリックします。



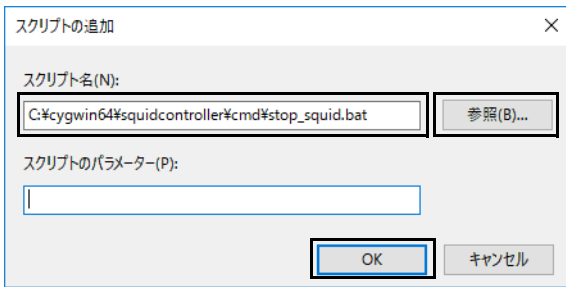
「シャットダウンのプロパティ」が表示されます。

- 5 「追加」をクリックします。



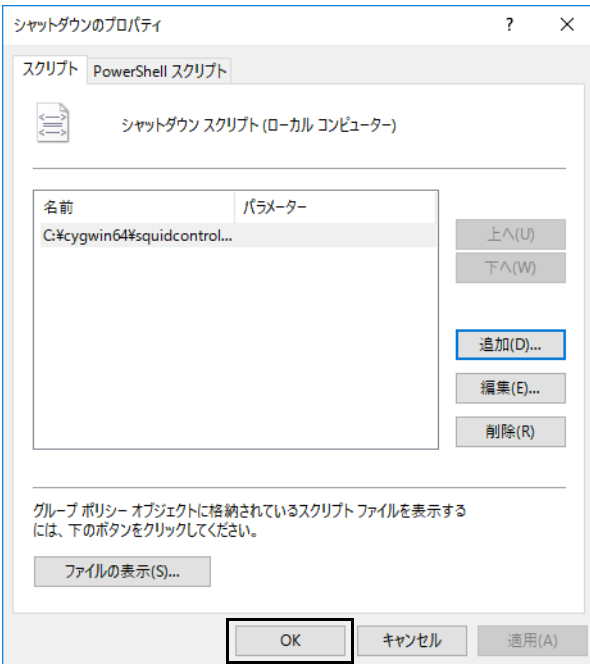
「スクリプトの追加」が表示されます。

- 6 「参照」をクリックし、表示されたウィンドウで、「C:%cygwin64%squidcontroller%cmd%stop\_squid.bat」を選択し、「OK」をクリックします。



「シャットダウンのプロパティ」が表示されます。

- 7 「OK」をクリックします。



- 8 「ローカルグループポリシーエディター」を閉じます。

#### インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュールのインストール

「インターネットキャッシュ機能 V3.0.0 用アップデートモジュール」(→P.19) は、アプリアップデートパック V1.0.4 に含まれるため、ここでのインストールは省略します。

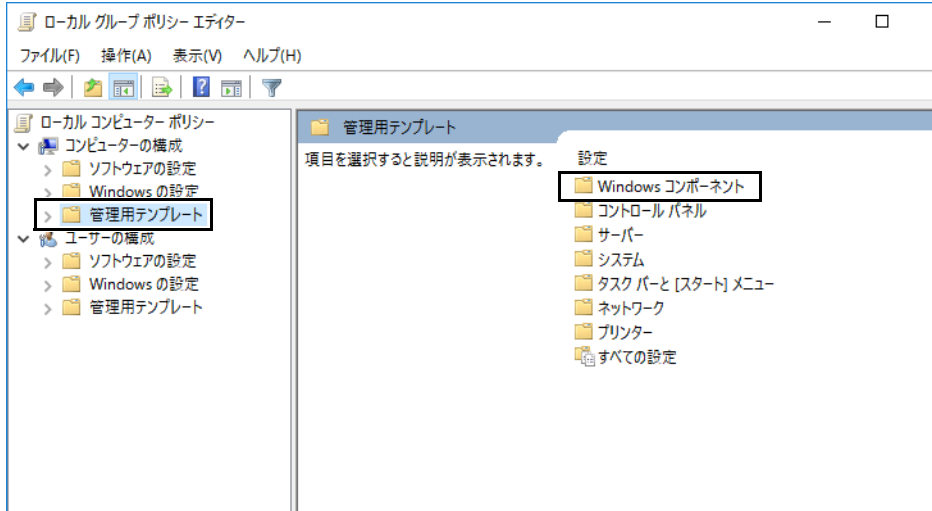
## 親プロキシサーバーの設定

親プロキシサーバーを使用する場合は、本製品に共通のプロキシ設定を行います。親プロキシサーバーを設定しない場合は、この設定は不要です。

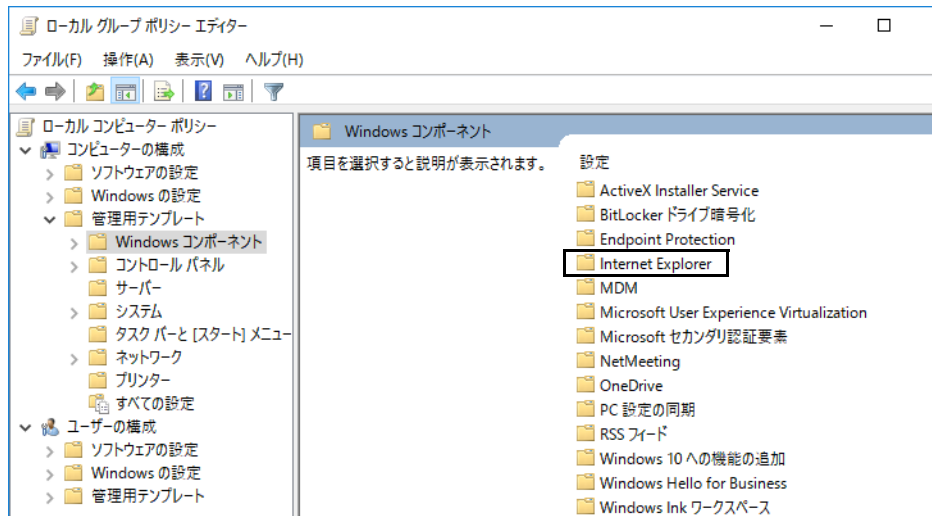
### POINT

▶ お使いのネットワーク環境にプロキシサーバーが設置/設定されている場合は、親プロキシサーバーの設定をしてください。

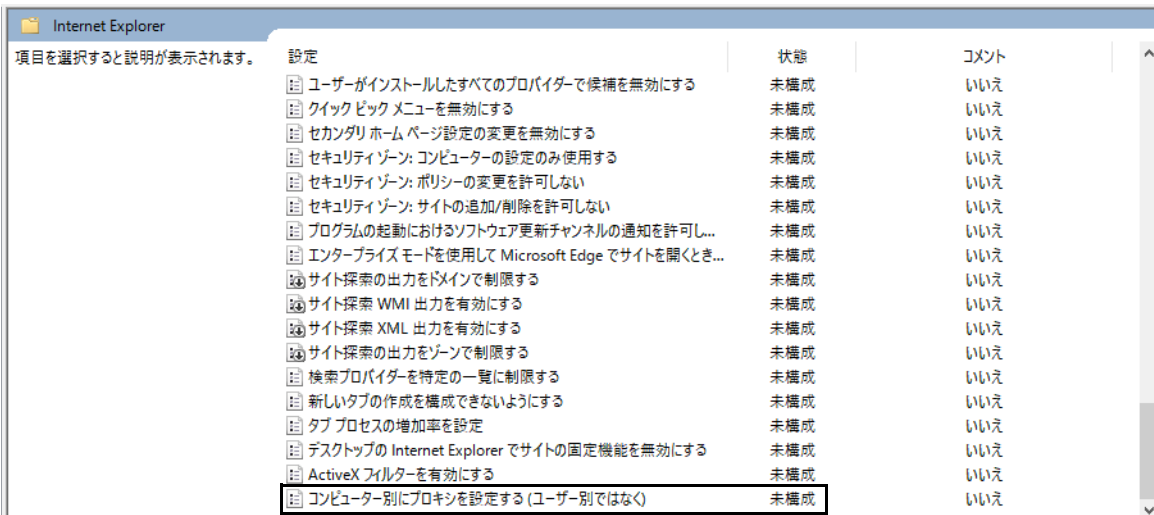
- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 「gpedit.msc」を入力し、【Enter】キーを押します。  
「ローカルグループポリシーエディター」が起動します。
- 3 「コンピューターの構成」の「管理用テンプレート」を選択し、「Windows コンポーネント」をダブルクリックします。



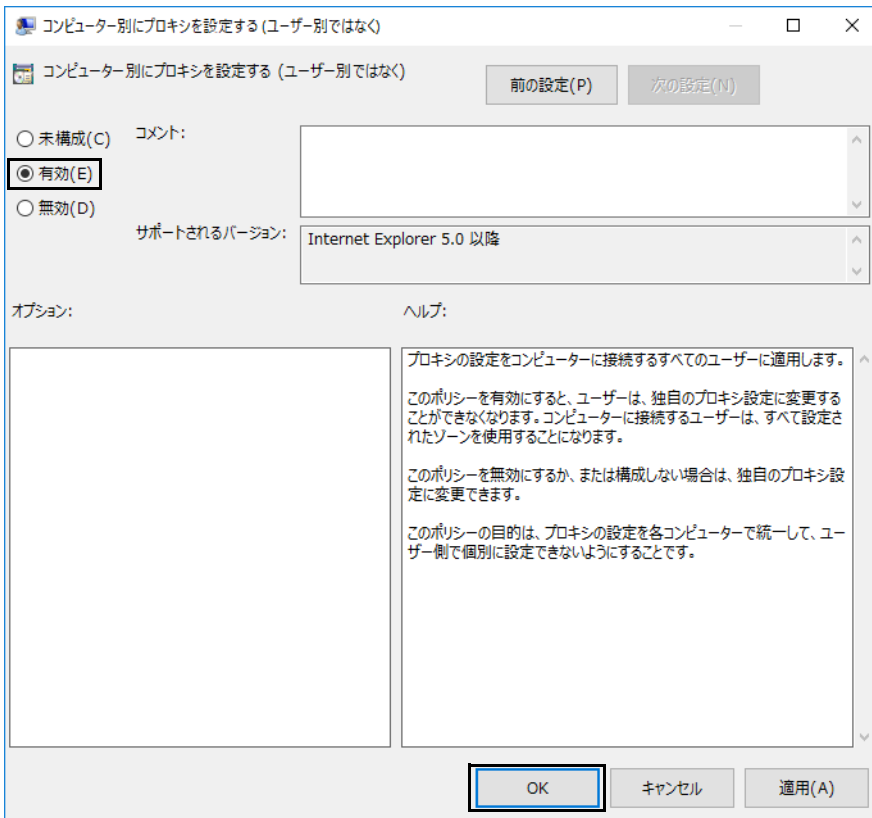
- 4 「Internet Explorer」をダブルクリックします。



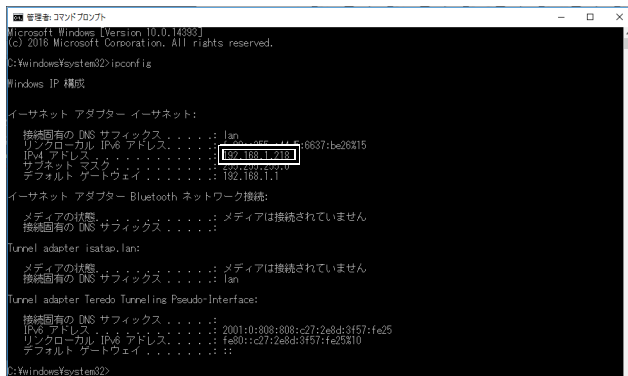
5 「コンピューター別にプロキシを設定する (ユーザー別ではなく)」をダブルクリックします。



6 「有効」を選択して、「OK」をクリックします。




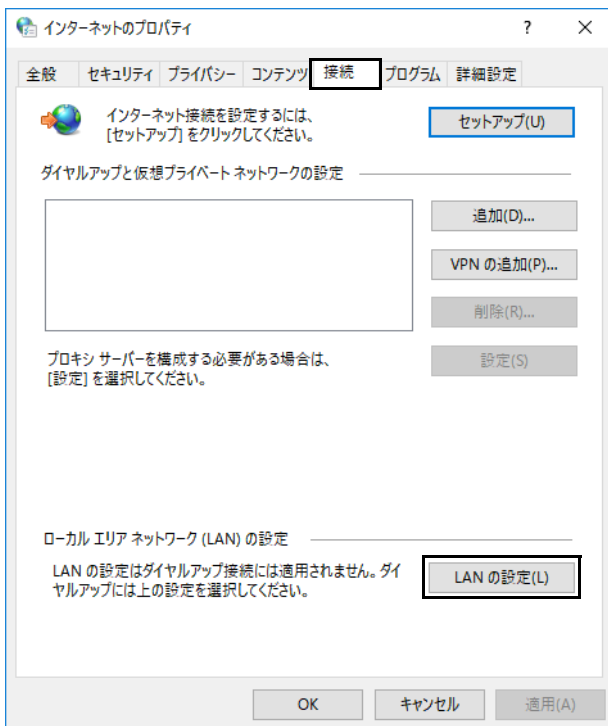
7 コマンドプロンプトで、「ipconfig」を入力し、【Enter】キーを押します。



表示された IP アドレスを確認し、メモに控えておいてください。

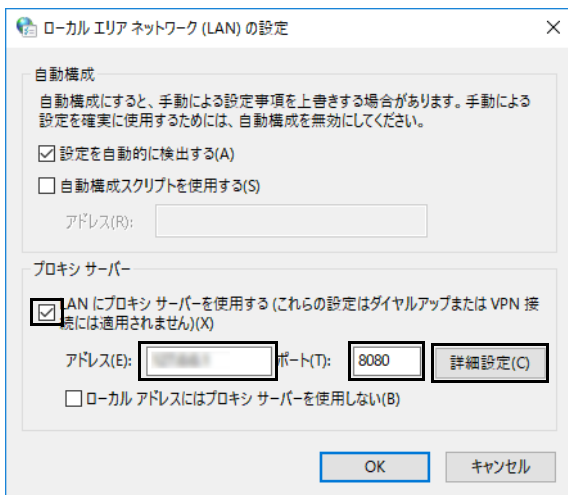


- 8 「スタート」ボタン→「Windows アクセサリ」の順にクリックします。
- 9 「Internet Explorer」を右クリックし、「その他」→「管理者として実行」の順にクリックします。
- 10 Internet Explorer の画面の右上隅の  (ツール) → 「インターネット オプション」の順にクリックします。  
「インターネットのプロパティ」が表示されます。
- 11 「接続」タブをクリックし、「LAN の設定」をクリックします。



「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」が表示されます。

- 12 プロキシサーバーの「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックを付け、「アドレス」に親プロキシサーバーの IP アドレス、「ポート」に親プロキシサーバーのポート番号を入力して、「詳細設定」をクリックします。

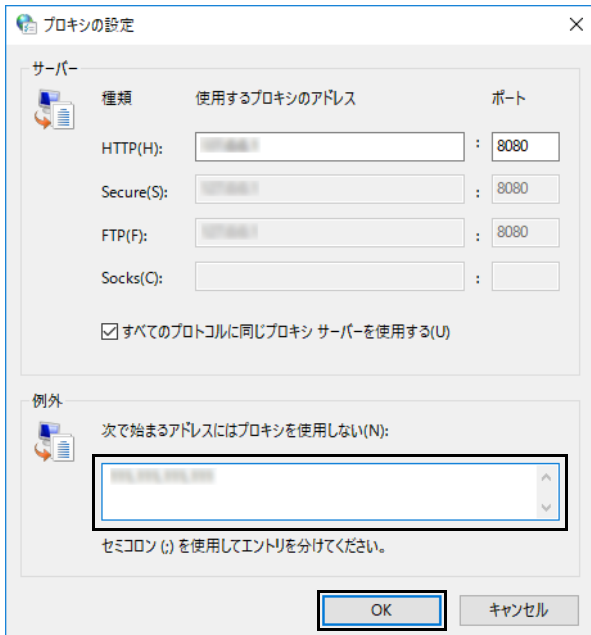


「プロキシ設定」が表示されます。

13 「例外」に手順7で確認した IP アドレスを入力し、「OK」をクリックします。

POINT

▶ユーザーのネットワーク環境によって、例外の設定が反映されない場合は、手順7で確認したIPアドレスとポートを入力してください。  
例:手順7で、IPアドレスが192.168.1.1だった場合、「192.168.1.1:10080」と入力します。



「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」が表示されます。


14 「OK」をクリックします。

## インターネットキャッシュ機能の設定

管理画面でインターネットキャッシュ機能の設定を行います。

### 1 ブラウザーを起動し、管理画面の URL (http://IP アドレス :10080/) に接続します。

#### POINT




- ▶IPアドレスにはコンピューター部分のIPアドレスをお使いください。  
コンピューター部分のIPアドレスが「192.168.1.3」の場合は次のようになります。  
http://192.168.1.3:10080/
- ▶Internet Explorer で管理画面を表示したときに入力フォームが表示されない場合は、次の設定をご確認ください。
  - 1.Internet Explorer を起動します。
  2. 画面右上のツールアイコン  (設定) → 「互換表示設定」の順にクリックします。  
「互換性設定の変更」が表示されます。
  3. 「イントラネットサイトを互換表示で表示する」のチェックを外します。

ログイン画面が表示されます。

### 2 ブラウザーのキャッシュを削除します。

ブラウザのキャッシュが残っていると管理画面の設定項目が表示されない場合や設定が反映されない場合があります。閲覧履歴のすべての項目にチェックを入れ削除してください。

※OS やブラウザのアップデートにより、手順が変更になる可能性があります。

- ・ Internet Explorer の場合
  1. Internet Explorer 11 を起動します。
  2. 画面右上にある ツールアイコン  (設定) → 「インターネット オプション」の順にクリックします。
  3. 「全般」タブを選択し、「削除」をクリックします。
  4. すべての項目にチェックを付けて、「削除」をクリックします。
  5. 「OK」をクリックします。
- ・ Microsoft Edge (Chromium 版) の場合
  1. Microsoft Edge を起動し、 (設定など) → 「履歴」→ 「閲覧データをクリア」の順にクリックします。
  2. 「時間の範囲」で「すべての期間」を選択した後、すべての項目にチェックを付けて「今すぐクリア」をクリックします。
- ・ Google Chrome の場合
  1. Google Chrome を起動し、 (Google Chrome の設定) → 「その他のツール」 → 「閲覧履歴の削除」の順にクリックします。  
「閲覧履歴データの削除」が表示されます。
  2. 「詳細設定」の「期間」で「全期間」を選択した後、すべての項目にチェックを付けて「データ消去」をクリックします。

### 3 ユーザー ID およびパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

ユーザー ID の初期値は「administrator」です。パスワードは、「パスワードの変更」(→P.82) で変更した値を入力してください。



管理画面が表示されます。

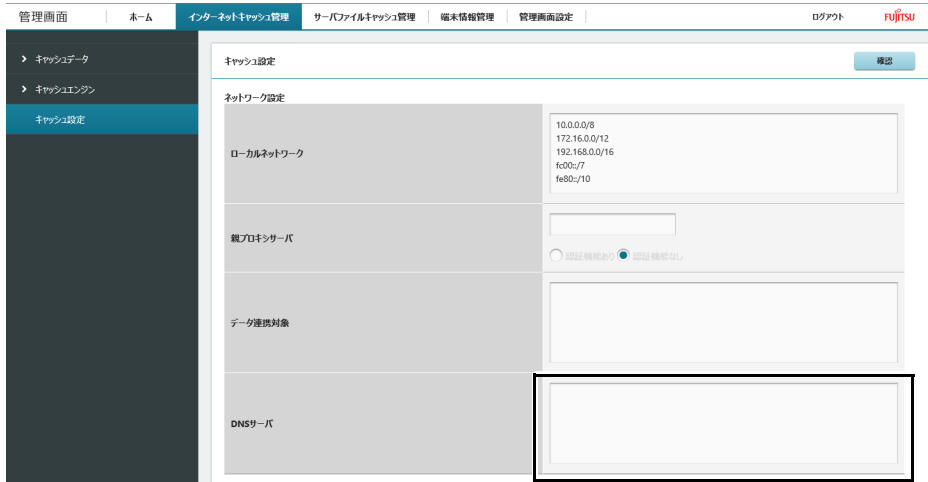
### 4 「インターネットキャッシュ管理」の「キャッシュ設定」をクリックします。



データキャッシュ機能を設定する画面が表示されます。

5 ネットワーク設定の「DNS サーバ」を設定します。

DNS サーバを設定しないと、インターネットの閲覧ができません。必ず連携する DNS サーバを設定してください。



各項目については、次の表をご覧ください。

項目	説明	
ネットワーク設定		
DNS サーバ	連携する DNS サーバを指定することができます。	
	最大設定数	4 個
	入力形式	IP アドレス 使用可能文字：半角英数字と「.:」 例) 168.192.10.1 168.192.10.2
	デフォルト設定	未設定

6 「DNS サーバ」以外のネットワーク設定に関する項目を設定します。



各項目については、次の表をご覧ください。

項目	説明	
ネットワーク設定		
ローカルネットワーク	キャッシュデータを使用する端末のネットワークの範囲を指定します。指定範囲外のネットワークからのアクセスは拒否されます。設定なしの場合は入力 NG となります。	
	最大設定数	5 個
	入力形式	IP アドレス 使用可能文字：半角英数字と「./-」 例) 10.0.0.0/8 fe80::/10
	デフォルト設定	10.0.0.0/8 172.16.0.0/12 192.168.0.0/16 fc00::/7 fe80::/10
親プロキシサーバ	連携するプロキシサーバーを指定することができます。キャッシュエンジンが受信したリクエストはすべて親プロキシサーバーに転送されます。	
	最大設定数	1 個
	入力形式	IP アドレス : ポート番号 注 ※ ポート番号を指定しない場合、「8080」が設定されます。 使用可能文字：半角英数字と「.:」 例) 168.192.10.1:8080 (親プロキシサーバーのポート番号が 8080 の場合)
	デフォルト設定	未設定
	認証機能あり	親プロキシサーバーに認証機能がある場合、認証機能ありに設定してください。親プロキシサーバーの認証 ID とパスワードの入力が求められます。
	認証機能なし	親プロキシサーバーに認証機能がない場合、認証機能なしに設定してください。親プロキシサーバーの認証は行いません。
データ連携対象	ネットワークに本製品が複数存在する場合に連携対象のエッジコンピューティングデバイスの IP アドレスを指定します。連携先エッジコンピューティングデバイスのキャッシュエンジンにデータの有無を問い合わせ、データがある場合は、連携先のキャッシュエンジンからデータを取得します。	
	最大設定数	11 個
	入力形式	IP アドレス 使用可能文字：半角英数字と「.:」 例) 168.192.10.1 168.192.10.2
	デフォルト設定	未設定

注 : ご購入時のインターネットキャッシュ機能では、ポートは設定できません。インターネットキャッシュ機能 V3.1.0 またはそれ以降のバージョンにアップデートすると設定できるようになります。ご購入時のインターネットキャッシュ機能を使用する場合は、IP アドレスのみ記入してください。

7 キャッシュ詳細設定に関する項目を設定します。



各項目については、次の表をご覧ください。

項目	説明	
キャッシュ詳細設定		
キャッシュディスクサイズ	キャッシュエンジンがキャッシュするデータ合計の最大サイズをMB単位で指定します。設定サイズを超過する場合は、キャッシュする領域が確保できるまで最古のデータから順に削除されます。	
	上限値	61440
	下限値	1
	デフォルト設定	30720
キャッシュオブジェクトサイズ	MAX <sup>注1</sup>	キャッシュエンジンがキャッシュする1データの最大サイズをMB単位で指定できます。設定サイズを超過したデータはキャッシュされません。キャッシュディスクサイズより大きいサイズは指定できません。
	上限値	10240
	下限値	1
	デフォルト設定	10240
	MIN	キャッシュエンジンがキャッシュする1データの最小サイズをMB単位で指定できます。設定サイズ未満のデータはキャッシュされません。キャッシュオブジェクトサイズ (MAX) より大きいサイズは指定できません。
	上限値	5120
	下限値	1
	デフォルト設定	0
キャッシュ保存期間	WindowsUpdate 関連データのキャッシュ保存期間を日単位で指定できます。キャッシュ保存期間の設定の対象となるのは、拡張子が cab、esd、exe、dat のファイルです。アクセスの対象がキャッシュ保存期間内のデータの場合、キャッシュからデータの取得が行われます。アクセスの対象がキャッシュ保存期間を超過したデータの場合、オリジナルサーバーからデータの取得が行われます。キャッシュ保存期間に「0」を指定した場合は、常にオリジナルサーバーからデータの取得が行われます。	
	上限値	90
	下限値	0
	デフォルト設定	90
X-Forwarded-For <sup>注2</sup>	使用する	親プロキシサーバにリクエストを転送する際に X-Forwarded-For ヘッダにクライアントの IP アドレスの情報が追加されます。
	使用しない	親プロキシサーバにリクエストを転送する際に X-Forwarded-For ヘッダにクライアントの IP アドレスの情報が追加されません。

注1：インターネットキャッシュ機能 V3.1.2 以前のバージョンでは、キャッシュオブジェクトサイズの MAX の上限値が「5120」です。アプリアップデートパック V1.0.4 以降を適用することで MAX の上限値、デフォルト値、および設定値が「10240」になります。

注2：ご購入時のインターネットキャッシュ機能では、設定できません。インターネットキャッシュ機能 V3.1.0 またはそれ以降のバージョンにアップデートすると項目が表示されて設定することができるようになります。

8 キャッシュデータ制御に関する項目を設定します。



各項目については、次の表をご覧ください。

項目	説明	
キャッシュデータ制御		
ホワイトリスト/ブラックリスト	ホワイトリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSUS サーバーを指定します。ホワイトリストに WSUS サーバーの URL を設定すると WindowsUpdate に特化した運用をすることができます。</li> <li>指定された URL のデータがキャッシュ対象となります。URL は正規表現の記述が可能です。</li> </ul>
	ブラックリスト	指定された URL のデータがキャッシュ非対象となります。URL は正規表現の記述が可能です。
	設定しない	すべてのデータがキャッシュ対象となります。
	最大設定数	10 個
	入力形式	URL 使用可能文字：半角英数字と「.*+?[] ()/\$\:\」 次の例は正規表現を使ったものとなります。 例) ^http://.*\sample\com/
	デフォルト設定	未設定
	csv アップロード	URL の設定を csv ファイルから入力欄に読み込みます。 アップロード前にホワイトリストまたはブラックリストの選択が必要です。
	csv ダウンロード	設定済みのリストを csv ファイルに出力します。未設定の場合はダウンロードできません。

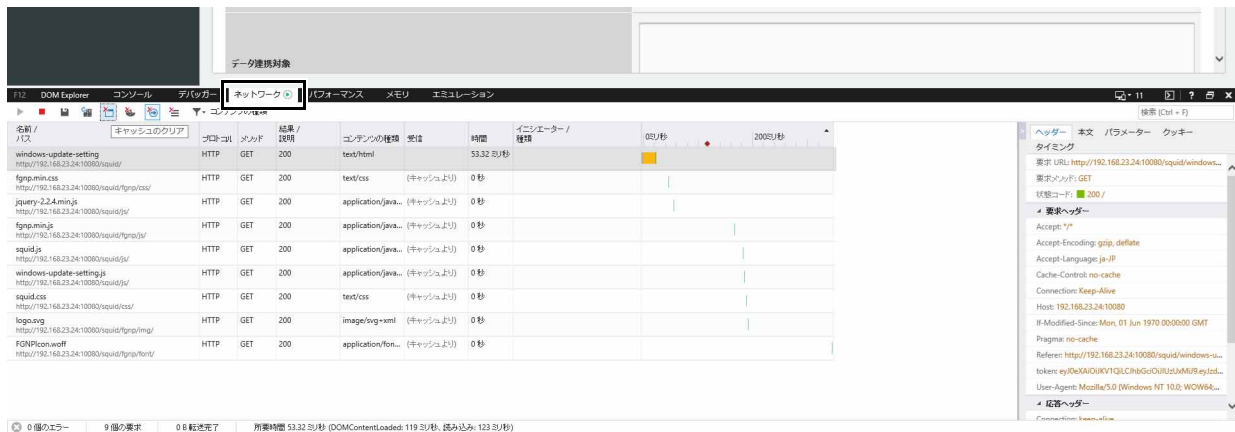
9 「キャッシュ設定」のすべての設定が完了したら、右上にある「確認」をクリックします。



「キャッシュ設定確認」が表示され、変更した設定に「(更新)」と表示されます。

Internet Explorer にて親プロキシサーバで IP アドレスとポート番号を設定し、「確認」ボタンをクリックしたときに「プロキシサーバの入力が正しくありません。」と表示された場合は、次の手順を実施してください。

1. 【F12】キーを押して開発者ツールを表示します。
2. 「キャッシュ設定」を表示します。
3. 「ネットワーク」タブをクリックします。



4. 下図に表示された項目の1番上の項目を選択します。



5. (キャッシュクリアアイコン) をクリックします。



キャッシュのクリアを実施してもこの画面上では残ったままになります。

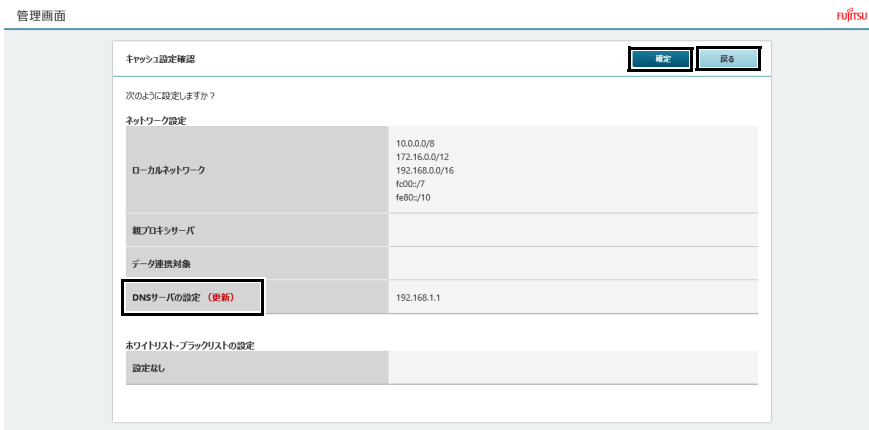
6. 表示されている全ての項目について1つつ手順4～手順5を繰り返します。



7. 画面右上にあるツールアイコン (設定) → 「インターネット オプション」の順にクリックします。
8. 「全般」タブを選択し、「削除」をクリックします。
9. すべての項目にチェックを付けて、「削除」をクリックします。



- 10 「OK」をクリックします。変更が問題ない場合は、「確定」をクリックします。修正が必要な場合は、「戻る」をクリックして設定画面に戻ってください。



「設定の変更が完了しました。」というメッセージが表示されます。

### インストール補助ツールを使用する (アップデート情報取得モジュール)

「インストール補助ツール」(→ P.19) は、本製品に添付されておりません。「インストール補助ツール」を使用する場合は、「インストール補助ツールとアプリアップデートパックのダウンロード」(→ P.23) をご覧になり、ダウンロードしてください。

ダウンロード後、「BasicFunction\_UpdateCache\_Install.cmd」を実行してください。なお、バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで実行してください。次のインストールと設定が、自動で行われます。

「client.config 設定ファイルの変更」(→ P.125) ～ 「WSUS の設定」(→ P.128)

バッチファイルの実行が完了したら、「基本機能 - データキャッシュ機能 (業務端末/マスター端末)」(→ P.129) からインストールと設定を進めてください。なお、「インストール補助ツール」(→ P.19) を使用しない場合は、本マニュアルに沿ってインストールと設定を行ってください。

### アップデート情報取得モジュールのインストールと設定

各設定ファイルを変更するときは、テキストエディターを使用してください。

#### client.config 設定ファイルの変更

#### POINT

- ▶ 設定ファイルの設定値を変更した後、installer.batを実行してください (→P.126)。

- 1 テキストエディターで「C:¥Fujitsu¥Software¥GetUpdateInfo¥GetWSUSInfo¥bin¥client.config」を開きます。
- 2 WSUS サーバーの IP アドレスとポート番号を設定します。

例) WSUS サーバーの IP アドレス : 192.168.100.12、ポート番号 : 8530 の場合



- 3 ファイルを保存して閉じます。

#### POINT

- ▶ 「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

## scheduler.ini 設定ファイルの変更

### POINT

▶ 設定ファイルの設定値を変更した後、installer.batを実行してください (→P.126)。

- 1 テキストエディターで「C:¥Fujitsu¥Software¥GetUpdateInfo¥WSUSUtil¥conf¥scheduler.ini」を開きます。
- 2 本製品が WSUS サーバーに情報取得する時間を記載します。  
hh:mm:ss (時間:分:秒) 形式で入力してください。

入力例) 「06:00:00」

この設定の場合は AM6 時に本製品が WSUS に情報を取得しにいきます。

```

scheduler.ini
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
[ scheduler timing settings
[schedule_info]
TaskName=GetWSUSInfo
Author=FCCL
Description=Scheduling Task to get information using WSUSSynchronization.exe
Version=1.0.0
StartBoundary=2020-01-01 06:00:00
DaysInterval=1
RunLevel=HighestAvailable
GroupId=NT AUTHORITY\SYSTEM
    
```

この記載を「06:00:00」に変更します。

- 3 ファイルを保存して閉じます。

### POINT

▶ 「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

## installer.bat の実行

- 1 次のファイルを右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

C:¥Fujitsu¥Software¥GetUpdateInfo¥installer.bat

- 2 新規インストールの場合は、手順 3 に進みます。再インストールの場合は、次の操作を行います。
  1. 次の画面で【y】キーを押します。

```

C:\windows\System32\cmd.exe
Installer running as Administrator !
C:/Program Files/FCCL/GetUpdateInfo already exist. Do you want to re-install all installations? with this version 1.0 [Y/N]:
    
```

2. 次の画面で【y】キーを押します。

```

フォルダー¥
タスク名                次回の実行時刻        状態
-----
GetWSUSInfo             2020/05/14 6:00:00   準備完了
GetWSUSInfo already scheduled. Do you want to update it? [Y/N]:
    
```

3. 次の画面で【y】キーを押します。

```

フォルダー¥
タスク名                次回の実行時刻        状態
-----
DeleteWSUSInfo         2020/05/14 5:00:00   準備完了
DeleteWSUSInfo already scheduled. Do you want to update it? [Y/N]:
    
```

- 3 「Press any key to exit.」と表示されたら【Enter】キーを押します。

```

フォルダー¥
タスク名                次回の実行時刻        状態
-----
DeleteWSUSInfo         2020/05/14 5:00:00   準備完了
Task is scheduled successfully.
Press any key to exit.
    
```

## 設定ファイルの変更

マスター端末/業務端末に対し、「イントラネットの Microsoft 更新サービスの場所を指定する設定」(→ P.93) で、「更新を検出するためのイントラネットの更新サービスを更新する」と「イントラネット統計サーバーの設定」の設定で WSUS サーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で指定した場合や WSUS サーバーをホスト名で指定する場合、製品本体で次の設定ファイルを変更してください。

- WSUS サーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で指定する場合 (→ P.127)
  - ・ WUServer.conf
- WSUS サーバーをホスト名で指定する場合 (→ P.127)
  - ・ WUServer.conf
  - ・ hosts ファイル
- WSUS サーバーを IP アドレスで指定する場合 (→ P.128)
  - ・ WUServer.conf

### ■ WSUS サーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で指定する場合

#### □ WUServer.conf

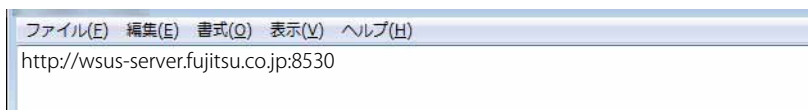
- 1 次のファイルを設定ファイルをテキストエディターで開きます。

C:%cygwin64%cacheUI%setup%WUServer.conf」

- 2 IP アドレスの記載を完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポート番号を設定します。

例：WSUS サーバーのポート番号が「8530」、

WSUS サーバーの指定を完全修飾ドメイン名 (FQDN) が「wsus-server.fujitsu.co.jp」の場合、次のように記入します。



- 3 変更後、保存してファイルを閉じます。

#### □ 本製品の再起動

- 1 設定ファイルを変更後、本製品を再起動します。

### ■ WSUS サーバーをホスト名で指定する場合

#### □ WUServer.conf

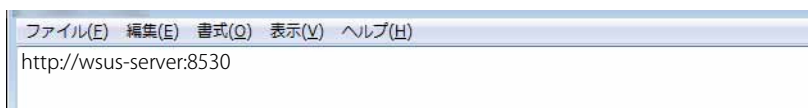
- 1 次のファイルを設定ファイルをテキストエディターで開きます。

C:%cygwin64%cacheUI%setup%WUServer.conf」

- 2 完全修飾ドメイン名 (FQDN) とポート番号を設定します。

例：WSUS サーバーのポート番号が「8530」、

WSUS サーバーのホスト名が「wsus-server」の場合、次のように記入します。



- 3 変更後、保存してファイルを閉じます。

#### □ hosts ファイルの変更

本製品に hosts ファイルを作成し、WSUS サーバーのホスト名と IP アドレスを記入します。

#### POINT

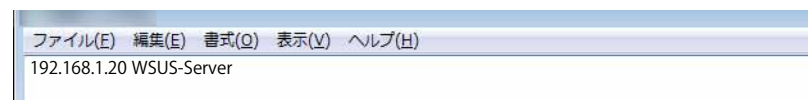
▶「C:%cygwin64%etc」にある hosts ファイルを直接開いて編集すると WSUS サーバーにアクセスできない場合があります。hosts ファイルを編集する場合は、テキストエディターで新しいファイルを作成して、名前を付けて上書き保存してください。

- 1 テキストエディターを起動して、新しいファイルを作成します。
- 2 ホスト名と IP アドレスを記入します。

例：WSUS サーバーの IP アドレスが「192.168.1.20」

WSUS サーバーのホスト名が「wsus-server」の場合、次のように記入します。

※IP アドレスとホスト名の間に 1 文字分のスペース (空白) を記入してください。また、必ず改行してください。



- 3 「C:%cygwin64%etc」フォルダーにある「hosts」ファイルを上書き保存します。

#### POINT

▶メモ帳でファイルを編集する場合は、「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択し、文字コードを「ANSI」に設定して保存してください。

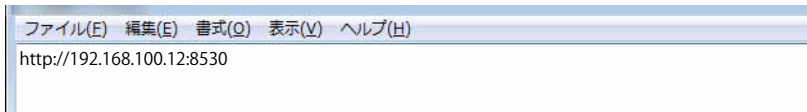
#### □ 本製品の再起動

- 1 設定ファイルを変更後、本製品を再起動します。

## ■ WSUS サーバーを IP アドレスで指定する場合

### □ WUServer.conf

- 1 テキストエディターで「C:\cygwin64\cacheUI\setup\WUServer.conf」を開きます。
- 2 WSUS サーバーの IP アドレスとポート番号を設定します。  
例) WSUS サーバーの IP アドレス：192.168.100.12、ポート番号：8530 の場合



- 3 ファイルを保存して閉じます。

#### POINT

▶「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

### □ 本製品の再起動

- 1 設定ファイルを変更後、本製品を再起動します。

## WSUS の設定

### ■ 本製品導入後に WSUS サーバーを変更した場合の設定

本製品導入後に使用する WSUS サーバーを変更した場合、次の手順でバッチファイルを実行する必要があります。  
※WSUS サーバーの IP アドレスに変更しない場合でも、WSUS サーバーを変更して再構成を実施したときは、バッチファイルを実行する必要があります。  
なお、本製品導入時にこのバッチファイルを実行するを行う必要はありません。

#### POINT

▶ WSUS サーバ変更時は、別マニュアル『設定項目確認一覧表』の「アップデート情報取得モジュール」-「WSUSサーバー変更時」の項目で「○」になっているファイルの変更が必要です。

- 1 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します (→ P.6)。
- 2 次のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。  
`cd C:\Fujitsu\Software\GetUpdateInfo\WSUSUtil\bin`
- 3 次のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。  
`allwsusmetadelete.bat`

```

管理権: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\windows\system32>cd C:\Program Files\FCLY\GetUpdateInfo\WSUSUtil\bin

C:\Program Files\FCLY\GetUpdateInfo\WSUSUtil\bin>allwsusmetadelete.bat
Scheduler running as Administrator !
WSUS Meta delete
openjdk version "1.8.0_232"
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_232-b09)
Eclipse OpenJ9 VM (build openj9-0.17.0, JRE 1.8.0 Windows 10 amd64-64-Bit Compressed References 20191106_498 (J
d, AOT enabled)
OpenJ9      - 77c1cf708
OMR        - 20db4fbc1
JCL        - 3504dff40aa based on jdk8u232-b09)
To delete   days before meta info
Delete Status is : 1
Done.

C:\Program Files\FCLY\GetUpdateInfo\WSUSUtil\bin>
    
```

- 4 コマンドプロンプトを終了します。

## 4. 基本機能 - データキャッシュ機能 (業務端末/マスター端末)

---

### インターネットキャッシュ機能設定

---

#### プロキシの設定

---

プロキシの設定は、「プロキシの設定」(→P.83) で完了しています。

## 5. 基本機能 - 状態監視 (製品本体)

### インストール補助ツールを使用する (動作状態監視ツール)

「インストール補助ツール」(→ P.19) は、本製品に添付されておりません。「インストール補助ツール」を使用する場合は、「インストール補助ツールとアプリケーションアップデートパックのダウンロード」(→ P.23) をご覧になり、ダウンロードしてください。

ダウンロード後、「BasicFunction\_WatchProcessApp\_Install.cmd」を実行してください。なお、バッチファイルは、必ず、管理者権限のアカウントで実行してください。次のインストールと設定が自動で行われます。

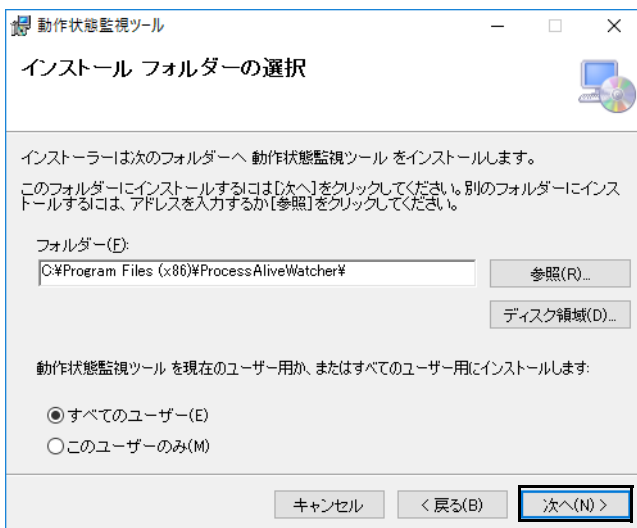
「動作状態監視ツールのインストール」(→ P.130) ～ 「SntpSetting.txt 設定ファイルの変更」(→ P.132)

バッチファイルの実行が完了したら、動作状態監視ツールのインストールと設定は、すべて完了します。  
なお、「インストール補助ツール」(→ P.19) を使用しない場合は、本マニュアルに沿ってインストールと設定を行ってください。

### 動作状態監視ツールのインストール

製品本体に、動作状態監視ツールをインストールします。

- 1 「C:\SmartMaintenance\Other\動作状態監視ツール\WatchProcessAppSetup.msi」を実行します。  
「セットアップウィザード」が表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。  
「インストール フォルダーの選択」が表示されます。
- 3 「すべてのユーザー」を選択し、「次へ」をクリックします。



「インストールの確認」が表示されます。

- 4 「次へ」をクリックします。  
インストールが開始します。
- POINT**  
▶「ユーザーアカウント制御」が表示された場合は、「はい」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。

## 動作状態監視ツールの設定

動作状態監視ツールの設定を行います。

### 監視結果の送付先の設定

本製品の動作状態監視ツールが、診断結果／ログファイルを送信する先のメールアドレスを設定します。

#### ■ MailSetting.ini 設定ファイルの変更

- 1 次のファイルをデスクトップにコピーします。

C:\Program Files\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\MailSetting.ini

- 2 コピーした「MailSetting.ini」をテキストエディターで開き、設定ファイルを変更します。

```
[setting]
;メールタイトルのテンプレート (最大 255 文字)
Title=【 [PC名] 通知】 ([メールアカウント名]) ([対象] 診断通
知) [発生日時]
;メール本文のテンプレート
Text=[発生日時][対象][検知した内容]
;メール出力先アドレス (「|」 (半角のパイプ) で複数のメールアド
レスを区切る)
ToMailAddress=xxx@example.com
```

送信先のメールアドレスを入力してください。

送付先のメールアドレスを複数設定する場合は、メールアドレスの間に「|」を入力してください。

例：test\_user1@fccl.com|test\_user2@fccl.com

- 3 変更後、保存してファイルを閉じます。
- 4 デスクトップの「MailSetting.ini」設定ファイルを次のフォルダーに移動して、既存のファイルと置換します。

C:\Program Files\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\MailSetting.ini

#### POINT

- ▶ 「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。

## ■ SmtplibSetting.txt 設定ファイルの変更

SMTP サーバーの情報について設定します。

### 1 次のファイルをデスクトップにコピーします。

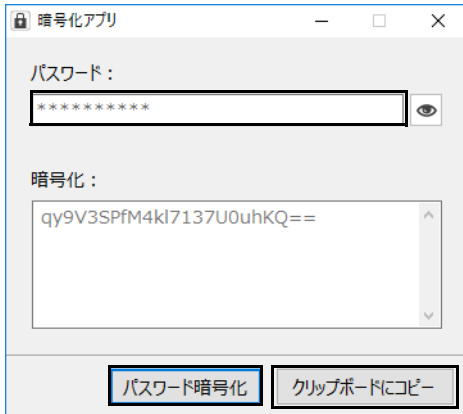
C:\Program Files\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\SmtplibSetting.txt

### 2 コピーした「SmtplibSetting.txt」をテキストエディターで開き、設定ファイルを変更します。

```
;SMTP サーバー名 (ホスト名、または IP アドレス)
Server=xxx.xxx.xxx.xxx SMTP サーバーの IP アドレスを指定します。
;SMTP ポート番号
Port=xxx SMTP サーバーで利用するポート番号を指定します。
;差出人メールアドレス
FromAddress=xxx@example.com 通知メールの差出人のメールアドレスを指定します。
;エンコード (UTF-8,ISO-2022-JP)
Encode=UTF-8 文字のエンコードの種類を指定します。「UTF-8」と「ISO-2022-JP」のどちらかを指
定します。
;メール送信認証設定 (NONE,PLAIN,LOGIN)
Auth=LOGIN SMTP サーバーの認証が必要ときに、認証方法とユーザー ID、パスワードなどを指
定します。認証方法は、「認証なし」「SMTP Auth(PLAIN)」「SMTP Auth(LOGIN)」か
ら指定します。それぞれの指定方法は次のとおりです。
「認証なし」:「NONE」
「SMTP Auth(PLAIN)」:「PLAIN」
「SMTP Auth(LOGIN)」:「LOGIN」
;ユーザー ID (暗号化なし)
;メール送信認証設定に「NONE」が指定された場合、本値は無視する
UserID=xxx SMTP サーバーにログオンするためのアカウント名を指定します。
;パスワード (別途提供するツールにて暗号化)
;メール送信認証設定に「NONE」が指定された場合、本値は無視する
Pass=xxx SMTP サーバーにログオンするためのパスワードを暗号化して指定します。
```

## 重要

パスワードは、暗号化アプリで暗号化した文字列を指定してください。



1. 「C:\SmartMaintenance\Other\暗号化アプリ\PasswordEncoder.exe」を実行します。
2. 「パスワード」にパスワードを入力します。
3. 「パスワード暗号化」をクリックします。
4. 「クリップボードにコピー」をクリックします。

### 3 変更後、保存してファイルを閉じます。

### 4 デスクトップの「SmtplibSetting.txt」設定ファイルを次のフォルダーに移動して、既存のファイルと置換します。

C:\Program Files\FCC\ProcessAliveWatcher\Ini\SmtplibSetting.txt

## POINT

- ▶「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」というメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。



## お手入れナビのインストール

---

製品本体に、お手入れナビをインストールします。インストールは、必ず、管理者権限のアカウントで行ってください。

**1 「C:\Fujitsu\Software\Oteire\setup.exe」を実行します。**

以降の操作は、表示された画面に従って、設定を変えずに行ってください。

## お手入れナビの設定

---

本アプリの設定を変更することにより、空冷用通風路のお手入れの通知時期の変更や、メッセージを表示させないようにできます。通知時期を変更する方法については、「お手入れナビ」のヘルプをご覧ください。

 POINT

▶ 「お手入れナビ」のヘルプは、次の操作で表示されます。

1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - お手入れナビ」→「ヘルプ」の順にクリックします。

## 6. 基本機能 - WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール

---

### 重要

- ▶ マスター端末／業務端末を設定する場合、次の点に注意してください。
  - ・ 複数のアカウントが作成されている端末に設定する場合は、すべてのアカウントに対して設定が必要となります。
  - ・ 運用管理ツールクライアントをインストールするときは、管理者権限のあるローカルユーザーアカウントが必要です。  
また、管理者権限のあるローカルユーザーアカウントには、必ずパスワードを付けてください。

### 運用管理ツールのインストールと設定

---

サーバー、エッジコンピューティングデバイス、マスター端末、業務端末、管理者端末に WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツールをインストールおよび設定します。詳しくは、『WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧ください。

## 7. アプリアップデートパック V1.0.4 (製品本体)

アプリアップデートパック V1.0.4 のインストールについて説明します。

### POINT

- ▶「アプリアップデートパック V1.0.2」と「アプリアップデートパック V1.0.3」は、「アプリアップデートパック V1.0.4」に含まれるため、インストールする必要はありません。

### アプリアップデートパック V1.0.4 のコピーと解凍

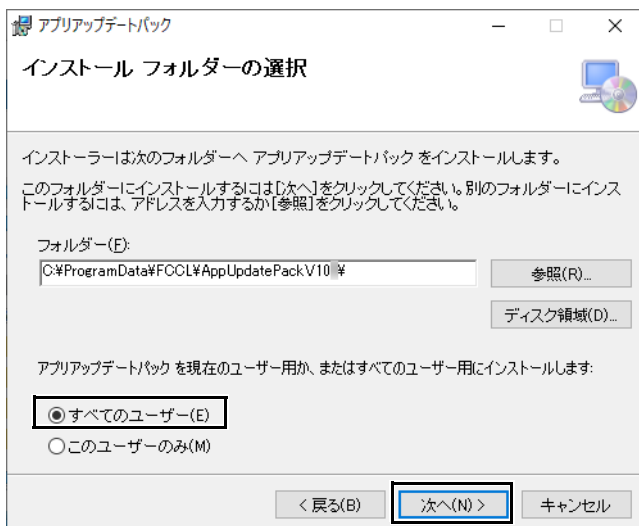
アプリアップデートパック V1.0.4 は、本製品に添付されておりません。「インストール補助ツールとアプリアップデートパックのダウンロード」(→ P.23) をご覧になり、ダウンロードしてください。

- 1 ダウンロードした「アプリアップデートパック V1.0.4」(exe ファイル) を本製品の任意のフォルダーにコピーします。
- 2 exe ファイルを実行します。  
「ApPkV104」フォルダー内にアプリアップデートパック V1.0.4 が解凍されます。

### アプリアップデートパック V1.0.4 のインストール

ここでは、アプリアップデートパック V1.0.4 を「C:¥」に解凍した場合を例に説明します。

- 1 「C:¥ApPkV104¥AppUpdatePack.msi」を実行します。  
セットアップ・ウィザードが表示されます。
- 2 「次へ」をクリックします。  
インストール先フォルダーの入力画面が表示されます。
- 3 「すべてのユーザー」を選択し、「次へ」をクリックします。



「インストールの確認」が表示されます。

- 4 「次へ」をクリックします。

### POINT

- ▶ユーザーアカウント制御の画面が表示される場合は、「はい」をクリックします。

インストールが開始されます。しばらくすると、「インストールが完了しました。」と表示されます。

- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 コマンドプロンプトに次のメッセージが表示されるまで待ちます。  
アプリアップデートパックによる以下のアップデートは完了しました。
  - インターネットキャッシュ機能
  - アップデート情報取得モジュール
  - メンテナンス機能
- 7 次のファイルが存在することを確認します。  
C:¥cygwin64¥cacheUI¥jar¥CacheUI-3.1.3.jar

# 5

## 第 5 章

### セットアップの確認とバックアップ

インストールや設定の確認方法を説明しています。

1. 基本機能 - データキャッシュ機能.....	137
2. 基本機能 - 状態監視 .....	137
3. 基本機能 - 運用管理ツール.....	138
4. アプリアップデートパック .....	138
5. バックアップ.....	138

## 1. 基本機能 - データキャッシュ機能

### インターネットキャッシュ機能

インターネットキャッシュ機能に必要なサービスが開始されていることを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
サービスが起動します。
- 2 次のサービスが開始されていることを確認します。

サービス名
cacheCtl
CacheUIService

- 3 サービスを閉じます。

### アップデート情報取得モジュールの確認

- 1 次のフォルダーが作成されていることを確認します。  
C:\Program Files\FCLL\GetUpdateInfo
- 2 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「タスクスケジューラ」の順にクリックします。  
「タスクスケジューラ」が起動します。
- 3 「タスクスケジューラ ライブラリ」をクリックします。
- 4 一覧の中に「GetWSUSInfo」があることを確認します。

## 2. 基本機能 - 状態監視

### 動作状態監視ツール

状態監視に必要なサービスが開始されていることを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。  
サービスが起動します。
- 2 次のサービスが開始されていることを確認します。

サービス名
ProcessAliveWatcher

- 3 サービスを閉じます。

### お手入れナビ

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリックします。  
「プログラムのアンインストールまたは変更」が表示されます。
- 3 「お手入れナビ」が表示され、バージョンが「6.10.00.000」であることを確認します。

### 3. 基本機能 - 運用管理ツール

#### 運用管理ツール サーバ

運用管理ツール サーバをインストールしたサーバーで次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリックします。  
「プログラムのアンインストールまたは変更」が表示されます。
- 3 「運用管理ツール サーバ」が表示され、バージョンが「24.10.10」であることを確認します。

#### 運用管理ツール 管理コンソール

管理者端末で次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリックします。  
「プログラムのアンインストールまたは変更」が表示されます。
- 3 「運用管理ツール 管理コンソール」が表示され、バージョンが「24.10.10」であることを確認します。

#### 運用管理ツール クライアント

エッジコンピューティングデバイス / マスター端末で次の操作を行います。

- 1 タスクトレイの運用管理ツールアイコンを右クリックし、「プロパティを表示する」をクリックします。
- 2 バージョンが「V4 L10」であることを確認します。

### 4. アプリアップデートパック

エッジコンピューティングデバイスで次の操作を行います。

#### インターネットキャッシュ機能更新プログラムのインストール

- 1 次のファイルが存在することを確認します。  
C:\cygwin64\cacheUI\jar\CacheUI-3.1.3.jar

### 5. バックアップ

Windows や本製品のアプリが起動しなくなった場合に備え、システムイメージやアクセスポイントの設定をバックアップすることをお勧めします。  
詳しくは、『管理ガイド』の「バックアップと復元」をご覧ください。

# 6

## 第 6 章 BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

1. BIOS セットアップ.....	140
2. BIOS セットアップの操作のしかた.....	141
3. 設定事例集.....	143
4. BIOS セットアップメニュー詳細.....	149
5. ME BIOS Extension セットアップメニュー詳細.....	158

## 1. BIOS セットアップ

BIOS セットアップは、メモリやフラッシュメモリディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本製品で購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合に BIOS セットアップの設定を変更します。

- 特定の人だけが利用できるように、本製品の BIOS にパスワードを設定するとき
- 起動デバイスを変更するとき
- セキュリティチップの設定を変更するとき
- Wake On LAN の設定を変更するとき
- 起動時の自己診断 (POST) に BIOS セットアップをうながすメッセージが表示されたとき

### 重要

- ▶ BIOS セットアップは、リモートデスクトップ接続で設定することはできません。必ず、本製品に、ディスプレイ、USB キーボード、USB マウスを接続して設定してください。
- ▶ BIOS セットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「電源を切る」(→P.30) をご覧ください。
- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。  
設定を間違えると、本製品が起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。  
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本製品を再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。



## 2. BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

### BIOS セットアップを起動する

- 1 【F2】 キーまたは【Delete】 キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
- 2 BIOS セットアップ画面が表示されたら、【F2】 キーまたは【Delete】 キーを離します。

#### POINT

▶Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「電源を切る」(→P.30) をご覧ください。

### BIOS セットアップ画面

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。  
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「各キーの役割」(→P.141) をご覧ください。

The screenshot shows the Aptio Setup Utility interface. At the top, there is a menu bar with options: メイン, 詳細, セキュリティ, 電源管理, イベントログ, 起動, 終了. The main area is divided into sections: BIOS Information (American Megatrends FUJITSU), System Information (Language: Japanese), and System Date/Time (Sunday 01/01/2014). A key list on the right side of the screen includes: F1: General Help, F2: Restore Previous Values, F3: Load Standard Defaults, F4: Save and Exit, ESC: Exit Menu.

Annotations in the image:

- 1 メニューバー  
メニュー名が表示されます。
- 2 設定フィールド  
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。
- 3 キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

### 各キーの役割

BIOS セットアップで使う、主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】 キー	BIOS セットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。閉じる場合は、【Esc】 キーまたは【Enter】 キーを押します。
【←】 【→】 キー	メニューを切り替えます。
【↑】 【↓】 キー	設定する項目にカーソルを移動します。 【Page Up】 【Page Down】 キーを押すと、ページの先頭または最後にカーソルを移動できます。
【-】 【+】 キー	各項目の設定値を変更します。
【Shift】 + 【↑】 【↓】 キー	項目の説明が表示されている部分をスクロールします。
【Esc】 キー	「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1 つ前の画面が表示されます。
【Enter】 キー	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】 キーを押すと、サブメニューが表示されます。</li> <li>設定値にカーソルを合わせて【Enter】 キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。</li> <li>時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。</li> </ul>
【F2】 キー	変更前の値を読み込みます。
【F3】 キー	標準設定値を読み込みます。
【F4】 キー	変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了します。

## BIOS セットアップを終了する

### 変更を保存して終了する

**1 「終了」メニューを選択します。**

サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

**POINT**

▶【Esc】キーを押し続けると、「変更を保存せずに終了しますか？」と表示されます。  
表示されたときは、もう一度【Esc】キーをして画面を消してから、「終了」メニューを選択してください。

**2 「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を選択し、【Enter】キーを押します。**

確認メッセージが表示されます。

**3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。**

BIOS セットアップが終了します。「変更を保存して終了する（再起動）」を選択した場合は Windows が起動し、「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を選択した場合は製品の電源が切れます。

### 変更を保存せずに終了する

**1 「終了」メニューを選択します。**

サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

**2 「変更を保存せずに終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。**

確認メッセージが表示されます。

**3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。**

BIOS セットアップが終了し、Windows が起動します。

## 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本製品を起動します。「システム修復ディスク」から本製品を起動する場合などに使用します。

**1 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。**

**2 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。**

Windows が起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「電源を切る」(→ P.30) をご覧ください。

**3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。**

選択したデバイスから本製品が起動します。

**POINT**

- ▶光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
  - ▶UEFI起動メディアから起動する場合は、「UEFI：(光学ドライブ名)」を選択してください。
  - ▶「UEFI：(光学ドライブ名)」が表示されていないときは、次の操作を行い、本製品を再起動してください。
1. ディスクをセットしたまま【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押し、続けて【F12】キーを押したままにします。
  2. 起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

**POINT**

- ▶光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

### 3. 設定事例集

---

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

- ・ BIOS のパスワード機能を使う (→ P.143)
- ・ 起動デバイスを変更する (→ P.146)
- ・ セキュリティチップの設定を変更する (→ P.146)
- ・ Wake On LAN を有効にする (→ P.147)
- ・ イベントログを確認する (→ P.148)
- ・ イベントログを消去する (→ P.148)
- ・ ご購入時の設定に戻す (→ P.148)

その他の BIOS 設定については、「BIOS セットアップメニュー詳細」(→ P.149) をご覧ください。

#### BIOS のパスワード機能を使う

---

##### パスワードの種類

本製品で設定できるパスワードは次のとおりです。

##### ■ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

##### ■ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

##### POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

##### ■ ハードディスクパスワード

本製品のハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードを設定してからハードディスクパスワードを設定することをお勧めします。

##### パスワード入力が必要となる場合

---

管理者用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ユーザー用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。
- ・ 本製品を起動するとき
  - ・ 休止状態からレジュームするとき

必要に応じて、管理者用またはユーザー用パスワードを入力してください。

## パスワードを設定／変更／削除する

### 重要

- ▶ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本製品を再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。

#### 1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本製品の電源が入っている場合は、電源を切ります。  
電源の切り方は、「電源を切る」(→P.30)をご覧ください。
2. BIOS セットアップを起動します (→P.141)。

#### 2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
  - ・「管理者用パスワード設定」
  - ・「ユーザー用パスワード設定」
- ハードディスクパスワードを設定する場合
  - ・「ハードディスクセキュリティ設定」→「Pn：(ハードディスクドライブ名)」の「ユーザーパスワード設定」

#### 3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

#### 4 新しいパスワードを入力します。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードは3～32桁、ハードディスクパスワードは1～32桁まで入力できます。  
パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。  
「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

### 重要

- ▶パスワードには次の文字を使用できます。
  - ・半角英数字 (a-z, A-Z, 0-9)
  - ・半角スペース
  - ・半角記号 (["、\、\ (バックスラッシュ) は除く)
 複数の種類のキーボードを接続する場合は、アルファベットと数字を使用することをお勧めします。また、接続するキーボードの種類にあわせ、事前にBIOSセットアップの「メイン」メニューの「キーボードレイアウト」を設定する必要があります。設定後は、「終了」メニューの「変更を保存して終了する (再起動)」または「変更を保存して終了する (電源OFF)」を実行してください。
- ▶入力した文字は表示されず、代わりに「\*」が表示されます。
- ▶数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- ▶本製品の修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

#### 5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

### POINT

- ▶再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

#### 6 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(→P.142)

## パスワードを使用する

---

設定したパスワードは、BIOS セットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

### POINT

▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されます。この場合は、電源ボタンを4秒以上押しして本製品の電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

#### ● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード

- ・ BIOS セットアップを起動するとき
- ・ 本製品を起動するとき
- ・ 休止状態からレジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

パスワードを入力してください

#### ● ハードディスクパスワード

- ・ 本製品を起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

P0: (ハードディスク名)

ハードディスクのパスワードを入力してください:

## パスワードを忘れてしまったら

---

### 重要

▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

#### ■ 対処が可能な場合

##### ● ユーザー用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

#### ■ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

##### ● 管理者用パスワードを忘れてしまった

##### ● ハードディスクパスワードを忘れてしまった

## 起動デバイスを変更する

---

本パソコンの起動時に OS を読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。「起動デバイス」に設定されている順に OS を検索します。変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

- 1 「起動」メニューを選択します。
- 2 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。  
選択したデバイスの順位が入れ替わります。
- 5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。
- 6 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。  
「BIOS セットアップを終了する」(→P.142)

## セキュリティチップの設定を変更する

---

### セキュリティチップを有効/無効にする

---

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「有効にする」または「無効にする」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する (再起動)」を選択し、【Enter】キーを押します。  
確認メッセージが表示されます。
- 6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。  
起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの設定が変更されます。

### セキュリティチップをクリアする

---

#### 重要

- ▶セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。
- ▶セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「TPM 状態の変更内容」を選択し、【Enter】キーを押します。

#### POINT

- ▶「TPM 状態の変更内容」を選択するためには、「セキュリティチップ」が「有効にする」に設定されている必要があります。

- 4 「クリアする」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する (再起動)」を選択し、【Enter】キーを押します。  
確認メッセージが表示されます。
- 6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。  
起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。



### ソフトウェアからの変更を反映する

---


Windows 上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本製品の再起動後に、変更が有効になっていることがあります。再起動を要求するメッセージが表示されたら、本製品を再起動してください。起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

## Wake On LAN を有効にする

Wake on LAN 機能とは、他のコンピューターから有線 LAN 経由で本製品を起動・レジュームする機能です。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。電源を切る方法については、「電源を切る」(→P.30)をご覧ください。

- 1 「電源管理」メニューを選択します。
- 2 「AC 通電再開時の動作」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「使用しない」以外を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「LAN」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 6 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。  
「BIOS セットアップを終了する」(→P.142)  
Windows が起動します。続けて次の操作を行います。
- 7 「電源オプション」を表示します。
  1. 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
  2. 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
  3. 画面右側の関連設定の「電源の追加設定」をクリックします。
- 8 ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。
- 9 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 10 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 11 画面左側のメニューで「バージョン情報」をクリックします。
- 12 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をクリックします。  
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 13 「ネットワーク アダプター」→「Intel (R) Ethernet Controller I219-LM」の順にダブルクリックします。  
Intel LAN のプロパティが表示されます。
- 14 「詳細設定」タブで次の設定を変更します。  
「PME をオンにする」を選択し、値を「有効」にします。
- 15 「OK」をクリックします。

### POINT

- ▶ 本製品で、Wake On LAN 機能を使用する場合、アクセスポイントで「Wake on LAN」の設定が必要です。詳しくは、『アクセスポイント操作ガイド』の「Wake on LAN」をご覧ください。
- ▶ 省電力状態からのレジューム設定には、デバイスマネージャーでの設定も必要になります。
  1. 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
  2. 画面左側のメニューで「バージョン情報」をクリックします。
  3. 画面右側の関連設定の「デバイスマネージャー」をクリックします。  
「デバイスマネージャー」が表示されます。
  4. 「ネットワーク アダプター」→「Intel (R) Ethernet Controller I219-LM」の順にダブルクリックします。  
Intel LAN のプロパティが表示されます。
  5. 「電源の管理」タブをクリックします。
  6. Wake on LAN 機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。  
電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする  
このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする  
(マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packet でのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。)
  7. 「OK」をクリックします。

## イベントログを確認する

---

- 1 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。

記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「起動時に表示されるエラーメッセージ」(→ P.169) をご覧ください。

## イベントログを消去する

---

- 1 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 次回起動時に消去する場合は「次回起動時に消去します」を、毎回起動時に消去する場合は「毎回起動時に消去します」をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(→ P.142)

### POINT

▶「イベントログの消去」に「次回起動時に消去します」を選択した場合、再起動すると設定値は「いいえ」になります。

## ご購入時の設定に戻す

---

- 1 「終了」メニューを選択します。
- 2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。  
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。  
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
  - 「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
    - ・ 日時の設定
    - ・ 言語設定
    - ・ キーボードレイアウト
    - ・ 管理者用パスワード
    - ・ ユーザー用パスワード
    - ・ ハードディスクパスワード
    - ・ 起動デバイスの優先順位
- 4 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。
- 5 「電源を切る」(→ P.30) をご覧になり、本製品の電源を切ります。



## 4. BIOS セットアップメニュー詳細

BIOS セットアップのメニューについて説明しています。  
BIOS セットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	説明
メイン (→P.149)	BIOS やパソコン本体についての情報が表示されます。 また、日時や言語を設定します。
詳細 (→P.150)	CPU や内蔵デバイス、周辺機器などを設定します。
セキュリティ (→P.150)	パスワードなどのセキュリティ機能を設定します。
電源管理 (→P.150)	停電復旧時の動作や、Wake On LAN 機能などを設定します。
イベントログ (→P.156)	イベントログに関する設定を行います。
起動 (→P.156)	起動時の動作について設定します。
終了 (→P.157)	設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

### 重要

▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

### POINT

▶ ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると、設定変更のできる項目が制限されます。制限された項目はグレーに表示されます。ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合に変更できる項目は次のとおりです。

メニュー	設定項目
メイン	言語 (Language)
	システム日付
	システム時刻
セキュリティ	ユーザー用パスワード設定
起動	起動時の NumLock 設定
	起動時のロゴ表示
終了	変更を保存して終了する (再起動)
	変更を保存せずに終了する (再起動)
	変更を保存して終了する (電源 OFF)

### メインメニュー

選択肢  初期値

設定項目	備考
BIOS 情報	
BIOS ベンダー	
カスタマイズ	
コア版数	
コンプライアンス	
システム情報	
システムボードおよびファームウェア	
BIOS 版数	
BIOS 日付	
Board	
型名	
製造番号	
カスタムメイド番号	
UUID	
LAN デバイス	
LAN 1 MAC Address	
CPU 詳細	
CPU 名	
メモリ詳細	
メモリ容量/周波数	1MB=1024 <sup>2</sup> バイト換算
DIMM CHA 1	1MB=1024 <sup>2</sup> バイト換算
DIMM CHB 2	1MB=1024 <sup>2</sup> バイト換算

選択肢 初期値

設定項目	備考
Open Source Software Licence Information	
言語 (Language) <input type="checkbox"/> English <input checked="" type="checkbox"/> 日本語	
システム日付 01/01/1998 ~ 12/31/2100	【Tab】キー／【Enter】キー… 右の項目に移動 数字キーで入力 OS が自動的に変更する場合あり
システム時刻 00 : 00 : 00 ~ 23 : 59 : 59	【Tab】キー／【Enter】キー… 右の項目に移動 数字キーで入力
キーボードレイアウト <input type="checkbox"/> English(US) <input type="checkbox"/> Spanish <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> Brazilian <input type="checkbox"/> Dutch <input type="checkbox"/> German <input type="checkbox"/> Italian <input type="checkbox"/> Swedish <input type="checkbox"/> Danish <input type="checkbox"/> Finnish <input type="checkbox"/> Norwegian <input type="checkbox"/> Russian <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> Korean <input type="checkbox"/> Chinese	BIOS パスワードを設定している場合は設定不可
アクセスレベル	BIOS セットアップを管理者用パスワードで起動した場合は「管理者」、ユーザー用パスワードで起動した場合は「ユーザー」と表示される

## 詳細メニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
オンボードデバイス設定	
内蔵 LAN デバイス <input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	
Status LED <input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	
CPU 設定	
アクティブコア <input checked="" type="checkbox"/> 全て / <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
Intel Virtualization Technology <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
VT-d <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
TXT 設定 <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「VT-d」が「使用する」 「セキュリティチップ」が「有効にする」
SW Guard Extensions (SGX) <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する <input checked="" type="checkbox"/> ソフトウェア制御	
Enhanced SpeedStep <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	※ 注
Turbo Mode <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「Enhanced SpeedStep」が「使用する」 ※ 注
Package C State limit <input type="checkbox"/> C0 <input type="checkbox"/> C2 <input type="checkbox"/> C3 <input type="checkbox"/> C6 <input type="checkbox"/> C7 <input type="checkbox"/> C7s state <input checked="" type="checkbox"/> 自動	※ 注
ドライブ設定	
OnBoard SATA 設定	
SATA Mode <input checked="" type="checkbox"/> AHCI Mode <input type="checkbox"/> Intel RST Premium With Intel Option System Acceleration	

選択肢 初期値

設定項目	備考
M.2 SATA Port 0	
Port 0 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
SATA Port 2	
Port 2 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
SATA Port 3	
Port 3 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
SMART 設定	
SMART 診断 <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
Acoustic Management 設定	※ 注
互換性サポートモジュール設定	
互換性サポートモジュール <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「セキュアブート機能」が「使用しない」
ネットワークからの起動 <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> UEFIのみ起動 <input checked="" type="checkbox"/> Legacyのみ起動	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「互換性サポートモジュール」が「使用しない」 または「セキュアブート機能」が「使用しない」
TPM (セキュリティチップ) 設定	
TPM (セキュリティチップ) 設定	
セキュリティチップ <input type="checkbox"/> 無効にする <input checked="" type="checkbox"/> 有効にする	
TPM 状態の変更内容 <input checked="" type="checkbox"/> 変更しない <input type="checkbox"/> クリアする	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「セキュリティチップ」が「有効にする」 「セキュリティチップを有効/無効にする」(→ P.146) を参照
USB 設定	
USB 設定	接続されている USB デバイスを表示
USB レガシーサポート <input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 自動	
PS/2 デバイスエミュレーション <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
USB ポートセキュリティ	
USB ポート設定 <input checked="" type="checkbox"/> 全て有効 <input type="checkbox"/> 全て無効 <input type="checkbox"/> 前面と内部のみ有効 <input type="checkbox"/> 背面と内部のみ有効 <input type="checkbox"/> 内部のみ有効 <input type="checkbox"/> 使用中ポートのみ有効	
USB デバイス設定 <input checked="" type="checkbox"/> 全てのデバイス <input type="checkbox"/> キーボード/マウスのみ <input type="checkbox"/> ストレージと Hub 以外	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「USB ポート設定」が「前面と内部のみ有効」 または「背面と内部のみ有効」 または「使用中ポートのみ有効」
System Management	
FAN 制御 <input checked="" type="checkbox"/> Enhanced <input type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> Full	※ 注
温度	
CPU	温度センサー (CPU 内蔵) の現在の状態
M.2	温度センサー (M.2) の現在の状態
PSU	温度センサー (電源ユニットに搭載) の現在の状態
Core	温度センサー (Core) の現在の状態
Memory	温度センサー (Memory) の現在の状態
PCH	温度センサー (チップセット内部) の現在の状態
FAN	
SYS	システムファンの現在の状態

選択肢 初期値

設定項目	備考
シリアル設定	
シリアルポート 1 設定	
シリアルポート <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
デバイス設定	下記の項目が次のように設定されているときに表示 「シリアルポート」が「使用する」
I/O アドレスと割り込み <input checked="" type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> IO=3F8h; IRQ4; <input type="checkbox"/> IO=3F8h;IRQ3,4,5,6,7,9, 10,11,12; <input type="checkbox"/> IO=2F8h; IRQ3,4,5,6,7,9, 10,11,12; <input type="checkbox"/> IO=3E8h; IRQ3,4,5,6,7,9, 10,11,12; <input type="checkbox"/> IO=2E8h; IRQ3,4,5,6,7,9, 10,11,12;	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「シリアルポート」が「使用する」
シリアルポートコンソール リダイレクション設定	
コンソールリダイレクション <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
AMT 設定	
ME 版数	
Intel AMT BIOS Extension <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
AMT USB プロビジョニング <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
AMT/ME 設定のクリア <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
ME セットアップ <input checked="" type="checkbox"/> Normal <input type="checkbox"/> Enter MEBx Setup	
ネットワークスタック	
ネットワークスタック <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
IPv4 環境での起動 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「ネットワークスタック」が「使用する」
IPv6 環境での起動 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「ネットワークスタック」が「使用する」
内蔵ビデオ設定	
内蔵ビデオ設定	
プライマリディスプレイ <input checked="" type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> 内蔵ビデオ	
内蔵ビデオ <input checked="" type="checkbox"/> 自動 <input type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
内蔵ビデオメモリサイズ <input type="checkbox"/> 32MB <input checked="" type="checkbox"/> 64MB <input type="checkbox"/> 128MB <input type="checkbox"/> 256MB <input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1024MB <input type="checkbox"/> 1536MB	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「内蔵ビデオ」が「自動」または「使用する」 ※注
DVMT メモリサイズ <input type="checkbox"/> 128MB <input checked="" type="checkbox"/> 256MB <input type="checkbox"/> MAX	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「内蔵ビデオ」が「自動」または「使用する」 ※注
Intel (R) Ethernet Controller	オンボード LAN デバイスのオプション ROM に関するサブメニュー ※注

注 : 本設定は初期値のまま変更せずにお使いください。

## セキュリティメニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
管理者用パスワード設定	「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.143) を参照
ユーザー用パスワード設定	「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.143) を参照
起動時のパスワード入力 <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 最初のみ <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	管理者用パスワード設定時に設定可能 毎回…本製品の起動時ごとに、パスワード入力を要求 最初のみ…本製品の電源を入れたときのみ、パスワード入力を要求 使用しない…本製品の起動時に、パスワード入力の要求なし 「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.143) を参照
自動ウェイクアップ時の パスワードスキップ <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	管理者用パスワード設定時に設定可能 使用しない…自動ウェイクアップ時での起動時に、パスワード入力を要求 使用する…自動ウェイクアップ時での起動時に、パスワード入力の要求なし ハードディスクパスワードの入力スキップは不可
システムファームウェア更新機能 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する(制限付き) <input type="checkbox"/> 使用する	
起動時の HDD パスワード入力 <input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	ハードディスクパスワード設定時に設定可能 使用する…本製品起動時に、ハードディスクパスワード入力を要求 使用しない…本製品起動時に、ハードディスクパスワード入力の要求なし 「BIOS のパスワード機能を使う」(→P.143) を参照
〔ハードディスクドライブ名〕	
ハードディスクセキュリティ設定	
Security Supported	設定状況を表示
Security Enabled	設定状況を表示
Security Locked	設定状況を表示
Security Frozen	設定状況を表示
ユーザーパスワードの状態	設定状況を表示
マスターパスワードの状態	設定状況を表示
ユーザーパスワード設定	電源投入直後に BIOS セットアップを起動した場合に設定可能。再起動後は表示されない。
セキュアブート設定	
署名情報の保護	設定状態を表示 「無効(セットアップモード)」または「有効(ユーザーモード)」と表示される
セキュアブート	設定状態を表示 「セキュアブート機能」が「使用する」時は「使用する」、「使用しない」時は「使用しない」と表示される
Vendor Keys	セキュアブート機能が「使用する」時の設定状態を表示
セキュアブート機能 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	※注1 ※注2
署名情報設定 <input checked="" type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> カスタム	
署名情報の管理	
署名情報の初期化 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
署名情報の初期化	下記の項目が次のように設定されているときに表示/設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」 「署名情報の初期化」が「使用する」
署名情報の削除	下記の項目が次のように設定されているときに表示/設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」 「署名情報の初期化」が「使用しない」
キーの保存	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Platform Key(PK)	
Save To File	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Delete Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」

選択肢 初期値

設定項目	備考
Key Exchange Key	
Save To File	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Append Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Delete Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Authorized Signatures	
Save To File	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Append Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Delete Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Forbidden Signatures	
Save To File	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Append Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Delete Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Authorized TimeStamps	
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Append Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
OSRecovery Signatures	
Set New Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Append Key	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「署名情報設定」が「カスタム」
Easy PC Protection	
Easy PC Protection <input type="checkbox"/> 使用する <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	

注1: 「セキュアブート機能」が「使用する」で、Windows 10 (UEFI モード) 以外の OS から起動した場合、「起動可能なデバイスが見つかりませんでした」などのメッセージが表示されます。

注2: Windows 10 のモード (UEFI / レガシー) は、次の手順で確認できます。

Windows 10 を起動します。

タスクバーの「検索」ボックスに、「msinfo32」と入力して【Enter】キーを押します。

「システム情報」が表示され、「BIOS モード」の項目に「UEFI」または「レガシー」が表示されています。

## 電源管理メニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
電源管理設定	
AC 通電再開時の動作 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 電源 OFF <input type="checkbox"/> 電源 ON <input type="checkbox"/> 自動	設定変更は再起動後に有効 電源 OFF…通電再開時に一瞬電源が入り、WoLなどを初期化。その後電源 OFF。 自動…電源断発生時の状態による。 起動中、スリープは「電源 ON」 シャットダウン、休止状態は「電源 OFF」 ※注1
電力制限 <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	※注7
電源オフ時の USB 電源供給 <input type="checkbox"/> 電源 OFF <input checked="" type="checkbox"/> 電源 ON	※注7

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
ウェイクアップ設定	
LAN □使用しない ■使用する	設定変更は再起動後に有効 ※注2 ※注3 ※注4 ※注5 「Wake On LAN を有効にする」(→P.147) を参照
LAN によるウェイクアップ後の起動 ■起動順位に従う □ネットワークから起動する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「LAN」が「使用する」
USB キーボード ■使用しない □使用する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「電源オフ時の USB 電源供給」が「電源 ON」 ※注7
時刻 ■使用しない □使用する	設定変更は再起動後に有効 ※注2 ※注3 ※注6
時 0～23	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」
分 0～59	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」
秒 0～59	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」
モード □毎週 ■毎日 □毎月	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」
日曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
月曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
火曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
水曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
木曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
金曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
土曜日 □使用する ■使用しない	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎週」
日 1～31	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「時刻」が「使用する」 「モード」が「毎月」

注1：UPS などを使って通電再開時に電源を投入させたい場合は、「電源 ON」に設定してください。ただし、「電源 ON」設定時に、本製品の電源切断状態から AC 入力に瞬断が発生すると、本製品の電源が投入されることがあります。

注2：Windows 10 および Windows 8.1 の場合、Windows の高速スタートアップを無効にしてください。

注3：「AC 通電再開時の動作」を「使用しない」に設定した場合、停電などの AC 電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで本機能は使用できなくなります。

注4：省電力状態（スリープ状態）からレジューム（復帰）させることはできません。デバイスマネージャーでの設定が必要です。

注5：省電力状態（休止状態）からレジューム（復帰）させるには、デバイスマネージャーでの設定も必要です。

注6：省電力状態（スリープ状態）からレジューム（復帰）させることはできません。タスクスケジューラまたはタスクでの設定が必要です。

注7：本設定は初期値のまま変更せずにお使いください。

## イベントログメニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
イベントログ設定	
イベントログ設定 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
イベントログ消去設定	
イベントログの消去 <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 次回起動時に消去します <input type="checkbox"/> 毎回起動時に消去します	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「イベントログ」が「使用する」 「イベントログを消去する」(→P.148)を参照
イベントログフル <input checked="" type="checkbox"/> 何もしない <input type="checkbox"/> すぐに消去する	下記の項目が次のように設定されているときに設定可能 「イベントログ」が「使用する」
イベントログの表示	「イベントログを確認する」(→P.148)を参照

## 起動メニュー

選択肢 初期値

設定項目	備考
起動設定	
起動時の NumLock 設定 <input checked="" type="checkbox"/> On <input type="checkbox"/> Off	Windows サインイン後は前回終了時の状態になる
起動時のロゴ表示 <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
起動エラー時の動作 <input type="checkbox"/> 起動を続ける <input checked="" type="checkbox"/> キー押下まで待つ	※注1
キーボードエラー検出 <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
UEFI 起動デバイス追加時の優先順位 <input type="checkbox"/> 標準 <input checked="" type="checkbox"/> 最上位 <input type="checkbox"/> 最下位	
起動メニュー <input type="checkbox"/> 使用しない <input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
リムーバブルメディアからの起動 <input checked="" type="checkbox"/> 使用しない <input type="checkbox"/> 使用する	
起動デバイスの優先順位	OS を読み込むデバイスの優先順位を設定 ※注2 「起動デバイスを変更する」(→P.146)を参照
Boot Option #n	n は起動の順位を示す ご購入時は次のように設定 #1: P2: [HDD デバイス名]: Windows Boot Manager #2: UEFI: IPv4 [LAN デバイス名] #3: UEFI: IPv6 [LAN デバイス名] ・カスタムメイドオプションおよびお使いの状況により、起動順位は異なる ・「UEFI: [CD/DVD デバイス名]」は、UEFI 起動可能なディスクをセットしている場合に表示 ・UEFI 起動デバイスから起動する場合は、BIOS 起動デバイスより上位に設定すること ・起動ドライブまたはディスクを交換すると、その順位が初期化され、最下位に追加される ・UEFI アプリが、優先順位を変更することがある

注1：本設定を「使用しない」に設定しても、エラーメッセージは表示され、イベントログにも記録されます。

注2：ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストラクションサーバーシステムが必要となります。



## 終了メニュー

項目を選んで【Enter】キーを押すと、確認画面が表示されます。

設定項目	備考
変更を保存して終了する（再起動）	
変更を保存せずに終了する（再起動）	
変更を保存して終了する（電源 OFF）	
標準設定値を読み込む	次の項目は対象外 言語（Language） システム日付 システム時刻 キーボードレイアウト 管理者用パスワード ユーザー用パスワード ハードディスクパスワード 起動デバイスの優先順位 「ご購入時の設定に戻す」（→ P.148）を参照
強制起動	
起動デバイス名	

## 5. ME BIOS Extension セットアップメニュー詳細

ここでは、ME セットアップの主なメニュー項目について説明します。

### 「Intel(R) ME General Settings」メニュー

メニュー	備考
Change ME Password	ME セットアップのパスワードを変更します。 パスワード入力画面でパスワードを入力後、「ME セットアップ初期パスワードの変更」(→ P.31) の手順 5 以降をご覧ください。パスワードを変更してください。

### 「Intel(R) AMT Configuration」メニュー

選択肢  初期値

設定項目	備考
Manageability Feature Selection <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	AMT 機能の有効/無効を設定する。
SOL/IDER/KVM	「SOL/IDER/KVM」メニューを表示する。
Username and Password <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	SOL/IDE-R 使用時にユーザー認証を行うかどうかを設定する。
SOL <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	Serial Over LAN 機能の有効/無効を設定する。 本機能を有効に設定した場合、COM ポートを占有する。
IDER <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	IDE Redirection 機能の有効/無効を設定する。
KVM Feature Selection <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	KVM 機能の有効/無効を設定する。
User Consent	「User Consent」メニューを表示する。
Username and Password <input checked="" type="checkbox"/> None <input type="checkbox"/> KVM <input type="checkbox"/> All	SOL/IDE-R 使用時にユーザー認証を行うかどうかを設定する。
Opt-in Configurable from Remote IT <input type="checkbox"/> Disable Remote Control of KVM Opt-In Policy <input checked="" type="checkbox"/> Enable Remote Control of KVM Opt-In Policy	リモートユーザーが KVM Opt-in ポリシーを変更できるかを設定する。
Password Policy <input type="checkbox"/> Default Password Only <input type="checkbox"/> During Setup And Configuration <input checked="" type="checkbox"/> Anytime	パスワードポリシーを設定する。
Network Setup	「Network Setup」メニューを表示する。
Intel(R) ME Network Name Settings	「INTEL(R) ME NETWORK NAME SETTINGS」メニューを表示する。
Host Name	本製品の AMT のコンピューター名を設定する。
Domain Name	本製品の AMT のドメイン名を設定する。
Shared/Dedicated FQDN <input type="checkbox"/> Dedicated <input checked="" type="checkbox"/> Shared	Intel ME の FQDN (完全修飾ドメイン名) を OS で認識されるドメイン名と共有するか、ME でのみ使用するかを設定する。
Dynamic DNS Update <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	DDNS プロトコルを使用し、IP アドレスと FQDN を DNS に登録するかを設定する。
Periodic Update Interval	初期値：1440 (変更しない)
TTL	初期値：990 (変更しない)
TCP/IP Settings	「TCP/IP SETTINGS」メニューを表示する。
Wired LAN IPv4 Configuration	「WIRED LAN IPV4 CONFIGURATION」メニューを表示する。
DHCP Mode <input checked="" type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled	ネットワークの DHCP 機能で IP を自動取得するかどうかを設定する。
IPv4 Address	IP アドレスを設定する。
Subnet Mask Address	サブネットマスクを設定する。
Default Gateway Address	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
Preferred DNS Address	DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
Alternate DNS Address	代替 DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
Activate Network Access	ME セットアップで設定した値を反映させ、Intel ME をサービス提供状態にする。 ME セットアップで必要な設定を行った後でこの項目を選択すると、メッセージが表示されるので【Y】を押す。一度実行するとこの項目は非表示となる。 再表示させる場合は、「Unconfigure Network Access」を選択し、「Full Unprovision」を実行する。
Unconfigure Network Access	Intel ME サービスを提供前の状態に戻し、ME セットアップの設定をご購入時の状態に戻す。

□選択肢 ■初期値

設定項目	備考
Remote Setup And Configuration	「AUTOMATED SETUP AND CONFIGURATION」メニューを表示する。
Current Provisioning Mode	現在のプロビジョニング TLS モードを表示する。
Provisioning Record	PKI/PSK プロビジョニング記録データを表示する。

# 7

## 第7章

### トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1. トラブル発生時の基本操作 .....	161
2. トラブルシューティング .....	163
3. それでも解決できないときは .....	171

## 1. トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。なお、ディスプレイ、USB キーボード、USB マウスを接続した状態でご確認ください。

### 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在の製品の状況を確認しましょう。

### メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

### 製品や周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず製品や周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありますか？
- 他の電器製品を接続して動作するか確認してください。OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありますか？
- 他の電気製品を接続して動作するか確認してください。使用する装置の電源はすべて入っていますか？
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？  
キーが押され、製品が正常に動作しないことがあります。

このほか、「起動・終了時のトラブル」(→P.163)の「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

### 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
  - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。  
発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

### トラブルシューティングで調べる

「トラブルシューティング」(→P.163)は、トラブルシューティングが記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

## 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。

まず BIOS の起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容や製品の環境によっては長時間かかる場合があります。

### 重要

- ▶ 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
- ▶ 電源の切り方は、「電源を切る」(→P.30)をご覧ください。
- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。  
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(→P.148)をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。  
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。
- ▶ 診断プログラムは、Bluetoothのキーボードおよびマウスでの操作ができません。USBキーボード/USBマウスを用意してください。

1 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。

2 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。

### POINT

- ▶ BIOSセットアップの「起動」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。  
BIOSセットアップについては、「BIOSセットアップ」(→P.140)をご覧ください。
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、すぐに【F12】キーを押してください。
- ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を切ってからもう一度操作してください。

3 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的に製品が再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

- トラブルが検出されなかった場合  
【Enter】キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。  
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6へ進んでください。
- トラブルが検出された場合  
手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押して製品の電源を切ってください。  
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

7 診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

電源が切れ、診断プログラムが終了します。

## 2. トラブルシューティング

トラブルシューティングの対処を実施しても改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

### 起動・終了時のトラブル

#### Q ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
    - ・メモリのテストエラー  
メモリが正しく取り付けられていないか、本製品でサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。  
メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。  
メモリが正しく取り付けられているか確認してください。
- 上記のことを確認してもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

#### Q メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「エラーメッセージ一覧」（→P.169）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。  
上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本製品が故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

#### Q 画面に何も表示されない

- 電源ランプが点灯していますか？  
電源ボタンを押して動作状態にしてください。
- ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。
  - ・ケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
  - ・ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
  - ・複数台のディスプレイを接続している場合、製品本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？  
必ず製品本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。製品本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。

#### Q Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
  - 1.【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。  
この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押し続けて電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。30秒以上待ってから再度電源ケーブルを接続し、電源を入れてください。

##### 重要

- ▶強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

### Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

#### Q ソフトウェアが動かなくなりました

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。

##### 重要

- ▶ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ソフトウェアを強制終了した場合は、フラッシュメモリディスクのチェックをお勧めします。

## Q 頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
  - ・ ウイルス対策ソフトウェアでフラッシュメモリディスクをスキャンする  
定期的にフラッシュメモリディスクをスキャンすることをお勧めします。
  - ・ Cドライブの空き容量が充分か確認する  
Windows のシステムファイルが格納されている Cドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。  
Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
    - ・ ごみ箱を空にする
    - ・ 不要なファイルやソフトウェアを削除する
    - ・ ディスクのクリーンアップを行う
  - ・ フラッシュメモリディスクのエラーチェックを行う  
それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、『管理ガイド』の「バックアップと復元」をご覧ください。システムイメージの復元を行ってください。

## Q Windows やソフトウェアの動作が遅くなった

- 通風孔などにほこりが付着し、本製品の内部が高温になっている可能性があります。
  - ・ 『管理ガイド』の「お手入れ」をご覧ください。本製品のお手入れをしてください。
  - ・ 再起動してください。問題が解決する場合があります。

## Q アプリのヘルプを表示しようとすると「この ms-getstarted を開くには新しいアプリが必要です」と表示されヘルプが表示されない

- 本製品の仕様です。  
本製品では「GetStarted」が含まれていないためです。

## Q 「アクションセンター」の「ノート」が使用できない

- OneNote のクイックノートを起動しますが、OneNote は含まれないため使用できません。

### Windows Update 連携のトラブル

## Q マスター端末が「適用中」のまま機能更新プログラムの適用が終わらない

- マスター端末有りの運用で、WindowsUpdate 連携機能を使って機能更新プログラムを実行したときに、マスター端末が「適用中」のまま機能更新プログラムの適用が終わらないことがあります。この場合、  
運用管理ツール 管理コンソールからスケジューラ機能の実行ログを確認してください。  
確認方法については、『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール ユーザーガイド』 - 「第4章 スケジューラ機能の操作」 - 「実行ログを確認する」をご覧ください。

実行結果が「実行中」の場合は、機能更新プログラムの適用中ですので、お待ちください。  
実行結果が「失敗」となっていた場合は、WSUS サーバーで次の設定を確認してください。

- ・ 機能更新プログラムが承認がされていることを確認してください。
- ・ 複数の機能更新プログラムを承認していないことを確認してください。  
複数の機能更新プログラムを承認していると WindowsUpdate 連携機能が実行されません。

## Q スケジューラ機能でスケジュールを実行したが、設定した時間が来ても実行されない。

- 運用管理ツール サーバ機能をインストールしている管理サーバーで、次のサービスが起動していることを確認してください。
  - ・ 運用管理ツール サーバ機能
    - BzServer2
    - BzSchServer2
  - ・ SQL サーバー
    - MSSQL\$NEBULA2015DB
    - SQLBrowser
    - SQLWriter
    - SQLAgent\$NEBULA2015DB






## スケジューラ機能を使って WindowsUpdate 連携を実行後、運用管理ツール 管理コンソールから端末の「MSUpdate 適用状況」-「パッチ一覧」を確認したところ、適用したはずの更新プログラムの一覧が表示されていない

- 端末での更新プログラムの適用は成功しているが、運用管理ツールでの更新プログラム適用済みの情報取得に失敗している可能性があります。端末での更新プログラムの適用状況を確認し、適用されている場合はそのままお使いください。
- 端末での更新プログラムの適用に失敗している可能性があります。端末の適用状況を確認し、適用されていない場合は、端末の Windows Update クライアントの情報をクリアして、再度更新プログラムの適用の実行をしてください。Windows Update クライアントの情報をクリアの詳細情報・手順については Microsoft のホームページをご覧ください。

### 管理画面のトラブル



## 管理画面を表示したときに、入力フォームが表示されない（画面が真っ白になる）

- Internet Explorer でイントラネットサイトを互換モードで表示している場合、管理画面が正常に表示できないことがあります。次の手順で設定を変更してください。
  1. Internet Explorer 11 を起動します。
  2. 画面右上にある ツールアイコン  (設定) → 「互換表示設定」の順にクリックします。「互換性設定の変更」が表示されます。
  3. 「イントラネットサイトを互換表示で表示する」のチェックを外します。
- 本製品に親プロキシサーバーを設定している場合、管理画面が正常に表示できないことがあります。
  1. Internet Explorer の画面の右上隅の (ツール) → 「インターネット オプション」の順にクリックします。「インターネットのプロパティ」が表示されます。
  2. 「接続」タブをクリックし、「LAN の設定」をクリックします。
  3. プロキシサーバーの「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックが入っていることを確認し、「アドレス」にプロキシサーバーの IP アドレス、プロキシサーバーのポート番号が入っていることを確認します。
  4. 「例外」にエッジコンピューティングデバイスの IP アドレス :10080 (管理画面のポート番号) と記載します。  
エッジコンピューティングデバイスの IP アドレスが 192.168.1.1 だった場合  
192.168.1.1:10080  
と入力します。
- 「ステータスランプ」(→ P.8) が点灯していますか？ステータスランプが点灯している場合は、メンテナンス機能が停止している可能性があります。次の手順で、本製品を再起動してください。
  1. 電源ボタンを押します。  
しばらくすると、本製品の電源が切れます。
  2. 電源プラグをコンセントから抜きます。
  3. 30 秒以上待ってから電源プラグをコンセントに付けます。
  4. 電源ボタンを押します。



## 管理画面にログインできない、または、ログイン画面が表示されない

- nginx の設定ファイルについて、IP アドレス設定が間違っている可能性があります。「nginx 設定ファイル変更」(→ P.80) をご覧になり、設定ファイルを確認してください。
- 「NginxService」サービスが起動していない可能性があります。「スタート」ボタン→「Windows 管理ツール」→「サービス」の順にクリックして、サービスが起動していることを確認してください。サービスが登録されていない場合は、をご覧になり、サービスを再設定してください。



## 管理画面の表示が更新されない、表示がおかしい

- 管理画面を表示している端末、またはエッジコンピューティングデバイスのネットワークが切断されていないかご確認ください。正しく接続されている場合は、ブラウザーの画面を更新 (再読み込み) して管理画面を再表示してください。



## 管理画面で処理中のダイアログが消えない

- プロキシに本製品のコンピューター部分の IP アドレスを指定し、本製品のコンピューター部分の IP アドレスをプロキシの例外に設定していない場合、管理画面が正しく表示されないことがあります。  
本製品のコンピューター部分の IP アドレスをプロキシの例外に設定してください。
  - ・ 手動でプロキシを設定している場合  
「手動プロキシ設定」(→ P.83) をご覧になり、プロキシの例外設定を行ってください。
  - ・ 自動構成スクリプト (PAC ファイル) を使用している場合  
PAC ファイルで本製品のコンピューター部分の IP アドレスをプロキシの例外に設定してください。



## エクスポートできない

- 「管理画面設定」の「インポート / エクスポート」で、エクスポートできない場合は、ストレージの空き容量が少なくなっている可能性があります。空き容量が 15GB より少ない場合は、不要なファイルを削除してください。



## インポートできない

- エクスポートしたデータを他のフォルダーに移動していませんか？  
インポート読み込み先フォルダーに、エクスポートしたすべてのデータが格納されていることを、確認してください。

### インターネットキャッシュ機能のトラブル






## ブラウザでページが表示できない

- お使いのセキュリティ対策ソフトによってインターネットキャッシュ機能が正常に動作しない場合があります。この場合は、次のファイルをセキュリティ対策ソフトのチェックから除外してください。  
C:%cygwin64%\$squid%\$bin%\$squid.exe  
C:%cygwin64%\$squid%\$bin%\$squidclient.exe



## 管理画面のキャッシュ一覧が正しく表示されない

- 管理画面のキャッシュ一覧にキャッシュしたデータが正しく表示されない場合は、ブラウザのキャッシュデータを削除してください。  
※OS やブラウザのアップデートにより、手順が変更になる可能性があります。
  - ・ Internet Explorer の場合
    1. Internet Explorer 11 を起動します。
    2. 画面右上にある ツールアイコン  (設定) → 「インターネット オプション」の順にクリックします。
    3. 「全般」タブを選択し、「削除」をクリックします。
    4. すべての項目にチェックを付けて、「削除」をクリックします。
    5. 「OK」をクリックします。
  - ・ Microsoft Edge (Chromium 版) の場合
    1. Microsoft Edge を起動し、 (設定など) → 「履歴」→ 「閲覧データをクリア」の順にクリックします。
    2. 「時間の範囲」で「すべての期間」を選択した後、すべての項目にチェックを付けて「今すぐクリア」をクリックします。
  - ・ Google Chrome の場合
    1. Google Chrome を起動し、 (Google Chrome の設定) → 「その他のツール」 → 「閲覧履歴の削除」の順にクリックします。  
「閲覧履歴データの削除」が表示されます。
    2. 「詳細設定」の「期間」で「全区間」を選択した後、すべての項目にチェックを付けて「データ消去」をクリックします。



## 管理画面のキャッシュ一覧のデータが削除される

- 全キャッシュデータのサイズの合計がキャッシュディスクサイズの上限を超えるとキャッシュした日付の古いデータから順番に削除されていきます。  
削除された場合は、再度、キャッシュしてください。



## 管理画面のキャッシュ一覧に KB (Microsoft Knowledge Base) 番号が表示されない

- アップデート情報取得モジュールはインストール時に設定した時刻に一日一回 WSUS サーバーから KB 番号の情報を取得します。そのため、その時刻以降に WSUS にダウンロードされた更新プログラムの KB 番号は次の日の取得が行われるまで表示されません。



## WindowsUpdate のキャッシュが作られない

- マスター端末および、WindowsUpdate を最初に適用する業務端末の配信の最適化が ON になっている可能性が有ります。配信の最適化は OFF にしてください。



## キャッシュエンジンの初期化後、キャッシュできない

- キャッシュエンジンの初期化を実行すると、管理画面で設定した値が全て削除されます。再度、設定してください (→ P.119)。

### ハードウェアのトラブル

#### ステータスランプ



## ステータスランプが点灯している

- ステータスランプが点灯している場合は、次の手順で本製品を再起動してください。
  - 1.電源ボタンを押します。  
しばらくすると、本製品の電源が切れます。
  - 2.電源プラグをコンセントから抜きます。
  - 3.30 秒以上待ってから電源プラグをコンセントに付けます。
  - 4.電源ボタンを押します。

#### アクセスポイント



## 端末が無線接続できない

- 端末の無線 LAN 設定で、利用できる SSID の一覧に本製品の SSID が表示されない場合は、アクセスポイント部分から無線電波が出ていない可能性があります。  
アクセスポイント部分の無線設定が正しく行われていることを確認してください。
- 端末の無線 LAN 設定で、利用できる SSID の一覧に本製品の SSID が表示されている場合は、次の確認を行ってください。
  - ・アクセスポイント部分の設定で、MAC アドレスフィルタリングが有効な場合、当該の端末が接続可能な設定になっていること。
  - ・アクセスポイント部分の設定で接続端末数を指定した場合、設定した接続端末数より実際に接続している端末の台数がオーバーしていないこと。
  - ・端末の認証キーなどのセキュリティ設定がアクセスポイント部分の設定と合っていること。
  - ・端末の設定で、自動接続のチェックが付いていること。



## AP Management の設定項目が変更できない

- AP Management の設定項目は、通常は変更の必要はありません。  
AP Management の設定項目を変更する場合は、次の手順を実施してください。
  - 1.WEB 設定画面にログインします。
  - 2.「詳細設定」→「管理」→「AP Management」の順にクリックします。
  - 3.ログファイルパスを「/tmp/syslog/messages」に変更します。
  - 4.ログファイルパス以外の項目を設定します。
  - 5.「適用」をクリックします。アクセスポイント部分の RESET で設定を初期化した場合、再度、本手順を実行して設定してください。

WAN

---



## ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
  - ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
    - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
    - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



## 通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本製品に電源ケーブルを接続して電源を入れてください。また、本製品の使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。  
例：1000Mbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる
- ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本製品とネットワーク機器が接続されていることを確認後、製品本体を再起動してください。

その他

---



## 「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」という製品本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。故障ではありませんので、そのままお使いください。

## エラーメッセージ一覧

ここでは、本製品が表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。  
エラーメッセージ一覧には、お使いの製品に搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。  
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

### 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

#### 重要

- ▶ エラーメッセージが表示された場合は、ご購入元に確認してください。対処を行った後にBIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してください。

BIOS セットアップメニューについては、「BIOS」をご覧ください。

キー	役割
<b>B</b>	
Bad RTC Battery	内蔵リチウム電池が取り外されました。
内蔵リチウム電池の電圧低下	
BIOS Settings defaults loaded.	すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。BIOS セットアップの各設定を確認し、正しい値に設定し直してください。
BIOS 設定が標準設定値へ読み込まれました。	起動するたびに本エラーメッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
<b>F</b>	
FAN fault: SYS	SYS ファン動作確認時にファンでエラーが発生しました。接続されているファンが壊れていないか、ファンの電源ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。また、ファンの回転部分にケーブルや異物がはさまっていないか確認してください。確認後、BIOS セットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を実行してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
FAN absent: SYS	
FAN エラー : SYS FAN 未接続 : SYS	
<b>I</b>	
Invalid date / time	日付/時刻がリセットされました。
日付と時刻の設定を確認してください。	BIOS セットアップを起動して、正しい日付/時刻を設定してください。
Invalid Password	誤ったパスワードが入力されました。
パスワードが正しくありません	
<b>K</b>	
Keyboard/Interface Error.	キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30 秒以上待ってから電源を入れ直してください。また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないように BIOS セットアップの「起動」メニューの「キーボードエラー検出」を「使用しない」に設定してください。
キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	
<b>P</b>	
Press <F2> to enter setup or any other key to continue.	POST 中にエラーが発生すると OS を起動する前に本メッセージが表示されます。 【F2】 キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更できます。他のキーを押すと OS の起動を開始します。
<ESC> キーまたは <F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。その他のキーを押すと続きます。	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「互換性サポートモジュール設定」→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

キー	役割
S	
System Disabled.	誤ったパスワードが3回入力されました。
システムは使用できません。	

### 3. それでも解決できないときは

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、「問い合わせ先」をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

#### ファームウェアと BIOS のアップデート

本製品のアクセスポイント部分やコンピューター部分を修理した後に、アクセスポイントのファームウェアや BIOS などがアップデート前の版数になることがあります。弊社ホームページの「ドライバダウンロード」([https://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)) から最新版を入手してアップデートしてください。

#### 問い合わせ先

マニュアルをご覧になっても不明な点がございましたらお問い合わせください。

お問い合わせの前に、製品本体のラベルまたは保証書に記載されている、型名 (MODEL)、製造番号 (SERIAL)、16 桁の数字 (0000-0000-0000-0000) または (0000000-00-0000-000) をご確認ください。

こんなときには	こちらへ
故障かなと思われたとき	<p>ハードウェア修理相談センター  <a href="https://eservice.fujitsu.com/webrepair/">https://eservice.fujitsu.com/webrepair/</a>                      「修理ご相談チャット」で 24 時間いつでも、故障診断、修理費用のご案内から、修理のお申し込みまでできます。</p> <p>お電話での相談が必要な場合は、次におかけください。                      通話料無料 0120-422-297                      受付時間 9:00～17:00 (土曜、日曜、祝日および年末年始を除く)</p>
技術的なご質問、ご相談	本製品に添付の「添付ソフトウェアサポート書」をご覧ください。

# 8

## 第 8 章 付録

1. 仕様.....	173
2. アプリのアンインストール .....	178
3. VESA マウントの取り付け／取り外し.....	179
4. 製品本体の廃棄時の注意 .....	183
5. 廃棄／リサイクル .....	185



## 1. 仕様

### ESPRIMO Edge Computing Edition Z0110/W

#### コンピューター部分

項目		仕様
CPU 注1	名称	インテル® Core™i5-7500T プロセッサ
	動作周波数	2.70 GHz (最大 3.30 GHz 注2)
	コア数/スレッド数	4/4
	キャッシュメモリ	3次: 6MB
チップセット		インテル® Q270
システムバス		8GT/s DMI 注3
メインメモリ		標準 8GB (PC4-2400 DDR4 SDRAM SO-DIMM CL15 ECC なし)
メモリスロット		×2 注4
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics 630
	ビデオメモリ	メインメモリと共用
	解像度/発色数	DisplayPort 最大 3840×2160 ドット/最大 1677 万色
	DirectX	12.0
OpenGL		4.4
ストレージ注5		フラッシュメモリディスク 標準 128GB
セキュリティ機能		
セキュリティチップ (TPM) 注6		あり
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
筐体施錠		あり
インターフェース		
外部ディスプレイ	DisplayPort	2 ポート
	HDMI	1 ポート注7
シリアル注8		非同期 RS-232C 準拠 D-SUB 9ピン ×1 (16550A 互換)
USB 注9		USB3.0 準拠 ×4 (前面 ×2、背面 ×2) 注10
LAN		RJ-45×2 (アクセスポイント部との接続で1ポート使用、取り外し不可)
自己診断 (POST) 時		あり注11
サポート OS		Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSC

本製品の仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 : ソフトウェアによっては、CPU 名表記が異なる場合があります。

・本製品に搭載されている CPU で使用できる主な機能については、「CPU」(→P.175) をご覧ください。

注2 : インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0 動作時。

注3 : DMI は Direct Media Interface の略です。

注4 : 空きメモリスロットは1つありますが、メモリの増設は保証していません。

注5 : 容量は、1GB=1000<sup>3</sup> バイト換算値です。

注6 : チップセット内蔵のセキュリティ機能 (Intel® PTT) を使用することができます。

注7 : 標準添付品のケーブル (DP-HDMI 変換ケーブル) 使用時

注8 : すべてのシリアル対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注9 : すべての USB 対応周辺機器の動作を保証するものではありません。

注10 : USB3.0 の場合、外部から電源が供給されない USB 対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 900mA です。

詳しくは、USB 対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

注11 : 起動時の自己診断 (POST) で異常が見つかった場合に表示されるメッセージについては「起動時に表示されるエラーメッセージ」(→P.169) を参照してください。

アクセスポイント部分

項目	仕様			
WAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠 <sup>注1</sup>			
	インターフェース	RJ-45		
	転送レート	1000Mbps / 100Mbps / 10Mbps		
無線 LAN インターフェース	IEEE 802.11ac 準拠	周波数 / チャンネル	[W52] 5.2GHz (5150 - 5250) : 36 40 44 48ch <sup>注2</sup> [W53] 5.3GHz (5250 - 5350) : 52 56 60 64ch <sup>注2</sup> [W56] 5.6GHz (5470 - 5725) : 100 104 108 112 116 120 124 128 132 136 140ch	
		変調方式 <sup>注3</sup>	OFDM / サブキャリアの数 [VHT20]:56 [VHT40]:114 [VHT80]:242, MIMO	
		転送レート	5.2GHz (W52) 5.3GHz (W53) 5.6GHz (W56) 最大 1733Mbps (VHT80)	
	IEEE 802.11n 準拠	周波数 / チャンネル	2.4GHz (2400 - 2484MHz) : 1- 13ch [W52] 5.2GHz (5150 - 5250) : 36 40 44 48ch <sup>注2</sup> [W53] 5.3GHz (5250 - 5350) : 52 56 60 64ch <sup>注2</sup> [W56] 5.6GHz (5470 - 5725) : 100 104 108 112 116 120 124 128 132 136 140ch	
		変調方式 <sup>注4</sup>	OFDM / サブキャリアの数 [HT20]:56 [HT40]:114, MIMO	
		転送レート	2.4GHz 最大 450Mbps (HT40) 5.2GHz (W52) 5.3GHz (W53) 5.6GHz (W56) 最大 600Mbps (HT4)	
	IEEE 802.11a 準拠	周波数 / チャンネル	[W52] 5.2GHz (5150 - 5250) : 36 40 44 48ch <sup>注2</sup> [W53] 5.3GHz (5250 - 5350) : 52 56 60 64ch <sup>注2</sup> [W56] 5.6GHz (5470 - 5725) : 100 104 108 112 116 120 124 128 132 136 140ch	
		変調方式	OFDM / サブキャリアの数 :52	
		転送レート	54/48/36/24/28/12/9/6Mbps	
	無線 LAN インターフェース	IEEE 802.11g 準拠	周波数 / チャンネル	2.4GHz (2400 - 2484MHz) : 1- 13ch
			変調方式	OFDM / サブキャリアの数 :52
			転送レート	54/48/36/24/28/12/9/6Mbps
IEEE 802.11b 準拠		周波数 / チャンネル	2.4GHz (2400 - 2484MHz) : 1- 13ch	
		変調方式	DS-SS	
		転送レート	11 / 5.5 / 2 / 1 Mbps	
アンテナ		5GHz : Tx4 x Rx4 2.4GHz: Tx2 x Rx2		
セキュリティ <sup>注5</sup>		SSID (ネットワーク名)、MAC アドレスフィルタリング機能 WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 128 ビット) <sup>注6</sup> WPA2-PSK (AES), WPA/WPA2-PSK (AES), WPA/WPA2-PSK (AES/TKIP), エンタープライズ		
無線 LAN 準拠規格	ARIB 標準規格 (日本)			
	IEEE 標準規格	IEEE 802.11 a/b/g, 802.11n, 802.11d, 802.11e, 802.11h, 802.11i		
		IEEE 802.11 ac (Wi-Fi <sup>®</sup> 準拠) <sup>注7</sup>		
		IEEE 802.1D, 802.1Q		
		IEEE 802.3 802.3az, 802.3u		
マルチメディア	Wi-Fi マルチメディア (WMM)			
USB	USB3.0 Type-B (給電用)			
インジケータ	状態表示ランプ			
RESET ボタン	システムリセット			
使用プロトコル	TCP/IP プロトコル			
ネットワーク管理	SNMP V1/V2/V3 トラップ対応 標準 MIB			
その他	無線 QoS、防災 Wi-Fi 対応、44 台同時接続			

注1 : ・ 1000Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。  
 ・ 1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したハブが必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリール 5 (カテゴリール 5E) 以上の LAN ケーブルを使用してください。

注2 : 屋内で使用してください。5.2/5.3GHz 帯の屋外での使用は、電波法により禁じられています (法廷により許可された場合を除く)。

注3 : IEEE 802.11ac を使用する際の無線 LAN アクセスポイントの設定で、VHT40/80 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに VHT40/80 の機能を無効にしてください。

注4 : IEEE 802.11n を使用する際の無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注5 : IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac で接続するためには、パスフレーズ (PSK) を AES に設定する必要があります。

注6 : WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

注7 : Wi-Fi<sup>®</sup> 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance<sup>®</sup>」の相互接続性テストに合格していることを示します。

## エッジコンピューティングデバイス本体

項目		仕様
質量		約 2.4kg
電源/周波数		AC100V±10%、50/60Hz +2% -4% (入力波形は正弦波のみサポート)
消費電力	電源オフ時 <sup>注1</sup>	約 5.7W
	動作時 <sup>注2</sup> (通常時/最大時 <sup>注3</sup> )	約 17W / 約 48W
	最大消費電力	約 75W
定格電流	動作時	最大 1.5A
外形寸法 (突起部含まず)	アンテナをたたんだ状態	W190×D185×H 91.5mm
	アンテナを立てた状態	W 190×D185×H 214.9mm
電波障害対策		VCCI クラス B
国際エネルギースタープログラム <sup>注4</sup>		なし
温湿度条件		温度 10～35℃/湿度 20～80%RH (動作時) 温度 -10～60℃/湿度 20～80%RH (非動作時)

本製品の仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1：消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注2：・ご使用になる機器構成により値は変動します。

・標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。

注3：測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。

注4：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

## CPU

本製品に搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いの本製品本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i5-7500T プロセッサ
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0	○
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○
拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー (EIST)	○
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	○

## インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0 は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

## POINT

▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

## インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM (仮想マシンモニター) をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。

## 拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー (EIST)

拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

## POINT

▶ この機能により本製品の性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。

## エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止 (DEP) 機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること (バッファオーバーフロー脆弱性) を防ぎます。

データ実行防止 (DEP) 機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

## アプリの動作環境

ここでは、各アプリの動作環境と注意事項を説明します。

### アプリの動作環境と注意事項

- 添付のアプリは、本製品と本製品にアクセスする端末でご使用いただけます。
- 動作検証は次の環境で実施しております。  
Windows 10 Pro (64ビット版) version 2004以降、および、Windows 11 で実施しております。
- 各アプリの動作環境と注意事項については、次の表をご覧ください。

名称	動作環境と注意事項
管理画面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象 OS は Windows 10、Windows 11、iPadOS、macOS、Chrome OS です。</li> <li>・対象ブラウザは次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Windows 10 対象ブラウザ：Internet Explorer 11、Microsoft Edge (Chromium 版)、Google Chrome</li> <li>- Windows 11 対象ブラウザ：Microsoft Edge (Chromium 版)、Google Chrome</li> </ul> </li> <li>・画面解像度は 1366 x 768 以上でお使いください。</li> </ul>
インターネットキャッシュ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットキャッシュ機能 V3.1.2 以前のバージョンの場合、Windows 11 で Windows Update を実行するとキャッシュ時にエラーが発生する可能性があります。Windows 11 をご利用時は、アプリアップデートパック V1.0.4 以降のバージョンを適用してインターネットキャッシュ機能 V3.1.3 以降のバージョンにアップデートしてください。</li> <li>・対象ブラウザは次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Windows 10 対象ブラウザ：Internet Explorer 11、Microsoft Edge (Chromium 版)、Google Chrome</li> <li>- Windows 11 対象ブラウザ：Microsoft Edge (Chromium 版)、Google Chrome</li> </ul>           ブラウザによってはキャッシュ機能が利用できない場合がありますので、お客様にて事前に検証を実施した上でお使いください。 </li> <li>・キャッシュによる効果はご使用になるネットワーク環境により異なります。</li> <li>・キャッシュできるプロトコルは http (https は対象外) になります。 ただし、著作権保護されているコンテンツやキャッシュを禁止しているコンテンツはキャッシュできません。</li> <li>・インターネットキャッシュ機能で使用するポートについて、ファイアウォール経由の通信を許可する設定を行う必要があります。</li> <li>・1 ファイル 10GB 以下のデータをキャッシュすることができます。</li> <li>・インターネットキャッシュ機能 V3.1.2 以前のバージョンでは、1 ファイル 5GB 以下のデータまでのキャッシュとなります。</li> <li>・Windows Update の更新プログラムをキャッシュするには、お客様にて Windows Server Update Services (WSUS) サーバーを用意していただく必要があります。</li> <li>・Windows Server Update Services (WSUS) サーバーの OS は Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2019 で動作確認しています。その他の場合は、お客様にて事前に検証を実施した上でお使いください。</li> <li>・Office の更新プログラムでキャッシュできるのは Microsoft インストーラー (MSI) でインストールされた Microsoft Office 2016 です。</li> <li>・Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) からの Windows Update の更新プログラムのキャッシュはサポートしていません。</li> <li>・マスター端末<sup>[注]</sup> / 業務端末においては、配信の最適化は OFF にしてご使用ください。配信の最適化を OFF にしないと、キャッシュデータが作成されない場合があります。</li> </ul> <p>注 マスター端末：Windows Update を最初に適用する端末</p>
アップデート情報取得モジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日に一回 Windows Server Update Services (WSUS) サーバーから Windows Update の更新プログラムの Microsoft Knowledge Base (KB) 番号の情報を取得します。その時刻にエッジコンピューティングデバイスを起動しておく必要があります。取得時刻は変更可能です。</li> <li>・Windows Server Update Services (WSUS) サーバーの OS は Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2019 で動作確認しています。その他の場合はお客様にて事前に検証を実施した上でお使いください。</li> </ul>

名称	動作環境と注意事項
Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>本ツールのクライアント機能は 5 台までインストール可能です。但しエッジコンピューティングデバイスへのインストールが必須のため、その他の端末に関しては 4 台までインストール可能です。</li> <li>WindowsUpdate 連携機能実行の際は、マスター端末<sup>〔注〕</sup>を用意することを推奨します。ご用意いただけない場合は、WSUS サーバーにて更新プログラムが公開承認されてから、本製品に更新プログラムのキャッシュ作成が完了するまで、他の端末の更新プログラムのダウンロード処理は保留される場合がありますのでご注意ください。</li> <li>キャッシュから更新プログラムをダウンロードするためには、マスター端末<sup>〔注〕</sup>と他の端末の OS のバージョンが同じである必要があります。 OS バージョンが異なる場合には、マスター端末<sup>〔注〕</sup>で作成されたキャッシュは使われず、新たにキャッシュが作成されます。</li> <li>機種固有の更新プログラム（ドライバ、ツールなど）の場合は、キャッシュが利用されない場合があります。</li> <li>セキュリティの観点から、マスター端末やエッジコンピューティングデバイスに運用管理ツール 管理コンソール機能をインストールしないでください。</li> <li>動作検証は下記環境にて実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>『運用管理ツール サーバー機能』 Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022</li> <li>『運用管理ツール 管理コンソール機能』 Windows 8.1、Windows 8.1 with Bing、Windows 8.1 Pro、Windows 8.1 Enterprise、Windows 10 Pro、Windows 10 Pro Education、Windows 10 Enterprise、Windows 10 Education、Windows 10 Enterprise LTSB 2016、Windows 10 Enterprise LTSC 2019、Windows 10 Enterprise LTSC 2021、Windows 11 Pro、Windows 11 Pro Education、Windows 11 Pro for Workstations、Windows 11 Enterprise、Windows 11 Education、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022</li> <li>『運用管理ツール クライアント機能』 Windows 8.1、Windows 8.1 with Bing、Windows 8.1 Pro、Windows 8.1 Enterprise、Windows 10 Pro、Windows 10 Pro Education、Windows 10 Enterprise、Windows 10 Education、Windows 10 Enterprise LTSB 2016、Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSB、Windows 10 Enterprise LTSC 2019、Windows 10 IoT Enterprise 2019 LTSC、Windows 10 Enterprise LTSC 2021、Windows 11 Pro、Windows 11 Pro Education、Windows 11 Pro for Workstations、Windows 11 Enterprise、Windows 11 Education</li> </ul> </li> <li>クライアント機能を使用する際のネットワーク環境条件は、以下のとおりです <ul style="list-style-type: none"> <li>- 有線 LAN 環境 100Mbps 以上（1Gbps 以上を推奨）</li> <li>- 無線 LAN 環境 11n（300Mbps 以上） 11ac（6.9Gbps）（推奨）</li> <li>- リモート画面操作機能使用時 1 台あたりの実効速度に、1Mbps 以上（推奨 5Mbps 以上）が必要です。</li> </ul> </li> <li>詳細動作環境は「Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド」-「付録 E 動作環境」をご参照ください。</li> </ul> <p>注 マスター端末：Windows Update を最初に適用する端末</p>
動作状態監視ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>監視対象はご使用される機能に応じて、設定変更する必要があります。</li> </ul>
お手入れナビ	—

## 使用するポート

アプリ名称	ポート番号
管理画面	10080
インターネットキャッシュ機能	8080、3130、443、8000
メンテナンス機能	9200、9300、18080、18081、18090、18091、18092、18093、18094、9600
運用管理ツール	運用管理ツールの使用ポート番号については『Windows Update 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』の「付録 F ご利用に関する制限事項 / 留意事項について（重要）」-「3.1 ネットワーク環境に関する留意事項」-「(3) 利用するポート番号」をご覧ください。

## 2. アプリのアンインストール

---

ここでは、一部のアプリについてアンインストールする方法を記載しています。

### 重要

- ▶ アプリのアンインストールは、推奨していません。トラブルが発生した場合は、作成したバックアップを復元してください。
- ▶ 次のアプリは、アンインストールしないでください。
  - ・管理画面
  - ・インターネットキャッシュ機能

### アンインストールの前の設定

---

#### お手入れナビのアンインストール

---

お手入れナビのアンインストールは、管理者権限のアカウントで行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を表示します (→ P.6)。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリックします。  
「プログラムのアンインストールまたは変更」が表示されます。
- 3 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 4 「お手入れナビ」を選択し、「アンインストール」をクリックします。  
以降は表示された画面に従って操作してください。  
以上でアンインストールは終了です。

#### WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール

---

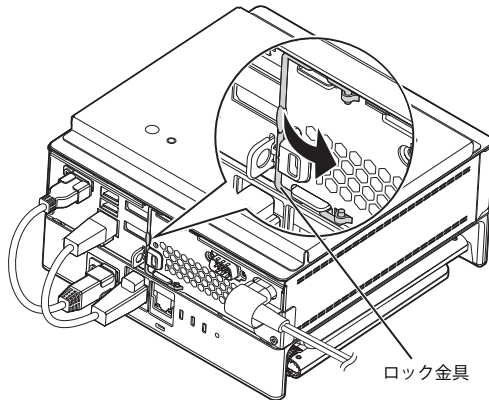
『WindowsUpdate 運用最適化モデル 運用管理ツール セットアップガイド』をご覧になり、アンインストールを行ってください。

### 3. VESA マウントの取り付け／取り外し

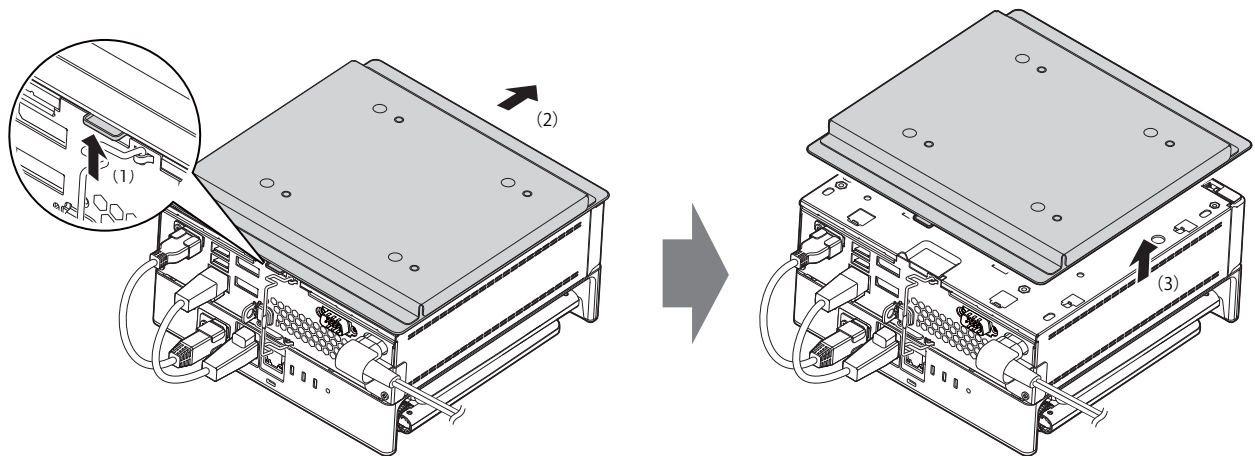
ここでは、カスタムメイドオプションの VESA マウントを取り外してご使用になる場合に、VESA マウントを取り外す手順を記載しています。

#### VESA マウントの取り外し

- 1 本製品の電源を切り、アンテナをたたみます。また、電源プラグをコンセントから取り外した後、専用ケーブルを除く本製品に接続しているすべてのケーブルを取り外します。
- 2 壁掛け金具と本体を固定している固定バンドをほどいて取り外します。
- 3 壁掛け金具から本製品を取り外します。取り外し方法については、壁掛け金具のマニュアルをご覧ください。
- 4 VESA マウントが上側になるように、本製品を置きます。
- 5 本製品背面のロック金具を矢印の向きに動かし、ロックを外します。



- 6 (1) 本製品背面のツメを上押ししながら、(2) VESA マウントを本製品の前面側に (5mm 程度) スライドさせ、(3) そのまま VESA マウントを上持ち上げます。

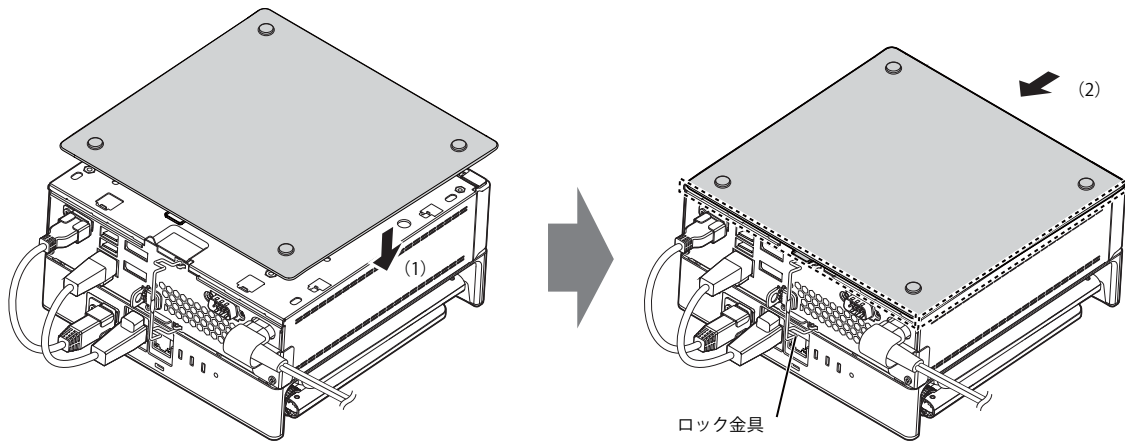


VESA マウントを取り外した後、底面カバーを取り付けてください (→P.180)。

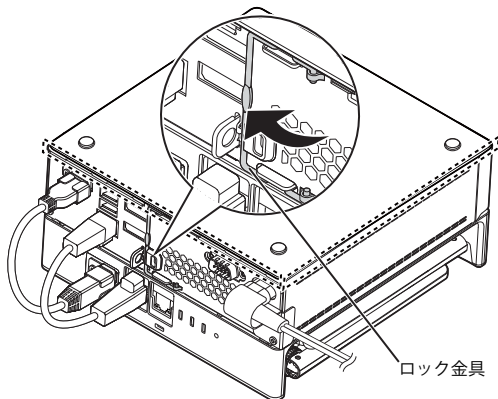
## 底面カバーの取り付け

- 1 (1) 本体のツメ穴に底面カバーのツメがはまるようにまっすぐに下ろし、(2) 本体背面側にスライドさせた後、本体と底面カバーの間にすき間がないことを確認します。

底面カバーのツメが本体に引っかかっていない場合にすき間ができます。この場合は、底面カバーを取り外してこの手順をやり直してください。



- 2 本体背面のロック金具を矢印の向きに動かしてロックします。





## VESA マウントの取り付け

ここでは、VESA マウントを取り外した後、再度、取り付け使用する際の注意事項と取り付け方法を説明しています。

### 注意事項

■ 壁掛けの設置は専門の取付工事業者にご依頼すると共に落下防止措置を講じてください。

壁掛け設置には特別な技術が必要です。必ず専門の取付工事業者へご依頼ください。

本製品の設置に不備があると落下事故などの原因となります。

カスタムメイドオプションでVESA マウントを選択した場合は、本製品に固定バンド（2本）を添付されています。

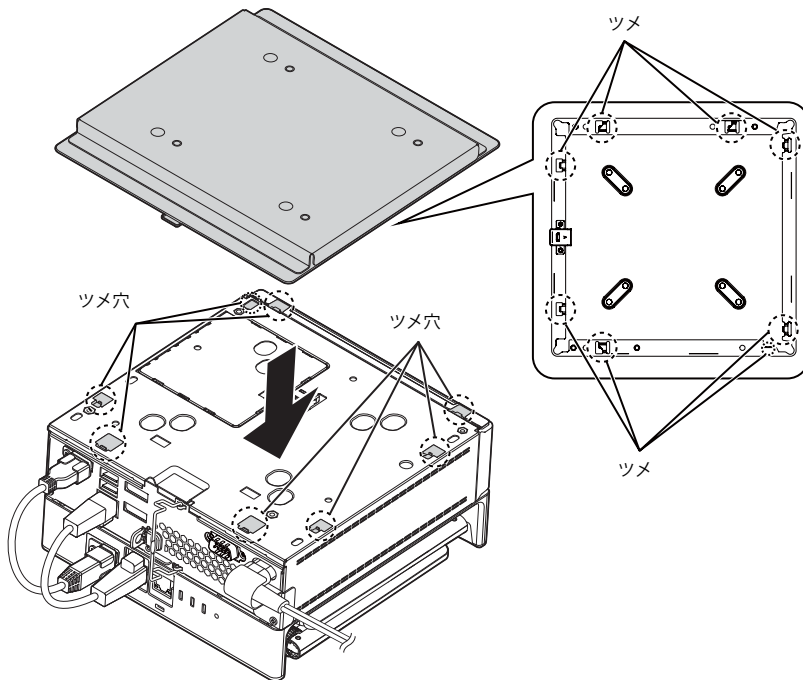
製品本体のセキュリティ施錠金具に固定バンドを通し、壁掛け金具などしっかりと固定された箇所に結び付けて落下防止措置を必ず講じてください。

### VESA マウント取り付け

#### 1 底面カバーを取り外します。

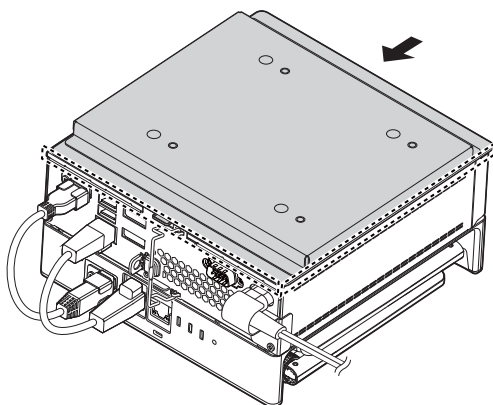
「VESA マウントの取り外し」(→P.179)で「VESA マウント」を「底面カバー」に読み替えて底面カバーを取り外してください。

#### 2 本体のツメ穴に VESA マウント内側のツメがはまるようにまっすぐに下ろします。

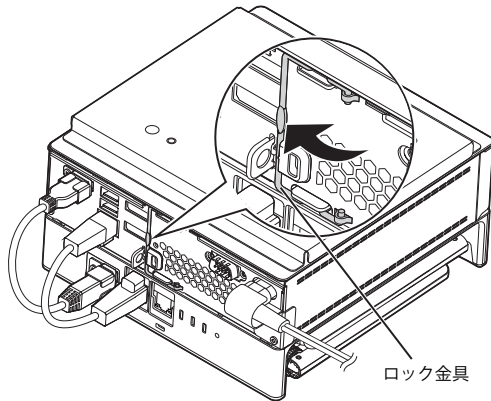


#### 3 VESA マウントを本体背面側にスライドさせた後、本体と VESA マウントの間にすき間がないことを確認します。

VESA マウントのツメが本体に引っかかっていない場合にすき間ができます。この場合は、VESA マウントを取り外して手順2からやり直してください。



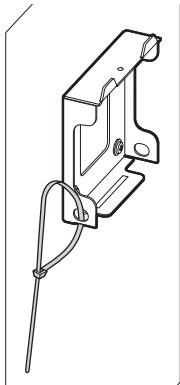
- 4 本体背面のロック金具を矢印の向きに動かしてロックします。



### 壁掛け金具への取り付け

壁掛け金具の取り付けおよび設置については、壁掛け金具のマニュアルをご覧ください。

- 1 壁側の壁掛け金具の穴などに固定バンドを通して輪の状態にします。  
固定バンドが外れない場所に固定バンドを通してください。



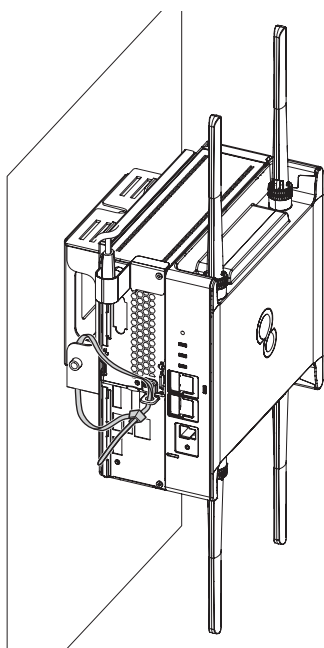
- 2 壁側の壁掛け金具に本製品を取り付けます。

壁掛け金具を取り付けおよび設置については、壁掛け金具のマニュアルをご覧ください。

- 3 固定バンドをほどき、製品本体のセキュリティ施錠金具に固定バンドを通して留めます。固定バンドがほどけないことを確認した後、アンテナを広げます。

#### POINT

- ▶カスタムメイドオプションでVESAマウントを選択した場合、固定バンドが2本添付されています。固定バンドの長さが足りない場合は、壁側の壁掛け金具に通した固定バンドを輪の状態に戻した後、2本目の固定バンドを製品本体のセキュリティ施錠金具と輪の状態にした1本目の固定バンドに通して固定してください。
- ▶本製品背面の各コネクタが使用できるように、固定バンドを取り付けてください。



## 4. 製品本体の廃棄時の注意

ここでは、製品を廃棄するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

### 製品廃棄時のフラッシュメモリディスク上のデータ消去に関する注意

製品は、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらの製品の中のフラッシュメモリディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従って、その製品を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去することが必要です。

ところが、このフラッシュメモリディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ①データを「ごみ箱」に捨てる
- ②「削除」操作を行う
- ③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ご購入時に近い状態に回復するなどの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OS のもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、フラッシュメモリディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、この製品のフラッシュメモリディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

製品ユーザーが、廃棄を行う際に、フラッシュメモリディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、フラッシュメモリディスクに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、フラッシュメモリディスク上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

### 専用ソフトウェアによるデータ消去

本製品には、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、Windows などの OS によるファイル削除やフォーマットと違い、フラッシュメモリディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

### 注意事項

- 製品本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行すると、ディスク内のデータを使用してご購入時に近い状態に回復することはできなくなります。必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前に回復ドライブを作成したりシステムイメージバックアップをとったりしてください。作成方法は『管理ガイド』の「バックアップと復元」をご覧ください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。フラッシュメモリディスクが故障する可能性があります。

## データ消去方法

- 1 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
- 2 起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。

### POINT

- ▶BIOSセットアップの「起動」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。
- ▶BIOSセットアップについては、「BIOSセットアップ」(→P.140)をご覧ください。
- ▶起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、すぐに【F12】キーを押してください。
- ▶起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「電源を切る」(→P.30)をご覧ください。

- 3 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

- 4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的に製品が再起動する場合があります。

- 5 次の操作を行います。

- トラブルが検出されなかった場合  
【Enter】キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。  
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6へ進んでください。
- トラブルが検出された場合  
手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押して製品の電源を切ってください。  
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

- 6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

- 7 「ツール」タブをクリックします。

- 8 「データ消去」にチェックを付け「実行」をクリックします。

表示された画面に従って操作してください。

データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。

### 重要

- ▶データを消去する方式は、必ず「SSD対応（フラッシュメモリアディスク用）」を選択してください。それ以外の方式を選択すると、完全にデータを消去することができませんのでご注意ください。

- 9 「終了」をクリックします。

製品本体の電源が切れます。

### 重要

- ▶電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。

## 5. 廃棄／リサイクル

---

### 本製品の廃棄について

---

- フラッシュメモリアディスクのデータを消去していますか？  
製品本体に搭載されているフラッシュメモリアディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。製品を廃棄するときは、フラッシュメモリアディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。  
フラッシュメモリアディスク内のデータ消去については、「製品本体の廃棄時の注意」（→P.183）をご覧ください。
- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。  
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/>）をご覧ください。

---

ESPRIMO Edge Computing Edition Z0110/W

導入ガイド

B6FY-5011-01 Z0-08

発行日 2020年5月  
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。